2025年度　年　報
－自己点検･評価報告書－

天 使 大 学　 看 護 栄 養 学 部
天使大学大学院看護栄養学研究科
天 使 大 学 大 学 院 助 産 研 究 科

自己点検・評価報告書

目　次

１．理念・目的・・・

１．理念・目的

担　当：　宗務委員会

本年度の活動目標	１．建学の精神の浸透とキリスト教的精神に基づく人間の育成を図る。 ２．教職員に対し教育理念の具現化を目指す。 ３．カトリックの精神に基づく宗教的環境を整備する。 ４．カトリックの精神に基づく研修会への参加・助成をする。 ５．宗教的行事の内容調整をする。 （大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄） 基準１　理念・目的　①、② （中期計画戦略目標に該当する項番記入欄） Ⅰ－１建学の精神の浸透
活動内容の評価	１．建学の精神の浸透とキリスト教的精神に基づく人間の育成を図る。 １）学生及び教職員を対象とする宗教的行事について ［活動内容］ ①神父の退職に伴い学部・助産の「建学の理念正課外教育マニュアル」を見直し、2025 年度から修養会の中で実施していたミサに代わる「感謝の祈り（祈りと内省）」を実施した。修養会担当教員と連携し、各学年のテーマを確認して聖書の言葉を選び修養会での体験と聖書の言葉が繋がるように工夫した。 ②イースターの集いを企画・運営した。特に学生代表に依頼して学生役割者等の協力得て実施した。また、イースタープレゼント（クッキー・お茶等）を配布した。 参加状況：看護・栄養１年はほぼ全員参加、看護・栄養２・３・４年は約 150 名（昨年：約 40 名）の参加数であった。 ③クリスマスの集いを初めて葦の会と連携して実施した。また、クリスマスプレゼント（バームクーヘン・お茶等）を配布した。 参加状況：学生 132 人（昨年：113 人）、教職員 47 名（昨年 22 名）全体で 179 名（昨年 135 名）の参加数であった。 ④卒業・修了感謝のミサを企画運営した。北 11 条教会で、午後開催予定。 ⑤その他の宗教的行事（死者追悼ミサ・クリスマス点灯式、国家試験前の祈り等）の企画運営を行った。 ２）学生のみを対象とする宗教的行事について ［活動内容］ ①学生満足度調査の結果を踏まえ、各学科支援教員と連携して参加促進を図った。 ②宗教講話については、「キリスト教学概論」で実施されている。 ③「感謝の祈り」について、学部１年生は出会いと親睦ゼミの中で、学部２年生はステップアップセレモニーと戴帽式前の修養会の中で、学部３・４年生は人間形成とキャリアデザインの中の修養会で、助産研究科２年生は修了前修養会の中で「感謝の祈り（祈りと内省）」を行った。 ［活動内容に対する自己評価］ ・イースターおよびクリスマスの集いにおいて、学生・教員の参加者数が前年より増加した。 ・修養会での「感謝の祈り」では、学生からは「自分自身を見つめ直す機会となった」等の感想が寄せられた。 ２．教職員に対し教育理念の具現化を目指す。 １）教職員のみを対象とする宗教的行事 ［活動内容］ ①新規採用教職員に対する建学の精神と宗教的行事などの説明会（オリエンテーション）を実施した。 ②教職員修養会の講話とミサの企画・運営をした。 講話：テーマ：「いのち」への門ーキリスト教の死生観 講師：上智大学神学部教授　片山はるひ 感謝のミサ：山谷篤神父様　北 11 条教会フランシスコ修道院院長 対象教職員 103 名 出席者 74 名（昨年 80 名）、出席率 71.8%（昨年 77.7%） 講義・業務等で出席できない教職員には録画映像を Google Classroom に配信した。 ［活動内容に対する自己評価］ ・片山はるひ教授の講演について 「絵画・文学・聖書解釈を融合した内容で、難解な宗教概念を分かりやすく伝え、

	キリスト教理解および死生観への考察を深める機会として、理解しやすい内容であった」との高い評価を得た。 ・山谷篤神父様のミサについて 「日常業務から離れて心を落ち着かせ、自身の行いや使命を振り返る貴重な時間であった」との意見が多数あった。また、神父様による厳かな雰囲気の司式および印象深い説教について、参加者から高い評価が得られた。 ・企画・運営について 修養会の企画・準備・運営に対する感謝の声が多く寄せられ、全体として運営満足度は高かった。また、参加できなかった教員から、授業との重複を避けた日程調整を求める意見があった。 ３．カトリックの精神に基づく宗教的環境を整備する。 １）学内及びチャペル等の環境整備について ［活動内容］ ①チャペルに生花を飾った。 ②チャペル、学生・正面玄関にクリスマスツリーを設置した。 ③クリスマスキャロルを昼休みに流しクリスマスに向けての雰囲気作りを行った。 ２）宗教的行事のための物品調達 ［活動内容］ 中庭の庭木に取り付けるクリスマスツリーのイルミネーションが経年劣化により配線の接触不良や断線してしまう部分が発生しているため、予算要求をした。 ［活動内容に対する自己評価］ キリスト教の精神に基づくカトリック大学として、本学の宗教的環境が整っていることが評価できる ４．カトリックの精神に基づく研修会への参加・助成をする。 １）「2025 年度カトリック医療関連学生セミナー」の学生参加について 今年度は本学学生に応募案内をしたが、参加者がいなかった。 ［活動内容に対する自己評価］ 次年度は、日本カトリック医師会および教員と連携し、学生への周知・案内を進めていく。
次年度への課題	１．カトリック精神を涵養する正課外の宗教的行事への学生・教員の参加率を上げる。 ２．教務委員会との調整を密にして、特にイースターの集い、クリスマスの集いは、授業予定表の行事欄に記載する。 ３．ミサ司式を執り行う神父様を確保する。フランシスコ修道会（カトリック北 11 条教会）等に協力依頼し連携強化を図る。 ４．新任教職員への建学の精神の理解を図るための企画運営を継続する。 ５．宗教的環境を整備する。 ６．カトリック精神に基づく研修会・セミナーへ積極的に参加を促す。

２．教育課程

１）教育課程の運営

担　当：　教務委員会

本年度の活動目標	－2025 年度活動計画書から－ １．ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）到達に向けた教育の展開 ２．学修成果の可視化 （大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄） 基準４：教育課程・学習成果　①～③、⑥ （中期計画戦略目標に該当する項番記入欄） Ⅲ：看護栄養学部における学習成果の向上及び教育質保証の推進　Ⅲ－１・２
活動内容の評価	〔2025 年度活動報告〕 【中期計画Ⅲ-１】ディプロマ・ポリシー（DP）到達に向けた教育の展開 １．適正なカリキュラム運用及び評価・改善 （１）成績評価方法の検討 →教学マネジメント委員会からの課題提起を受け、成績評価の偏りについて審議を行った。大学の成績評価は目標準拠評価（絶対評価）が基本であり、相対評価ではないとの認識を共有した。その上で、以下の取り組みを行った。 ・新教務システムの導入により、これまでの「評語（A、 B、C 等）」の入力から、「素点（点数）」の入力・管理が可能となり、より詳細な分析ができる環境が整う。 ・GPA の活用状況の点検: 奨学金選考や進級・卒業判定など、現在 GPA を活用している項目を点検した。算出対象科目の違いによる懸念については、大きな問題がないことを確認した。 （２）非常勤講師担当科目の担当者の検討 →教学マネジメント委員会から、医師が担当する科目を基幹教員が担当するなど科目担当者についての検討課題が示され、検討した。 ·看護学科では、学習内容の順序性をより適切に整える観点から、「病態診療学」の見直しの必要性が議論された。その結果、新カリキュラムにおいて本科目の順序性を見直すこととした。 （３）学生及び教職員への DP 及びシラバスの周知 →教学マネジメント委員会から科目の到達目標や DP との関連性の周知の必要性について課題提起があり、検討した。 ・各学科の新入生オリエンテーションおよび各学年のガイダンス時に、DP、カリキュラムルーブリックについて周知した。 ・各科目の初回授業で、科目到達目標と DP の関連を説明するように周知徹底した。 ・シラバス作成要領の改訂: 2026 年度に向け、Google スプレッドシートを用いたシラバス作成・修正へ移行するとともに、「第 1 回授業でシラバスを読ませ、科目目標と DP の関連性を説明すること」を教員へ求めることとした。 （４）履修登録及び成績公開の運用改正 ・2026 年度に向けて、履修登録期間、履修取消期間および成績公開のスケジュールについて、学籍異動や就職活動への影響を踏まえ、全学科・全学年で可能な限り統一した。 （５）履修者数が少ない科目の非開講措置の検討 ・履修登録者数が 0 名の 2 科目について、非開講措置および担当講師の委嘱取消を行った。今後、数名の履修者であっても開講するのかについて、教務委員会での

議論を継続する。

（６）試験実施ルール等の検討

・ 試験運用の現状: 2025 年度は定期試験期間を設けず、授業内または授業外での臨時試験とする方針を確認した。また、2026 年度に向けて、履修要項の記載内容との齟齬を埋めるため、試験運用の在り方を見直した。

（７）既修得単位制度の改正：次年度、あらためて検討する。

〔自己評価〕

・成績評価の適正化に向け、本学の評価は目標準拠評価（絶対評価）であるという認識をあらためて共有した。また、GPA の運用状況を点検し、現時点で大きな問題がないことを確認するとともに、より適正な評価を行うため、素点管理の導入を 2026 年度から開始することを決定した。2026 年度から新教務システムを稼働するのにあわせて、履修登録や成績公開など、教務運営の基盤整備を進めることができた。

・学生に対しては、ガイダンスにおいて DP およびシラバスの内容を周知することができた。次年度は、非常勤講師に対して、シラバス作成時に DP との関連をより具体的に意識できるよう改善を図るようにする。

・非常勤担当科目の配置の見直し、不開講科目の取扱い、試験実施ルール、既修得単位認定制度の改正については、引き続き協議を行う。

２．学修支援の強化

（１）入学前教育の強化

・入学前教育ワーキンググループを組織し、入学予定者の不安を解消し大学での学びや学生生活を安心してスタートできるようにするための学習プログラムを検討した。天使みらい入試（総合型選抜）・学校推薦型選抜合格者を対象に、2026 年 1 月 31 日（土）13:00～16:00 の日程で、本学にて「入学前学習課題に関する質問会」を企画した。内容としては「入学前学習課題に関する質問」の他にも、学長・学科長のあいさつ、グループワークなどを実施した。申込者数は 46 名、実際の参加者数は 43 名であった（当日、大雪による JR の運休で参加できない者もいた)。

（２）新入生オリエンテーションプログラムの一部改正及び資料の電子化

・デジタル化の推進:新入生オリエンテーション時に、ノート PC の持参を必須として、オリエンテーション資料の多くを電子ファイルで配信した。

（３）各種手続に関する Web 化の推進

・新教務システムの導入準備:2026 年度からの新教務システム稼働に向け、学生の利便性を高めるためにカスタマイズした新システムを本学独自に構築した。

（４）電子テキスト導入の検討

・各学科・科において導入の必要性を検討するとともに、その実現可能性について今後教務委員会で協議する。

（５）合理的配慮の点検

・今年度は改正すべき課題を特に議論しなかったが、今後あらためて点検する。

〔自己評価〕

・入学前教育および学修支援の強化の一環として、今年度、初めて「入学前教育課題の質問会」を実施した。入学前課題に関する質問への対応に加え、グループワーク等を行い、大学や学科について理解を深める機会となった。また、入学予定者同士の交流も図ることができた。これにより、学修への動機づけや入学後の不安の軽減につながったと評価している。

	・オリエンテーション資料の電子ファイル化については特段の不都合は確認されず、改善につながったと評価できる。また、学生の利便性向上を目的として、本学独自にカスタマイズした新教務システムの 2026 年 4 月稼働を控え、教務運営の基盤整備を進めたことは評価できる。 【中期計画Ⅲ－２】学修成果の可視化 １．ディプロマ・ポリシー到達度評価及び改善 （１）学生調査又はヒアリング方法の点検（教学マネジメント委員会から課題提起） ・これまで実施してきた「学生による到達度評価」の結果を踏まえ、カリキュラム改正に向けて必修科目等の見直しを検討した。今後は、学生の意見をどのように取り入れ、具体的な改善に活用していくかについて検討する。 （２）学生による到達度評価及び教員の科目評価の改正 ・学生による到達度評価については、カリキュラム改正と合わせて到達度評価の方法について改正する方向で検討することとした。 ・教員の科目評価については、質問項目を抜本的に見直すとともに、学生からの「授業アンケート」と抱き合わせで実施することとした。また、学生からの評価が低い項目には、必ず改善案を記入させるなど、授業改善に資する方向で修正を進めた。 〔自己評価〕 ・カリキュラムに学生の意見を積極的に反映させるための方法について、十分な検討を行うことができなかった。新カリキュラムにおける到達度評価の方法や、学生へのヒアリングの実施方法については、今後の課題として引き続き検討する。一方で、「教員による科目評価」については質問項目を抜本的に見直し、特に学生からの評価が低い項目については必ず改善案を記載する仕組みとするなど、より実質的な授業改善につながる内容へと修正を進めた点は評価できる。
次年度への課題	１．適正なカリキュラム運用及び評価・改善 ２．生成 AI の活用に関する検討 （１）生成 AI の活用を前提とした新しい教育、評価方法等の在り方の検討 （２）学生・教職員の生成 AI に関するリテラシー教育の強化 ３．学修成果の可視化 （１）学修成果指標（アウトカム）の設定、評価方法の検討 （２）ディプロマ・サプリメント策定に向けた検討

２．教育課程

２－２）看護学科

担　当：　看護学科

本年度の活動目標	**＊2027年度カリキュラム改正に向け、新たな仕組みを取り入れた“自ら学ぶ”カリキュラムを構築する** **１．建学の精神に基づくカリキュラムの実施：現行ｶﾘｷｭﾗﾑの評価と新ｶﾘｷｭﾗﾑの検討** １）2027年度新ｶﾘｷｭﾗﾑ開始に向けて検討し、2026年３月に申請書類を完成させる ・看護学科のｶﾘｷｭﾗﾑの課題の改善と学部全体のｶﾘｷｭﾗﾑ方針とを合わせて検討する ・看護教育ﾓﾃﾞﾙ・ｺｱ・ｶﾘｷｭﾗﾑ改訂版に基づいたｶﾘｷｭﾗﾑの見直しと構築を進める ２）理念教育のあり方を教員間で共有し、学生に浸透させる効果的な方法を検討する ・理念教育の一環としての大学行事や修養会のあり方・意義を確認し、学生への浸透を図る ・新入生に対し、ﾎｰﾑﾙｰﾑやｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ等を活用した自校教育の時間を確保し実施する ３）2020年度改正ｶﾘｷｭﾗﾑの評価を踏まえ、現行ｶﾘｷｭﾗﾑを効果的に運用する ・ｶﾘｷｭﾗﾑﾙｰﾌﾞﾘｯｸの学生への浸透を図り、到達度評価等を活用して改善する ・看護過程、臨床判断能力、地域包括ｹｱの学習状況を評価し、科目間の積み上げを強化 **２．主体性を育てる学生支援の充実：主体的学習のための環境整備と学習習慣の獲得** １）ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ、ICTを活用し、自らの探求心に基づく学習が増加するよう促す ・ﾃﾞｰﾀ分析の結果を活かした教育改善を検討し、基本的学習習慣の獲得と学力向上を図る ・自身の学習意欲を高めることができるよう、成績とGPAの効果的な通知方法を検討 ・学習効果を高める施設設備・備品を確認し、長期的な実習室の整備・購入計画を立案 ２）全人的理解を基盤にした臨床判断能力強化のために病態と看護の連動を検討する ・病態の学習を効果的に看護と連動できる科目、臨床判断能力強化の検討ﾁｰﾑを作り、検討する ・臨床判断能力の基礎となる知識を確実に積み上げができるような学習支援を強化 ３）学習支援と生活支援の役割分担と教員の連携による適応困難な学生への支援を強化する ４）生涯学習の意識を育てる授業や日々の関わり、卒業生の支援を検討する **３．教員の教育・研究能力の強化と研究推進の体制づくり** １）研究推進体制強化のため業務の見直し、研究時間の確保、成果の公表を推進する ２）新任教員の育成や研修等指導・支援体制について検討、実施する ・助教や新任教師を支援する体制をつくる **４．教育指導体制の充実：PDCAに基づく学科活動の推進、教育の質保証体制の構築** １）認証評価に向け、大学の特色と学習成果の達成の評価と改善サイクルを意識する ２）学部の充実と大学院の発展に向け、将来計画を視野に教員体制を構築する ３）教員業績評価を活用した教員の目標管理、自己評価により教育研究実績を積上げる **５．学生定員確保のための戦略の検討、長期的展望に基づく計画立案と各部署との連携** １）将来ビジョンを明確にし、本学の特徴・アピール点を浸透させる方法を検討する ｶﾘｷｭﾗﾑ改正および入学者選抜方法の見直しを、時間的予測をもって計画的に検討する （大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄 基準４：教育・学習①～⑥、基準６：教員・教員組織①～④、基準７：学生支援①② （中期計画戦略目標に該当する項番記入欄） Ⅱ－３　ＦＤ・ＳＤ活動の充実、強化、Ⅴ－１　学部・大学院の将来ビジョンの再構築 Ⅵ－２　入学者選抜への対応、Ⅶ－１　学生支援策の充実、Ⅶ－２　健康管理面の支援

	Ⅶ－３ キャリア支援の充実・強化
活動内容の評価	**１．建学の精神に基づくカリキュラムの実施：現行ｶﾘｷｭﾗﾑの評価と新ｶﾘｷｭﾗﾑの検討** **１）〔活動内容〕**2027 年度改正カリキュラムについて、学部カリキュラム委員会とともに検討し、新カリキュラムをほぼ形にすることができた。2026 年３月中の申請書類の完成は難しい状況であるが、５月には変更承認申請が可能となる見通しである。 **〔評価〕**学部全体としての検討と合わせ、１・２年の探究学習の積み上げ、３・４年の研究科目の積み上げという学科の新たなプログラムの導入について検討できた。今後、モデル･コア･カリキュラムも踏まえ、新カリの具体的内容や運用を検討する必要がある。 **２）〔活動内容〕**理念教育について、１年生には親睦ゼミ、キャリアデザイン等で、更に２年生の戴帽式、各学年の修養会をとおして建学の精神と意義を学生に伝えた。 **〔評価〕**修養会、戴帽式の意義を学生と確認し目標に向かい実施できたと評価する。一方、大学行事をとおして建学の精神を考える・具現化するための検討が必要である。 **３）〔活動内容〕**現行カリキュラムを効果的に運用するために、各領域において看護過程、臨床判断能力の強化を意図した講義・演習の展開、実習が実施された。 **〔評価〕**上記を意図した講義や新しい演習プログラムの作成と導入、実習が各領域で実施されているのは評価できるが、学科全体の積み上げについては検討課題である。 **２．主体性を育てる学生支援の充実：主体的学習のための環境整備と学習習慣の獲得** 2025 年度卒業生：98 名、就職 80 名、進学 15（保８、助７）名、就職せず２(+１)名 ３月末在籍状況：１年 101（退学３・休学１）名、２年 100（休学２）名、３年 103（退学２・休学２）名、４年 98（退学２）名、国家試験合格者 96 名（合格率 98.0%） **１）〔活動内容〕**各授業でアクティブラーニングや ICT の活用、課題等により学習時間を増やす工夫をしている。また、実習室の環境整備は継続して行っており、新しいベッドの配置など整備計画も示されている。一方、学習習慣の獲得という点では、１年生の専門基礎科目で再試験者が多く出るなど懸念される状況となっている。 **〔評価〕**主体的学習のための授業は工夫され、実習室など自主学習の場は整備されつつあるが、教室が狭くアクティブラーニングを展開する環境整備の課題は改善できていない。１年生など低学年の学習習慣の定着について、対策を講じる必要がある。 **２）〔活動内容〕**今年度も全人的理解を基盤にした臨床判断能力を強化するために、電子カルテやモデルの活用、振り返り等の工夫を行い、学習を促した。新カリキュラムに向けては、病態と看護の連動について病態学習検討グループにて検討を行った。 **〔評価〕**各領域で ICT の活用が進んでおり、講義・演習などで展開できたと考える。新カリキュラムの病態と看護を連動させた科目の具体的な展開方法は継続課題とする **３）〔活動内容〕**支援教員と教務係との協働により、学生の適応を把握し支援を行った。学習や健康状況を考慮した実習配置や実習準備状況を把握した上での指導を行った。 **〔評価〕**個別支援により学習を継続できる学生がいる一方、退学･休学者は昨年度よりも微増となった。基本的な学習態度に課題のある学生もおり、学習意欲を育む必要がある **４）〔活動内容〕**今年度もキャリアデザインの授業で大学院や生涯学習の内容を盛り込み、大学院生から大学院での学びやキャリアアップについて聴く機会を設けた。 **〔評価〕**引き続き、生涯学習の意識を育て、学生に刺激を与えていく必要がある。 **３．教員の教育・研究能力の強化と研究推進の体制づくり** **１）〔活動内容〕**博士後期課程在学等による研修日の取得を可とした。科学研究費助成事業について、看護学科の 2025 年度の採択数は新規３件、継続６件であった。2026 年度の申請は基盤研究（B）１件、基盤研究（C）９件であった。天使大学特別研究費は１件が採択された。学会参加や発表は多くの教員が取り組んだ。

	〔評価〕研修日の確保については、教員の状況により違いが生じている現状がある。また、教育や大学運営等に費やす時間が多く、研究時間を確保しにくい状況は依然として続いている。業務の見直し、各種会議の回数を減らす・時間短縮を図るなど、研究時間の確保に引き続き努める必要がある。科研の申請は年々増加し、採択されていることは評価できる。今後も研究への取り組みと論文投稿数の増加が課題である。 **2）〔活動内容〕**新任教員の育成や研修等指導・支援体制について検討したが、助教や新任教員を支援する組織的な体制を整備するところまでは至らなかった。 〔評価〕教員間での情報交換や各領域での対応に任されている状況となっているため、体制の整備については今後も課題とする。 **4．教育指導体制の充実：PDCA に基づく学科活動の推進、教育の質保証体制の構築** **1）〔活動内容〕**2025 年度大学基準協会第４期認証評価を受審し**適合**の評価を受けた。 〔評価〕看護学科としては、改善課題の指摘などはなかった。前年度の看護学教育分野別評価に引き続いて「適合」の評価を受けることができたことは評価できる。 **2）**今年度教員体制は 33 名（教授８名、准教授９名、講師７名、助教８名、助手１名／10 月より助教７名、助手２名)、博士後期在籍５名、産休･育休１名、８月復職１名 **〔活動内容〕**今年度 10 月から翌年３月末までの期間で、産休･育休代替教員の助手を、次年度に向けては母性領域の退職予定者２名の後任として、教授と講師を確保できた。 **〔評価〕**成人看護学領域に新任教員が着任し、病休１名が８月に復職したこと、10 月より産休･育休代替教員を採用できたため、33 名の教員体制を維持することができた。次年度以降も将来を視野にいれた計画的な教員体制の構築を図っていく必要がある。 **3）〔活動内容〕**看護学科長が交代し、教員業績評価を活用した教員の目標管理の確認等まで着手することが困難であった。各教員が教育研究の実績の積み上げを図った。 〔評価〕教員業績評価を活用した学科としての推進活動が不十分であり、課題が残った **5．学生定員確保のための戦略の検討、長期的展望に基づく計画立案と各部署との連携** **〔活動内容〕**オープンキャンパスの模擬講義や出張講義は、輪番制により実施できた。2027 年度改正カリキュラムの検討を行った。応募者増加および本学が獲得したい層の確保のため総合型選抜について検討し､2028 年度入学者より導入することを決定した。 〔評価〕学科全体で広報活動に参加できたことは評価できる。2027 年度改正カリキュラムの内容をまとめ、総合型選抜についても検討できたことは評価できる。次年度は、それらを実施可能なプログラムとして詳細に検討していくことが課題である。
次年度への課題	**1．建学の精神に基づくカリキュラムの実施：現行ｶﾘｷｭﾗﾑの評価と新ｶﾘｷｭﾗﾑの検討** 1）2027 年度新ｶﾘｷｭﾗﾑ開始に向けて、探究学習・研究科目等の詳細を検討し決定する 2）臨床判断能力強化のために病態診療学Ⅰ・Ⅱで看護と連動させた展開を検討する 3）理念教育のあり方を教員間で共有し、学生に浸透させる効果的な方法を検討する 4）現行ｶﾘｷｭﾗﾑを効果的に運用するとともに、新ｶﾘｷｭﾗﾑへの移行計画を立案する **2．主体性を育てる学生支援の充実：主体的学習のための環境整備と学習習慣の定着** 1）ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ、ICT を活用し、自らの探求心に基づく学習が増加するよう促す 2）教員が行う学習支援と生活支援の連携により適応困難な学生への支援を強化する **3．教育の質保証体制の構築：教員の教育・研究能力の強化と教員体制の構築** 1）研究推進体制強化のため業務の見直し、研究時間の確保、研究費獲得を推進する 2）教員業績評価を活用した教員の目標管理、自己評価により教育研究実績を積上げる 3）若手教員の育成や研修等指導・支援体制について検討、実施する 4）学部の充実と大学院の発展に向け、将来計画を視野に教員体制を構築する 5）7 年後の新たな認証評価を念頭に、看護学科の PDCA ｻｲｸﾙの質保証体制を構築する **4．学生定員確保のための戦略の検討、長期的展望に基づく計画立案と各部署との連携**

	1）将来ﾋﾞｼﾞｮﾝに基づいた新ｶﾘｷｭﾗﾑと本学の特徴を対外的に明示できるよう検討する 2）2028 年度入学生から導入予定の総合型選抜について、計画的に検討を進める

２．教育課程

３）．栄養学科

担　当：栄養学科

本年度の活動目標	１．正課教育、正課外教育（修養会等行事を通したカトリック大学としての理念教育）の充実 ２．就職支援対策の充実 ３．研究活動および社会・地域貢献の一環として地域連携の推進 ４．天使大学栄養学科への受験者増に向けた対策 （大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄） 基準４　教育課程・学修成果　①③④⑤⑥ 基準５　学生の受け入れ　③ 基準６　教員・教員組織　③ 基準７　学生支援　①② 基準９　社会連携・社会貢献　① （中期計画戦略目標に該当する項番記入欄） Ⅱ：質保証の推進　Ⅱ-3（１） Ⅲ：看護栄養学部のおける学習成果の向上及び教育質保証の推進　Ⅲ - 3（１）（２） Ⅴ：教育に関するビジョンの構築　Ⅴ-１（２） Ⅵ：学生募集・学生受け入れ態勢の充実　Ⅵ－１（１） Ⅶ：包括的な学生支援策の充実　Ⅶ－１（１）　Ⅶ－2（２）Ⅶ - ３（３）
活動内容の評価	**１．正課教育、正課外教育（修養会等行事を通したカトリック大学としての理念教育）の充実** **［活動内容］** １）専門教育科目について ・新カリキュラムの充実を図るために、新カリキュラムの評価・検討は学部カリキュラム委員が中心になり実施した（継続）。 ・教育効果を高める授業展開を進め、学習成果の測定、カリキュラム評価を実施した（継続）。 ２）臨地実習について ・臨地実習施設の確保と共に臨地実習内容・実習期間の検討を、臨地実習担当教員を中心として学科教員全体の協力体制のもと実施した。 ・臨地実習施設担当者対象の研修会・意見交換会の計画・実施 ａ臨地実習先の指導担当者と学習成果を共有し、今後の教育に役立てることを目的に、2025 年 10 月 20 日 27 日実習報告会をライブ配信した。 ｂ臨地実習施設側と本学との連携強化を進め、学生の学習効果の向上のために、2026 年 2 月 5 日研修会を実施した。 ３）管理栄養士国家試験受験の支援について ・各学年より１名抜粋した国家試験ＷＧのメンバーを中心として支援教員の学習指導、全ての学科教員による対策講義および専門業者等による対策について検討・実施した。具体的な対策として、成績不振者に対し、夏期休暇前より国家試験 WG メンバー、学科長、支援教員（月１、週１、模試前後）による個々の試験対策に向けた個別指導を行った。 ４）正課外教育である修養会や大学行事への参加率の学年差異がある状況を踏まえ、参加を促し、支援教員が中心となり内容の充実（修養会）を図った。 **［活動内容に対する自己評価］**

	1）専門教育科目について ・特に大きな成果はなかった 2）臨地実習について ・臨地実習施設担当者対象の報告会、研修会・意見交換会において、ライブ配信では20施設、研修会では34名であった。例年と比較し大幅に上回る参加者数は、企画・内容の充実による成果と考える。 ・3年生の臨地実習において施設担当者からの学生の実習態度や知識不足等の苦情等はなく、お褒めの言葉を頂いた。昨年度の状況を踏まえた指導内容の検討・指導強化は評価できる。 3）管理栄養士国家試験受験の支援について ・模擬試験1回目の結果後、全ての学科教員による対策講義を全ての学生に実施した。今年度は3回目を除き全国平均点を上回った。6回目においては、全ての科目について平均点を上回ったことは評価される。 ・模擬試験1回目の結果から、成績不振者20名を抜粋し苦手な科目を中心に7・8月から、WGによる個々の試験対策（個々の苦手な科目を重点的に）に向けた個別指導を月1回ペースで行った。模試前では課題の提案を、模試後は自己評価と不得意課題の解決に向けた提案を行い、学生と共に課題へ取り組むことで学生のモチベーションも向上した。学生の進捗状況を確認しながらの指導は効果的だったと考える。 4）正課外教育である修養会に対しては、前年度同様、時間を延長する等、内容の充実を図り、学生アンケートも高評価であった。 **2．就職支援対策の充実について** **［活動内容］** ・学科の就職委員及び学生支援教員と連携して活動を行った。 **［活動内容に対する自己評価］** 就職委員から学内での会社説明会を積極的に実施し、学生への参加を促し、幅広い分野での就職先を開拓した。学生支援教員を中心に個人面接を行い、学生の希望に沿った就職支援（就職相談室との連携のもと）を実施し、特に専門分野ごとに希望する施設の概要、面接指導、提出する書類等のアドバイス等を個別に行った。昨年同様、企業施設からの求人数は少ないながらも求人施設の内定者は天使大学学生がほぼ占めている。2月16日現在の内定率89.0%（前年度2月21日94.0%）と若干減。 **3．研究活動および社会・地域貢献の一環として地域連携の推進** **［活動内容］** ・科学研究費1件の採択、北海道大学 共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）での共同研究を行っている。 ・個人としては論文12件、講演14件、学会発表等8件 ・道民の課題を解決するための共同プロジェクトとしてＨＴＢ、イオン北海道との「どうみん健康化計画プロジェクト」を継続して実施。 ・北海道庁が関係機関と連携して推進する「ほっかいどうヘルスサポートレストラン推進事業」に協力し、登録飲食店等に掲示する栄養・食生活に関する普及啓発ツールを作成し、道民の健康づくりを支援 ・札幌市東区役所と連携して市民の健康づくりを支援-①広報さっぽろ東区版へのレシピ掲載、②東区役所食堂の定食メニューの考案 ・北海道農政事務所と連携し、食育に関する普及啓発ツール（小冊子 - やさしいめぐ

	り）を作成し、道民の健康づくりを支援 **［活動内容に対する自己評価］** 個人の論文や学会等の講演、発表が増えてきたことと、地域連携の推進事業活動が増えてきたことは評価する。 **４．天使大学栄養学科への受験者増に向けた対策について学科で検討を進める** **［活動内容］** ・広報委員を中心に他学科教員と連携して活動を行った。 ・入試広報課と連携し広報委員を中心に総合型選抜試験の準備と実施 ・昨年度作成したオープンキャンパスや高校訪問時用のプレゼンを使用し工夫しながら、出張講義へ積極的に行った。出張講義 3 校、学内模擬授業行け入れ（高校 5 件、中学校 2 件、職業分野別ガイダンス 3 校)、オープンキャンパスみらい講座（8 講座)、進学相談会 4 件について栄養学科教員のべ 26 名が対応した。 ・入学前教育の支援 **［活動内容に対する自己評価］** ・受験者数は昨年並みであり受験者増には繋がらなかった。
次年度への課題	1 正課教育、正課外教育（修養会等行事を通したカトリック大学としての理念教育）の充実 - 2027 年度新カリキュラム開始に向けての準備・完成 2．就職支援対策の充実 - 就職相談室、就職委員、学生支援教員との連携の強化 3．研究活動および社会・地域貢献の一環として地域連携の推進 - 学科全体で行うことが可能な研究の推進を図る 4．天使大学栄養学科への受験者増に向けた対策 - 継続

２．教育課程

３）．栄養学科－教職課程

担　当：教職課程委員会

本年度の活動目標	１．栄養教諭養成のための教育を円滑に実施する。 ２．科目等履修生の栄養教諭免許状取得を支援する。 ３．外部との連携による教職課程の PR と地域貢献を行う。 ４．教職課程の自己点検・評価等を確実に実施する。 ５．ICT 活用能力の向上を図るため、授業における ICT 活用を推進する。 （大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄） 基準３　教育研究組織－②、基準４　教育課程・学習成果－②～⑦ 基準５　学生の受け入れ－①、基準６　教員・教員組織－②、④ 基準７　学生支援－①～③、基準９　社会連携・社会貢献－② （中期計画戦略目標に該当する項番記入欄） 戦略目標Ⅲ―２（２）、戦略目標Ⅶ―３（５）
活動内容の評価	１．栄養教諭養成のための教育を円滑に実施する。 ＜基準４－②～⑦＞　＜基準７－①～③＞　戦略目標Ⅶ―３（５） [活動内容１．１] 現場の栄養教諭による授業（講演）の実施（４年次生対象） [活動内容に対する自己評価１．１] ４年次生対象の「栄養教育実習事前事後指導」と「教職実践演習」で特別講師(現職の栄養教諭)による授業を実施し、現場理解と教員としての自覚を高めた。 [活動内容１．２] 外部との連携による教育の充実 [活動内容に対する自己評価１．２] ３年次生対象の「教職総合演習」において、石狩市学校給食センターでの見学と体験活動、及び特別講師による授業を実施して学生の意識を高めた。特に直近の卒業生による講話は効果的だった。 [活動内容１．３] 北海道大学での農場体験、農作物の収穫・搾乳体験（１年次生対象） [活動内容に対する自己評価１．３] 実地での収穫体験と専門の講師からの講話を聞き、栄養教諭に必要となる食育に関する学びを深めることができました。 今年度は農作物の収穫体験を検討していたが、当日の天候不良により中止となった。 [活動内容１．４] 小学校での夏休みインターンシップ体験（２年次生対象・正課外） ・連携学校:札幌市立の美香保・和光・北光小学校 [活動内容に対する自己評価１．４] 実際の教育現場を視察することで、教育実習に向けた準備を進めるとともに、教職課程を履修する学生の栄養教諭としての自覚を醸成する貴重な機会となりました。

［活動内容１．５］
履修カルテ活用の充実
・履修カルテ活用の点検・充実
［活動内容に対する自己評価１．５］
「教職概論」の授業を活用し、1 年次生に対して履修カルテの記入・活用に関するガイダンスを実施するとともに、適切な記述方法の指導を行いました。さらに、履修カルテを基にした面接を実施し、学生一人ひとりの学びの振り返りを促しました。加えて、4 年次生を対象とした「栄養教育実習事前事後指導」および「教職実践演習」において、履修カルテを活用した授業を実施することで、学生が履修カルテを主体的に活用し、学習の定着や自己省察を深める意識を高めることができました。

［活動内容１．６］
教員採用試験対策ゼミの実施
［活動内容に対する自己評価１．６］
教員採用試験の対策として、ガイダンスおよびゼミを計画し、就職委員会や栄養学科、事務局と連携して実施した。近年、教員採用試験を受験する学生数が減少傾向にあるため、教員職の魅力を学生に理解してもらうことが重要な課題であると認識している。

２．科目等履修生の栄養教諭免許状取得を支援する。
＜基準５－①＞
［活動内容２］
教職課程科目の履修を希望する科目等履修生の受入れと支援
［活動内容に対する自己評価２］
本学の卒業生を受け入れ、栄養教諭免許状取得の単位修得を支援した。

３．外部との連携による教職課程の PR と地域貢献を行う。
＜基準９－②＞
［活動内容３．１］
サッポロさとらんどにおける栄養教育体験・ボランティア活動
（３年次生「教職総合演習」）
［活動内容に対する自己評価３．１］
昨年度に引き続き、サッポロさとらんどと共同で授業を実施し、地域連携活動を推進した。食育に関する展示パネルを作成・展示するとともに、会場で発表を行った。その結果、観客や会場担当者から高い評価を得ることができ、学生にとっても教育的効果の高い学びの機会となった。

［活動内容３．２］
サークル活動やボランティア活動の奨励
［活動内容に対する自己評価３．２］
栄養教諭としてのコミュニケーション力や実践力を高めるため、サークル活動や NPO の活動を通じたボランティア活動や地域連携への積極的な参加を、1 年次から奨励している。今後も引き続き、学生の主体的な取り組みを支援し、実践的な学びの機会を提供していく。

	４．教職課程の自己点検・評価等を確実に実施する。 ＜基準３－②＞　＜基準６－②、④＞　戦略目標Ⅲ―２（２） ［活動内容４．１］ 教職課程 FD 研修会の実施 ・実施日時：2026 年 3 月 2 日 13：30～15：00 ・演題：「学生の『迷い』を『意欲』に変える面談スキル～高校での実践から学ぶ、信頼関係の構築～」 ［活動内容に対する自己評価４．１］ 教職課程委員会では、所属教員が学生との個別面談を実施し、学生が抱える課題の把握および早期解消を目的とした取り組みを進めております。 特に、成績不振や多忙感などを理由に教職課程の履修継続を断念してしまう、いわゆる「潜在的な履修放棄者（ドロップアウト）」を減らすことが重要な課題となっていた。これを解決するため、面談を通じて学生自身も言語化できていない不安や迷いを引き出し、早期に支援へつなげるための具体的なアプローチの方法を学んだ。 ［活動内容４．２］ 自己点検・評価の実施と評価結果の公開 ［活動内容に対する自己評価４．２］ １月下旬～２月上旬にかけて教職課程に係る学生と教員を対象とした自己点検・評価のためのアンケートを実施した。評価結果を３月の委員会で分析し、報告するとともに、３月末頃に、その結果を本学ホームページで公開予定である。また、全国私立大学教職課程協会へ本結果を申請し、自己点検が完了したことの承認を得る予定である。 ５．ICT 活用能力の向上を図るため、授業における ICT 活用を推進する。 ＜基準４　教育課程・学習成果－②～⑦＞ ［活動内容５］ 「教職実践演習」、「教職総合演習」においても ICT を活用した授業を積極的に実施している。 ［活動内容に対する自己評価５］ 教育実習の巡回等で教育現場における ICT 活用事例を視察して得られた情報を共有し、実践に即した授業改善に取り組んでいくことを確認した。
次年度への課題	１．教職課程委員会の行事一覧および担当者の見直しを行い、円滑な体制を構築する。 ２．自己点検評価アンケートの質問項目を見直したことによる結果を分析し、改善を進める。 ３．教職課程を履修する学生との面談をとおして、学生の課題や目標を明確にし、適切な支援を行う。

天使大学　教職課程　自己点検・評価票　（学生用）　集計結果

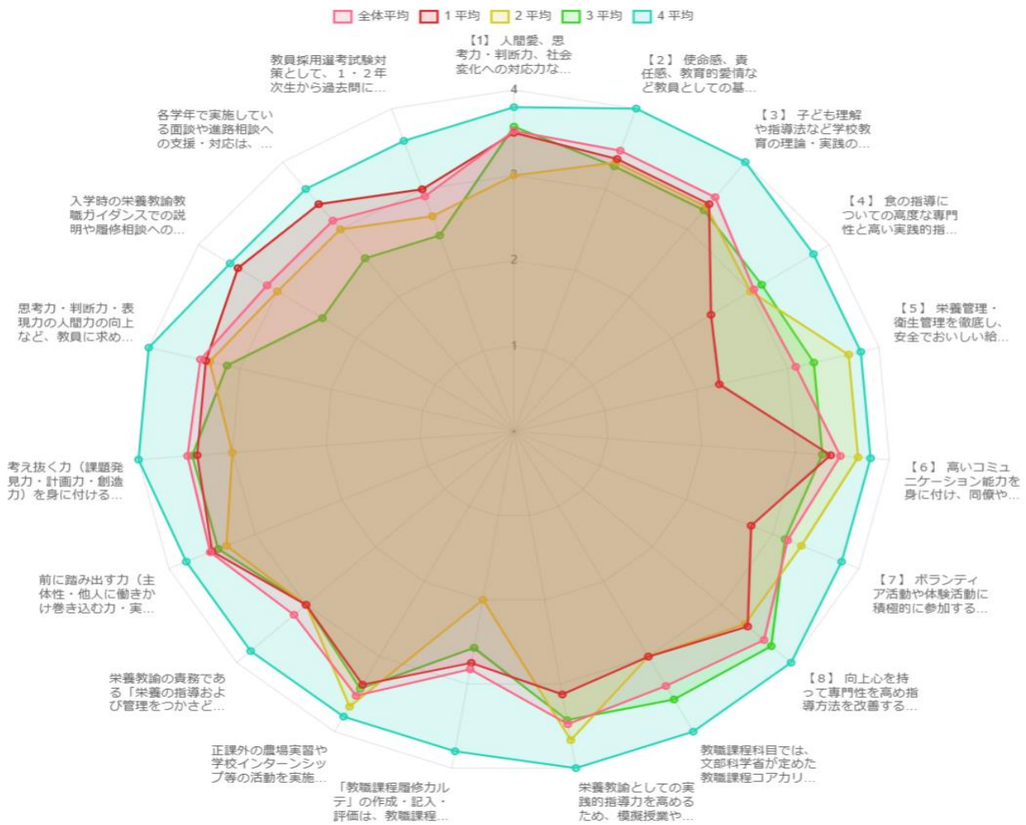
◆この評価票は、教職課程の質保証・向上のために実施するものであり、皆さんの取組状況や学修成果等を把握するためにも活用します。
◆この評価の結果は、個人が特定されない形で本学ホームページ等で公表いたします。

※　評価規準・・・　４：そう思う　３：どちらかといえばそう思う　２：どちらかといえばそう思わない　１：そう思わない

■「評価」の該当数字を一つだけ〇印で囲んでください。また、学年も〇印で囲んでください。　学年：１・２・３・４

No.	大項目	評　価　項　目	評価平均値				
			１年	２年	３年	４年	全体
1	教職課程の目標の達成	教職課程の目標（【1】～【8】）は、文部科学省が示す教員に求められる資質・能力を基に作成し、「教職課程履修の手引」等にも記載されています。 **あなたは、この目標を意識して教職課程の授業・実習等に取り組むことができましたか。**					
2		【1】 人間愛、思考力・判断力、社会変化への対応力などの基礎となる幅広い教養を身に付けることができましたか。	3.5	3	3.6	3.8	3.5
3		【2】 使命感、責任感、教育的愛情など教員としての基本的資質と高い倫理観を身に付けることができましたか。	3.4	3.3	3.3	4	3.5
4		【3】 子ども理解や指導法など学校教育の理論・実践の基礎となる知識・技能を身に付けることができましたか。	3.4	3.3	3.3	4	3.5
5		【4】 食の指導についての高度な専門性と高い実践的指導力を身に付けることができましたか。	2.5	3	3.1	3.8	3
6		【5】 栄養管理・衛生管理を徹底し、安全でおいしい給食を提供する能力を身に付けることができましたか。	2.3	3.7	3.3	3.8	3.1
7		【6】 高いコミュニケーション能力を身に付け、同僚や地域・家庭・関係機関と組織的に連携・協働して課題解決を図ることができましたか。	3.4	3.7	3.3	3.8	3.5
8		【7】 ボランティア活動や体験活動に積極的に参加するなど、社会貢献の意欲と行動力を身に付けることができましたか。	2.8	3.3	3.1	3.8	3.2
9		【8】 向上心を持って専門性を高め指導方法を改善するなど、自律的に学び続ける意欲を身に付けることができましたか。	3.4	3.3	3.7	4	3.6
10	教育課程の編成・実施と学修成果	教職課程科目では、文部科学省が定めた教職課程コアカリキュラムに則した到達目標が設けられています。 **各科目の到達目標に沿った知識や能力を十分に身につけることができましたか。**	3	3	3.6	4	3.4
11		栄養教諭としての実践的指導力を高めるため、模擬授業やグループ活動などアクティブ･ラーニングを多く取り入れた授業を実施していますが、**積極的に参加することができましたか。**	3.1	3.7	3.4	4	3.5
12		「教職課程履修カルテ」の作成・記入・評価は、教職課程を計画的に学び、自己の知識・技術の修得および教員に求められる資質能力を身に付けられたかを確認することを目的に用いられていますが、**「教職課程履修カルテ」は活用できましたか。**	2.8	2	2.6	3.8	2.8
13		正課外の農場実習や学校インターンシップ等の活動を実施するとともに、自主的なボランティア活動を推奨しています。 **これらの活動に積極的に参加できましたか。**	3.4	3.7	3.4	3.8	3.5
14		教職課程科目の学びを通して、栄養教諭の責務である「栄養の指導および管理をつかさどる」ための資質・能力を身に付けることができましたか。	3	3	3	3.8	3.2
15		教職課程科目の学びを通して、前に踏み出す力（主体性・他人に働きかけ巻き込む力・実行力）を身に付けることができましたか。	3.5	3.3	3.4	3.8	3.5
16		教職課程科目の学びを通して、考え抜く力（課題発見力・計画力・創造力）を身に付けることができましたか。	3.4	3	3.4	4	3.5
17		教職課程の授業を通して、あなたは、思考力・判断力・表現力の人間力の向上など、教員に求められる資質・能力を身に付けることができましたか。	3.4	3.3	3.1	4	3.4
18	学生への指導・支援	教職課程を履修するにあたって、入学時の栄養教諭教職ガイダンスでの説明や履修相談への対応は適切でしたか。	3.5	3	2.4	3.6	3.1
19		各学年で実施している面談や進路相談への支援・対応は、適切に行われていましたか。	3.4	3	2.6	3.6	3.1
20		教員採用選考試験対策として、１・２年次生から**過去問による対策講座**を行っています。また、３・４年次生では、**試験対策ゼミ**や外部講師を活用して**面接対策**等を実施しています。あなたの**進路選択において有効に活用できましたか**。	3	2.7	2.4	3.6	2.9

学年別アンケート集計グラフ



【総括】
アンケート結果では、【1】幅広い教養の修得、【2】教員としての基本的資質と高い倫理観の涵養、【3】学校教育の理論・実践の基礎となる知識・技能の修得、さらに【8】自律的に学び続ける意欲の形成について、いずれも平均値が高く、特に学年進行に伴い上昇傾向が見られた。これは、教職課程における基礎教育から専門科目、演習・教育実習へと段階的に学修を積み重ねる体系的なカリキュラムが、教員として求められる資質・能力の育成に結び付いていると考える。

【今後さらなる充実を図る項目について（全体平均3.0未満）】
本アンケートの結果、「教職課程履修カルテ」および「教職採用選考試験対策」のいずれについても、満足度は相対的に低い傾向が見られた。「教職課程履修カルテ」は主として面談時に活用してきたが、日常的な学修の振り返りや目標設定への活用が十分とは言えず、学生自身が主体的に活用する機会が限定的であったと考えられる。また、教職採用選考試験対策では、過去問を用いた対策講座を実施したものの、参加する者が少なく、取組の意義が十分に共有されていなかった可能性があったと分析している。
今後は、カルテを各学年の授業やガイダンスと連動させて活用場面を拡充するとともに、試験対策の周知方法や実施時期を工夫し、早期からの参加促進と内容の充実を図る。

２．教育課程

４）．教養教育科

担　当:　教養教育科

本年度の活動目標	１．初年次教育関連 (1)　英語 習熟度別授業を実施し、各学生の英語力にあった指導を行うことで学生一人一人の英語力の増強を図る。 (2)　共通基礎教育科目 高等学校の教育課程を踏まえ、入学前教育・導入教育をおこなう。 (3)　専門基礎科目との連携 現行の教育課程の下、効果的な連携を目指す。 ２．教職課程関連 栄養学科の教職課程への連携・協力をおこなう。 （大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄） 基準３　教育研究組織 ①② 基準４　教育課程・学修成果 ③～⑦ （中期計画戦略目標に該当する項番記入欄） V-1（３）教養教育科のあり方検討
活動内容の評価	１．初年次教育関連（入学前教育・導入教育を含む） ［活動内容］ （１）英語：新入学生に対し診断テストを実施し、習熟度別クラス編成のために活用した。また、前・後期末に到達度テストを実施し、到達度を測定した。 （２）共通基礎教育科目： １）化学・生物学…診断テストをオンラインで実施し（４月）履修指導に活用した。入学前教育ワーキンググループが学部に設置され、両学科・事務局との協力の下、入学前教育をオンラインで実施した。また、年内入試合格者を対象に課題質問会を学内（対面）で実施した。 ２）基礎学修演習… 多教室をオンラインで連結し、各教室に教員を配置した上で、対面授業により授業をおこなった。 （３）専門教育科目との連携：カリキュラム・マップに従い、教養教育科目群の各授業を実施した。新しい教育課程を学部カリキュラム委員会で検討した。 ［活動内容に対する自己評価］ 初年次教育関連の事業が着実に実施され、現行教育課程における所期の目的を達成できつつあることは評価できる。特に今年度は、ＩＣＴを活用したオンライン化を進めたこと、入学前教育で入学予定者を対象とした集会を開いたことを評価する。学部カリキュラム委員会にて検討している新しい教育課程では単位数等は固まりつつあるが、キリスト教関連科目や専門教育科目と連携する科目に関する内容の検討はこれからである。 ２．教職課程関連（教職課程委員会にて別途、自己点検評価をおこなう。） ３．その他 ［活動内容］ 本学の「数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム」（リテラシーレベル）を着実に実施した。 ［活動内容に対する自己評価］

	教育プログラムを着実に実施できたことは評価できる。
次年度への課題	1．入学予定者に対する入学前教育を充実させる。 2．初年次教育関連の実施、専門教育科目および教職課程（栄養学科）との連携・協力を継続する。 3．中期計画および客観的指標調査など、また、本学のキリスト教精神を踏まえ、今後の教養教育科のあり方について検討を継続する。 4．本学の「数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム」（４年め）を着実に実施する。

5）看護栄養学研究科

担　当：看護栄養学研究科

本年度の活動目標	1．将来ビジョン ・学部卒業生の進学機会の拡大に向けた大学院体制の検討（教員体制の整備） ・看護栄養学研究科としての特色の明確化 課程毎のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーを作成し公表している。これらから修了時に身に付けられる能力について具体的に示し、課程の特色として分かりやすく広報していくことを検討する。 ・カリキュラム評価の PDCA サイクルの確立 アセスメント・ポリシーを作成し、学生の学修成果の評価について達成すべき質的水準とその評価の具体的実施方法を定めている。内部質保証推進委員会と連携し PDCA サイクルを確立する。 2．教育課程 1）カリキュラムの評価と新カリキュラムの検討 2）アセスメント・ポリシーに基づいた評価を行い、今後のカリキュラムの課題を抽出する。 3．大学院生定員確保のための対策 1）大学院の広報活動（広報委員会、入試広報課との連携） ・大学院ホームページの見直しと充実（専攻分野等の紹介） ・大学院説明会の実施、公開授業、特別講義等の実施 ・科目等履修制度を利用して大学院教育を体験できるように検討 ・オープンキャンパスでの大学院の PR、大学院ブースの設置、大学院生の活用 ・ホームページに大学院に関する記事の掲載 ・大学院生募集の PR（大学院看護栄養管理学研究科の案内送付） ・実習指導者会議、実習巡回時等の機会を活用しての PR、大学院案内、募集要項の配布等 ・入試体制、採点基準の見直しと奨学金制度の拡充案の策定と他大学院の情報収集 4．大学院生の学習環境・研究活動の充実に向けての支援 1）院生学習室の備品等の購入検討 2）院生研究費の活用に関する検討 3）Google Classroom、Google meet 等を活用した授業・単位認定と評価 4）図書館保存修士論文について院生が閲覧する際の手続きの整備 5）職業実践力育成プログラム認定制度（文科省）の申請の検討 6）院生学習室の使用法について、院生の意見をヒアリングしつつ検討を行う 5．教育実践・研究活動 1）看護栄養学研究科としての FD の企画・運営 2）看護栄養学研究科の特色を活かした実践・研究能力の向上 3）両専攻の協働研究・協働事業の検討
	（大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄） 基準４　教育課程・学修成果 ①-⑦ 基準５　学生の受け入れ ①-④ 基準７　学生支援 ①-③
	（中期計画戦略目標に該当する項番記入欄） Ⅱ－３　３ポリシーとアセスメント・ポリシーの明確化（１）（２） Ⅱ－４　特色を生かしたカリキュラムの編成・充実（１） Ⅱ－５　学修成果の可視化（４）

	Ⅱ－６　ＦＤ・ＳＤ活動の充実、強化（１） Ⅳ－１　学部・大学院の将来ビジョンの再構築（４） Ⅴ－１　学生の受入れ拡充（３） Ⅴ－２　入学者選抜への対応（４） Ⅵ－１　学生支援策の充実（２）（３） Ⅵ－３　キャリア支援の充実・強化（１）（２） Ⅶ－１　地域との連携（５）
活動内容の評価	１．将来ビジョン ［活動内容］ ・看護学専攻では、博士後期課程の開設２年目であり、研究発表会、論文審査の手続きについて整理し、教員向け手引きを作成し、大学院指導体制、教員役割の整備を行った。リサーチルーブリックの検討も論文審査基準との整合性を図りながら案作りを進行した。また、高度実践看護師教育課程更新年度であったため、適切に更新申請を行い、申請が承認された。 ・栄養管理学専攻では、３つのポリシーに基づき課程の特色の広報に努めた。また、アセスメント・ポリシーに従って、在学中はリサーチルーブリックによる評価を行い、修了時には学位論文と DP 到達度ルーブリックによる評価を行い PDCA サイクルの実施に努めている。 ［活動内容に対する自己評価］ ・看護学専攻では、開設した博士後期課程と前期課程との調整を図り、教育体制の整備と円滑な組織運用を図ることができた。大学基準協会の認証評価においても３つのポリシー及び PDCA サイクルの確立に向けた取り組みは、適切な評価を受けており、引き続き、学年進行に伴い円滑な運営を図る必要があると考えられる。 ・栄養管理学専攻では、博士前期・後期課程で円滑な運営と一定の学修成果を上げることが出来たと評価できる。 ・看護栄養学研究科としての特色の明確化については、３つのポリシーを作成し、これに基づいた教育の推進を今後も継続する。 ２．教育課程 １）カリキュラムの評価と新カリキュラムの検討 ［活動内容］ ・看護学専攻においては、現行カリキュラムの見直しは行っていないが、博士後期課程の開設に伴って前期・後期課程の開講スケジュールの調整、科目担当者の調整などを継続的に実施した。 ・栄養管理学専攻は、博士後期課程のカリキュラム変更を行い、2024 年度からカリキュラムの運用を開始し、問題なく運用を行った。博士前期課程のカリキュラムの変更は検討していない。 ［活動内容に対する自己評価］ ・看護学専攻では、博士後期課程の開設に伴い、前期課程との調整を図り、滞りない進行につなげた。博士後期課程完成年度まで現行カリキュラムを維持する見通しであるが、継続して、前期課程のカリキュラムで課題となる点を明らかにし、今後の見直しにつなげていく予定である。 ・栄養管理学専攻では、滞りなくカリキュラムの運用を行ったことを評価する。今後もより良いカリキュラム構築を目指し、点検・評価を行う。 ２）アセスメント・ポリシーに基づいた評価を行い、今後のカリキュラムの課題を抽出

する。

［活動内容］

・アセスメント・ポリシーは、内部質保証推進委員会と連携し作成されている。ディプロマ・ポリシー到達度ルーブリックは、各専攻・コース毎に活用している。これらの結果を集約し、来年度の博士後期課程完成年度にカリキュラムの課題を抽出し検討していくことを課題としている。

・栄養管理学専攻においては、博士前期課程・後期課程におけるリサーチルーブリックを活用し、学位論文作成の経過評価と結果評価に活用した。今後は学生の意見を聴き取り、ブラッシュアップを行う予定である。

［活動内容に対する自己評価］

・アセスメント・ポリシーの活用が継続されているが、集約し課題を抽出するに至っていない点に課題があるため、今後は PDCA サイクルの確立を意図して、学習成果の評価に努める必要がある。

・栄養管理学専攻においては、リサーチルーブリックの修正は行わなかったが、博士前期課程の修了者２名の評価に問題なく活用できた。

３．大学院生定員確保のための対策

１）大学院の広報活動（広報委員会、入試広報課との連携）

［活動内容］

・看護学専攻では、オープンキャンパスを３回実施し、保健師コース説明会、修士論文コース・高度実践看護師コースの個別相談会も回開催した。また、個別の相談にも入試広報課と協力して随時対応した。さらに、大学院生募集のチラシの作成・配付を行った。

・看護学専攻主催の広報イベントとして、大学院保健師コース進学相談会及び学部生向け大学院勉強会「大学院ってどんなところ？」（参加者：学部生 35 名、学外者２名）を開催し、認知度を高める努力を行った。

・看護学専攻の入試小論文採点基準と合否判定基準の見直しを図り、より客観的な指標に基づき入試判定を行えるように修正した。

・栄養管理学専攻は学部生を対象に院生募集のチラシを作成し配布した。学部生のみの説明会を６月 10 日と 20 日の昼休みに説明を行った。参加者は各回 50 名程度であった。

・栄養学科の学生と外部者を対象とし、大学院進学説明会を８月８日に開催し、栄養学科４年生３名、３年生１名、栄養学科卒業生１名の参加があった。個別対応として、本学卒業生１名の訪問があり説明を行った。短期大学修了生１名から受験資格の問い合わせがあった。

・今年度入学者を確保できなかったことを踏まえ、学部生への広報強化、入試体制の変更として、博士前期課程の入試科目の英語を競合大学院に合わせ廃止した。

・2025 年度入学者選抜の結果、看護学専攻は博士前期課程修士論文コースに１名（母性）、高度実践看護師コースに２名（ホスピス・老年 CNS）、保健師コースに５名が合格した。博士後期課程には５名が合格した。なお、博士前期課程の入学予定者は、入学辞退により、修士論文コース１名（母性）、高度実践看護師コース１名（老年 CNS）、保健師コース４名の計６名となる見込みである。

・栄養管理学専攻は博士前期課程で４名の受験者がおり、全員合格した。博士後期課程は１名の受験者がおり合格した。

［活動内容に対する自己評価］

・博士前期課程の各コースも博士後期課程も、一定の応募があり、広報活動の成果が

	伺える。今後もさらに内容強化し、興味関心を集めるアピールを行う必要があると考えられる。 ・栄養管理学専攻の学部生大学院説明会は、参加者が増加傾向であり評価できる。 ・栄養管理学専攻は短期大学修了者の受験資格を明確にする必要がある。 ・栄養管理学専攻は博士前期課程で学部からの進学者３名と社会人１名の入学予定者を確保できた。博士後期課程の入学予定者は１名で定員は満たすことができず、今後も広報に努めたい。 ４．大学院生の学習環境・研究活動の充実に向けての支援 ［活動内容］ ・昨年度からの院生学習室は専攻別ではなく、博士前期課程と後期課程に分けた配置とし、全席自由席とした。院生同士で使い方に留意し、適切に運用できている様子が伺えた。 ・院生学習室の PC 管理・整備は、図書情報課（情報処理室）が行い適切に対応されていたが、Google meet の不具合が生じやすく、授業進行の妨げになるケースがあった。 ・2025 年度学位授与者より「学位論文の閲覧に関する承諾書」、及び「博士論文のインターネット公表に関する承諾書」について、学務課の協力を得て整備した。 ［活動内容に対する自己評価］ ・院生学習室のスペースとソフトウェアの有効活用に向けて、整備を進めることが出来たことは評価できる。今後も院生の意見を吸い上げ、よりよい学習環境の整備を継続する。 ・学位論文の閲覧、公表に関して学位授与者から承諾書を得て、意思確認を行う制度を整備することが出来た。 ５．教育実践・研究活動 ［活動内容］ ・看護栄養学研究科としての第１回 FD（栄養管理学専攻担当）として、８月 29 日「これからの管理栄養士養成に求められる人材育成とカリキュラム編成　ー多職種連携、学部・大学院接続教育の視点からー」講師：青森県立保健大学 学長 吉池信男先生の講演を行い、ハイブリット方式で実施し、学内教職員 50 名の参加があった。 ・第２回 FD（看護学専攻担当）2026 年１月 27 日「看護における量的研究－看護に活かす数値化の大切さ－」と題し、本学特任教授の中村由美子先生の講演を実施した。 ［活動内容に対する自己評価］ ・FD 研修会を実施し、教員の見識を高めるために貢献できたと評価できる。 ・看護栄養学研究科の特色を活かした実践・研究能力の向上と両専攻の協働研究・協働事業については、今後も継続して検討を行うこととする。
次年度への課題	１．入学生確保に向けた広報活動の継続とアピール内容の充実を進める。 ２．内部質保証システム整備のための実質的な検討として、教育課程の PDCA サイクルを確立する。 ３．看護学専攻の博士後期課程完成年度以降を見越して、大学院の教員体制・教育環境の整備、各専攻の円滑な運営に努めるとともに両専攻の協働研究・事業などの活動可能性について検討する。

２．教育課程

６）．助産研究科

担　当：助産研究科

本年度の活動目標	１．専門職大学院としての基礎分野のカリキュラムの改正の承認 ２．適切な実習施設の確保と指導体制の充実 ３．学生の実習経費等の負担支援 ４．教員の実践力、教育力、研究力の醸成にむけた種々の環境整備 （大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄） （日本助産評価機構の基準番号） 2－1，2 - 2，2 - 3，3－2，4－1，5－1 （中期計画戦略目標に該当する項番記入欄） Ⅳ－1，Ⅵ－1，
活動内容の評価	１．専門職大学院としての基礎分野のカリキュラムの改正の承認 ［活動内容］ 2025 年 4 月まで助産基礎分野カリキュラム改正案を検討したが，継続検討が必要となったため。2025 年度のカリキュラム改正承認申請を見送った。4 月以降，カリキュラム改正にかかるワーキンググループを組織し検討を継続した。科内会議で課題を共有，関連会議で報告，2026 年 1 月にカリキュラム改正案を教授会で審議した。2026 年 5 月または 7 月に承認申請予定である。 ［活動内容に対する自己評価］ 1 年間承認申請が延長されたが，よりよいカリキュラム改正が検討されたことは評価できる。なお，長期にわたって募集停止が続いている助産教育分野の教育内容は要検討である。 ２．適切な実習施設の確保と指導体制の充実 ［活動内容］ 1)　2025 年度は 25 名の学生が入学し，例年に増して周産期に関連した実習施設の確保が必要となった。石川県内の 2 つの総合病院，東京都内 1 か所，神奈川県内 1 か所を新たに開拓し実習を行った。 2)　分娩介助件数には差が生じ，11 月以降の統合実習Ⅰで学習が均衡化するよう学生を実習配置した。 3)　実習補助教員退職に伴い，新規補助教員を採用した。 4)　実習補助教員と常勤教員をペアで配置し，実習指導を行った。 ［活動内容に対する自己評価］ 1)　新たな実習施設開拓ができたことは評価できる。 2)　分娩介助件数や実習内容に関する学習の均衡化には課題が残された。 3)　助産師教育に携われる者が少ない中，新たな実習補助教員の確保と実習指導が実現できたことは評価できる。 4)　新規採用教員を含め，実習指導が円滑に運営されていることは評価できる。 ３．学生の実習経費等の負担支援 1)　助産研究科では札幌市外で宿泊を伴う実習を行う学生には宿泊費補助を行ってい

	る。しかし，上記 2. に示したように，2025 年度は石川県，東京都，神奈川県と遠隔地で実習する学生数が増加した。実習にかかる経費均衡化のため，実習日の公平負担について説明し，学生間で協議した結果，学生は実習に要し他経費を学生数で割り負担する方法を選択した。 2) 宿泊を伴う学生への宿泊補助は継続している。 ［活動内容に対する自己評価］ 1) 実習に要する経費を明らかにしたうえで，学生間で経費分担について検討できた点は評価できる。説明は年度初めに行い，負担方法は学生間で協議する方法を継続する。 2) 実習費として徴収した額に対し宿泊補助費が大幅に上回っており，研究科運営を圧迫していることが明らかとった。この件に関して大学の方針に照らし再検討となったことは評価できる。 ４．教員の実践力、教育力、研究力の醸成にむけた種々の環境整備 1) 2027 年度に全国的な導入が決定している助産学客観的臨床能力試験（Objective Structured Clinical Examination；助産学 OSCE）に向け，現在 6 名中 5 名が試験評価者資格を取得，2025 年度に全員が取得見込みである。臨地実習前後で OSCE を実施，そのシナリオ，評価表，評価基準の作成の作成も可能となった。 2) 研究について，科学研究助成金申請割合は 100%である（母数：2026 年度定年退職予定者 1 名を除く 5 名）。天使大学内の学科，研究科内では最も高い割合となっている。 3) 学生の研究力向上のためゼミ制を導入，研究開始時期を 1 年後期からとした。 4) 2 年生が日本助産学会学術集会学生交流会で自校の教育実践を報告し，日本助産学会会長賞を受賞した。 ［活動内容に対する自己評価］ 1) 教員が自主的に研修に参加し，助産学 OSCE 評価者の資格を得られたことは評価できる。 2) 2026 年度科学研究費助成が 100%に達したことは非常に評価できる。 3) 学生の研究活動の変更は日本助産評価機構からの指摘事項でもあった。ゼミ生導入や早期の研究開始の実現は評価できる。 4) 2 年生の受賞は非常に評価できる。しかし，学生が学術集会に参加するための予算が確保されていなかったことに課題が残された。日本助産評価機構からの指摘にある学生の研究力向上に資するため，他研究科同様に学生のための研究経費の予算化が必要である。
次年度への課題	1. 助産基礎分野カリキュラム改正申請 2. 助産研究科学生定員数の検討 3. 助産教育分野の在り方検討 4. 経営的視点に立った研究科運営 5. 教員の教育力，研究力向上（継続課題）

３．学生の受け入れ

担　当:学部入試委員会

本年度の活動目標	１．各種入学者選抜について、厳正で遺漏のない実施と円滑な運営に努める。 ２．アドミッション・ポリシーに相応しい入学者確保に向けた入学者選抜について検討を継続する。 （大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄） 基準５　学生の受け入れ　①、②、③ （中期計画戦略目標に該当する項番記入欄） Ⅵ－２　入学者選抜への対応　(1) (2) (3) (4)
活動内容の評価	１．厳正で遺漏のない実施と円滑な運営について ［活動内容］ 2026 年度入学者選抜として、本学所管の各種入学者選抜を実施した。 また、大学入学共通テストについては、共同実施の北海道大学(実施本部)、藤女子大学(試験場)、東海大学 札幌キャンパスと連携し実施・運営を行った。 ［活動内容に対する自己評価］ 本学所管の各種入学者選抜を厳正で遺漏なく実施した 文部科学省の方針および大学入試センターの選抜要項変更等に適切に対応し、受験生に影響の無いよう本学の各種入学者選抜要項を作成した。また、人員配置、業務時間および役割分担を的確に周知することで、円滑な運営を実施できた。 また、大学入学共通テストについても３大学が密に連携し不備なく運営でき、評価できる。 ２．ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝ・ﾎﾟﾘｼｰに相応しい入学者確保に向けた入学者選抜検討について ［活動内容(1)］ 新たな選抜試験の導入および変更に関する検討をし、今年度は看護学科の総合型選抜新規導入について決定した。 ［活動内容に対する自己評価(1)］ 周辺の競合大学の募集状況や高等学校からの志望動向等の情報収集に努め、次年度以降も検討を継続することで志願者確保につなげている点について評価できる。 ［活動内容(2)］ 昨年度選抜業務実施後に監督者等を対象としたアンケート結果等を踏まえ、選抜要項の内容や実施・運営方法について見直しを行い改善した。 ・天使みらい入試～ｸﾞﾙｰﾌﾟﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝまとめ発表時間の配分変更や評価票・活動等の実績報告書を修正。 ・学校推薦型選抜～面接評価項目の質問例について精査し、改善を図った。 ・WEB 出願システム開始～動画を含むやマニュアル等を作成し、受験生が混乱しないよう努めた。 ・次年度から導入する、一般選抜マークシート回答方式に対応するための準備。 ・過去問題の公表方法に WEB を追加。 ［活動内容に対する自己評価(2)］ 以前よりもスムーズな出願や受験を実現し、一定数の志願者を確保できたことは評価できる。今後もさらなる改善に努め、安定した志願者確保に努める。

次年度への課題	１．志願者及び入学者確保に向けた新たな入学者選抜制度の検討を行う。 ２．既存の入学者選抜が安定的に志願者を確保できているか検証・見直しを行う。 ３．次年度本学は大学入学共通ﾃｽﾄの主担当であり、３大学による運営体制の下、遺漏なく実施する。

３．学生の受け入れ

担　当：大学院入試委員会

本年度の活動目標	１．大学院入学者選抜における厳正かつ円滑な運営に向けた体制の構築 ２．安定的な志願者確保に向けた入学者選抜制度の変更 大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄 基準５　学生の受け入れ　①、②、③ 助産評価機構の点検・評価項目の基準番号等記入欄 第３章　入学者選抜 3-1-1、3-1-2、3-1-3、3-1-4、3-2-1 中期計画戦略目標に該当する項番記入欄 Ⅵ－２
活動内容の評価	［活動内容］ １、2026 年度入学者選抜として、各種入学者選抜を適切に実施した。 2026 年度入学者選抜の実施にあたり変更した点は以下のとおり。 ・相互の整合性および客観性を確保する観点から、看護学専攻、栄養管理学専攻、助産研究科の「合格判定基準」「出願資格」および小論文試験、個人面接試験の「評価基準」と「評価表」について内容を見直し、改正。 ・過去問題公表について、冊子作成に加え WEB 公表を新規追加。 ・WEB 出願方式を新規開始。 ・栄養管理学専攻（博士前期課程）推薦型選抜の新規実施。 ・助産研究科、保健師ｺｰｽ、栄養管理学専攻の一般選抜Ⅱ期を 2 次募集制へ変更実施。 ・栄養管理学専攻 博士前期課程の科目試験「英語」を廃止及び博士後期課程における免除科目の修正運用開始。 ・助産研究科の面接に、当該所属教員以外の評価者を配置。 ［活動内容に対する自己評価］ 入学者受入れ方針に基づく公正かつ妥当な選抜方法を維持しつつ、日本助産評価機構からの指摘事項に対する改善(助産研究科のみ)や、より公平な基準作成、制度改正および選抜制度の新規導入等により、担当者の負担や手当の削減、効率的な運営を可能としたことについては大いに評価できる。 ［活動内容］ ２、安定的な志願者確保に向けて検討し、変更した点 ・推薦選抜および助産研究科 社会人選抜の日程について、可能な限り統一感を持たせるとともに、早期に志願者を確保できるよう変更。 ・スムーズに追加合格や２次募集実施の判断ができるよう、助産研究科入学手続き期限を変更。 ・助産研究科 学内推薦選抜導入を決定。 ［活動内容に対する自己評価］ 志願者確保に向けて当委員会として対応可能な措置を講じ、対策を整備したことについては大いに評価できる。
次年度への課題	１．今年度に改めた入学者選抜制度や選抜試験実施体制の効果を検証し、必要に応じた修正・改善を行う。 ２．志願者確保に向けた新たな入学者選抜制度や選抜日程の変更等を検討する。

３．学生の受け入れ

担　当：広報委員会

本年度の活動目標	１．ブランディング強化のため、広報ツールの充実を図る （新たな志願者層開拓（受験生への早期接触と多様な高校生へのアピール）を含む） ２．看護栄養学研究科の広報活動強化 （大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄） 基準５　学生の受け入れ　①　②　③ （中期計画戦略目標に該当する項番記入欄） 戦略目標Ⅴ-1
活動内容の評価	１.ブランディング強化のため、広報ツールの充実を図る ［活動内容］ 学生受け入れ方針に基づき、ブランディング強化のため以下活動により、広報ツールの充実を図った。 （１）資料送付・ダイレクトメール（DM） ① 受験生向け 本学に資料請求があった高校生、既卒者、中学生などへ 2026 年度大学案内パンフレット、入学者選抜要項、過去問題集、ＯＣ案内チラシ、志願促進リーフレット、クリスマスカードを送付し、年度を通したフォローアップを行った。 ② 高校進路指導部向け 道内外の志願実績校（約 200 校）に対して、７月に 2026 年度大学案内パンフレット、入学者選抜要項、過去問題集、ＯＣ案内チラシ等を送付した。 （２）オープンキャンパス（ＯＣ） 次のコンテンツを実施した。 ・学科紹介・職業紹介・模擬授業・入学者選抜ガイダンス・ 施設見学 ・学生発表（受験体験、学習・実習体験、学生生活など）・交流コーナー ①第１回　６月 15 日(土) 両学科合同(6/14 は交流コーナーのみで学校祭と併催) 参加者数：看護学科 155 名 栄養学科 103 名 ②第２回　８月９日(土)：栄養、８月 10 日(日)：看護 (両日午前高校生、午後中学生(希望高校生可)) 参加者数：看護学科 187 名 栄養学科 128 名 ③第３回　９月 20 日(土)　両学科合同 参加者数：看護学科 86 名 栄養学科 66 名 ④第４回　３月 20 日(金)　両学科合同 参加者数：看護学科 95 名 栄養学科 81 名 （３）公式ホームページ（ＨＰ）によるＰＲ 大学案内パンフレット、入学者選抜要項、各種広報チラシ、ショートムービー等を掲載しＰＲした。また、ＩＲ室協力のもとデータを集計し、本学の特徴をまとめたサイトを継続発信した。

（4）高校訪問、進学相談会・校内ガイダンス、模擬授業 等

① 高校訪問、進学相談会・校内ガイダンス

高校訪問については、入試広報課員が４月上旬から道内約 140 校の高校を訪問、進学相談会・校内ガイダンスについては道内各地の約 110 会場へ教職員が参加し、在学生の近況報告や国家試験合格率、入試制度の昨年からの変更点や本学の特徴をアピールし、オープンキャンパス参加を促した。

② 模擬授業・大学訪問道内約 30 校で模擬授業及び職業に関する解説等を行った。

③ 選抜要項頒布会(大学見学 含む)

年末から１月中旬にかけ申込者に、学校案内・募集要項の手渡し、学校案内・教員との個別面談を実施した。オープンキャンパスに来られなかった人や出願校の変更を検討している志願者５名(保護者同伴多数あり)が来校し、本学の一般入試および共通テスト志願へ繋げた。

（5）広報活動勉強会

教職員が現状の学生募集について共通認識を持つため、以下を実施した。

・第１回 FDSD 研修会（広報委員会と共同開催）

テーマ：入試動向を踏まえた継続的な学生募集の成功に向けて

～話題提供および栄養学科「天使みらい入試」の実施結果と今後の展望

日　時：2025 年 6 月 26 日(木)

講　師：株式会社進研アド 北海道支社　教育事業本部 小中 賢

長谷川めぐみ 准教授（入試委員）

（6）内部質保証（点検評価）に向けたデータ整理・活用

以下データを回収し改善につなげた。

・入学者選抜データ ・新入生アンケート ・ＯＣデータ ・ＯＣ参加者アンケート

（7）SNS 及び動画を活用した大学の取り組み・教育内容に関する情報発信

学生の日常風景や日々の取り組み動画を、Instagram や YouTube で情報発信した。

[活動内容に対する自己評価]

広報活動勉強会や FD 等を通じて全学的に危機感を共有し、高校生や高校教員、保護者へ地道に上記広報活動を実施したことにより、一定数の志願者を確保できたことは評価できる。特に新たな試みとして、外部業者にスポットで依頼しショート動画を制作のうえ Instagram にて発信を行った結果については、当該動画は約 47 万回再生を記録し、高校生世代を中心とした幅広い層へのリーチが確認された。SNS を活用した動画広報は、高い認知拡大効果が期待できる手法であり、志願者母集団の形成に一定の成果を上げた取り組みと評価できる。次年度以降も年々18 歳人口の減少が加速し、募集活動が苦しい状況になることが予想されるため、定員確保にむけ活発な広報活動を継続したい。

２．看護栄養学研究科の広報活動強化

[活動内容]

各専攻と連携し、以下を実施した。

①　公式ホームページ（ＨＰ）によるＰＲ

大学案内パンフレット、入学者選抜要項、各種広報チラシ、ショートムービー等を掲載しＰＲした。

	② 大学院パンフレットやチラシ等によるＰＲ 大学院案内パンフレット、入学者選抜要項、各専攻･コースのチラシを作成し、関係大学や実習施設等に送付または担当教員が持参、および本学の在学生に配布した ③ オープンキャンパス等によるＰＲ ・ 天使大学在学生対象の説明会 看護学専攻　　３月 ９日(月) 保健師コース説明会　　７名 栄養管理学専攻　６月 10 日(火) 栄養学科 1、2 年対象　17 名 ６月 20 日(金) 栄養学科 3、4 年対象　35 名 ・ オープンキャンパス、大学院説明会 看護学専攻（オープンキャンパス） ６月 14 日(土)保健師コース 11 名、基礎看護１名 ８月 10 日(日)保健師コース　５名、ﾎｽﾋﾟｽCNS1 名、精神１名 栄養管理学専攻（大学院説明会） ８月８日(金)前期課程５名、後期課程０名 ・看護学専攻では学部生向け、CNS 希望者向けに大学院紹介の講話ｲﾍﾞﾝﾄを行った。 [活動内容に対する自己評価] 上記アピールにより、志願者を一定数確保した点について評価できる。引き続き看護栄養学研究科と連携し、ホームページコンテンツの充実を図るとともに、大学院の情報発信を積極的に行って、アピールを強化したい。
次年度への課題	【目標】 １．ブランディング強化のため、広報ツールの充実を図る ２．新たな志願者層開拓(受験生への早期接触と多様な高校生へのアピール) ３．看護栄養学研究科の広報活動強化 【重点課題】 １．大学院入学者数の増加にむけた広報活動の充実(昨年から継続) ２．栄養学科の志願者数の増加にむけた広報活動の充実(昨年から継続)

３．学生の受け入れ

担　当：助産広報委員会

本年度の活動目標	アドミッション・ポリシーに適合する志願者の増加を目的として、広報効果の最大化を図る。 大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄 基準５　学生の受け入れ　①、②、③ 助産評価機構の点検・評価項目の基準番号等記入欄 第３章　入学者選抜 3-1-1、3-1-2、3-1-3、3-1-4、3-2-1 中期計画戦略目標に該当する項番記入欄 Ⅵ－１
活動内容の評価	［活動内容］ 学生受け入れ方針に基づき、志願者確保ため以下の活動を実施した。 （１）資料送付 大学パンフレットおよびフライヤーを全国の看護系大学へ一斉送付するとともに、実習先病院等へも持参・配布した。 （２）オープンキャンパス（ＯＣ） 次のコンテンツを実施した。 ・研究科紹介・施設見学・学生交流 ・学生発表（受験体験、学習・実習体験、学生生活など） ①　第１回　５月 31 日（土）　対面型、参加者数：24 名 ②　第２回　８月 11 日（月・祝）対面型、参加者数：34 名 ③　第３回　３月　９日（月）　対面型、参加者数：29 名 （天使大学 学部生限定も同日開催） （３）公式ホームページ（ＨＰ）によるＰＲ 大学案内、入学者選抜要項、助産研究科に関係する記事発信等。 ［活動内容に対する自己評価］ 上記の活動により、志願者を一定数確保できた点は評価できる。 今後も助産研究科に関する情報発信を積極的に行い、訴求力の一層の強化を図る。
次年度への課題	１．魅力あるオープンキャンパスの検討を行い、志願者増を図る。 ２．天使大学 看護学科学生に対する広報活動を強化するため、学部生限定のオープンキャンパス開催し、魅力を直接アピールする機会を設ける。

４．教育研究組織

担　当：教育研究評議会

本年度の活動目標	１．早期の教員公募開始の継続 ２．教員採用に関する理事会と天使大学学長との適切な役割分担 ３．藤女子大学と天使大学との連携の検討推進 （大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄） 基準６　教員・教員組織　①、②、③、④ （中期計画戦略目標に該当する項番記入欄） 戦略目標　教育に関するビジョンの構築
活動内容の評価	１．早期の教員公募開始の継続 ［活動内容］ 2026 年度の教員採用に向けて、5 月に二宮学長による各学科長等からの人事ヒアリングを行い、5 月の天使大学管理運営協議会で 2026 年度人事方針を決定した。6 月に教員選考常任委員会で審議した教員募集大綱を決定し、昨年同様に 7 月から教員採用の公募を開始した。 ［活動内容に対する自己評価］ 昨年同様に教員募集大綱の早期決定、教員公募の７月開始については評価できる。 なお、年度後半に退職した教員の後任者について応募がないことは課題である。 ２．教員採用に関する理事会と天使大学学長との適切な役割分担 ［活動内容］ 天使大学の教員については藤天使学園常任理事会でその採用、更新、昇任等を決定するので、前年同様に常任理事会の日程を考慮し、天使大学の教員選考委員会等の学内スケジュールを組み込み、予定通りの日程で決定できた。 ［活動内容に対する自己評価］ 教員の採用から選考までの学内手続きについて天使大学学長に委任されており、常任理事会において天使大学学長の本学教員採用提案が承認されたことを評価する。 ３．藤女子大学と天使大学との連携の検討推進 ［活動内容］ （１）2025 年 3 月理事会で、藤女子大学ウェルビーイング学部食環境マネジメント学科が 2027 年度から学生募集を停止することを決定した。これに伴い藤女子大学においては管理栄養士養成課程及び栄養教諭養成課程が廃止され、学校法人としてはこれらの課程は本学栄養学科に集約されることになった。 このため、藤女子大学食環境マネジメント学科の教育に支障のないことを確認し、2026 年度から本学栄養学科教員として藤女子大学食環境マネジメント学科の教員 2 名の採用を決定した。 （２）2025 年度に藤女子大学ウェルビーイング学部こども教育学科から本学看護学科教員に非常勤講師の依頼があり、小児看護領域教員が講義を行った。

	（3）藤女子大学学長の２０２５年度任期中の退任に伴い、二宮学長が藤女子大学顧問に２０２６年１月から就任した。今後、二宮学長は藤女子大学の学長、副学長、学部長等の執行部会議に出席し意見を述べることになる。藤女子大学新学長についても就任後、同学長が天使大学顧問に就任することを決定した。これにより、両大学学長が両大学の連携について相互に対等の立場で協議することになった。 二宮学長からは既に、常任理事会等において両大学の教職課程に関し両大学教員の有効活用のあり方について提案している。 ［活動内容に対する自己評価］ 藤女子大学との連携については、天使大学として協力できることから実施してきた。それらを踏まえて２０２６年度から両大学間の連携について学長同士が本格的な協議を行う環境が整ったことは評価できる。 今後、両大学の教職課程のあり方、教員確保等についての有益な協議が行われることが期待できる。
次年度への課題	１．早期の教員公募開始の継続 ２．教員採用に関する理事会と天使大学学長との適切な役割分担 ３．藤女子大学と天使大学との連携の拡大推進

５．研究活動・研究環境

担　当：研究倫理委員会

本年度の活動目標	１．研究の活性化に対応する倫理審査の実施 ２．迅速かつ厳正な倫理審査 ３．教員の倫理的感受性の向上への取組 ４．適切な倫理審査体制の整備 （大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄） 基準８　教育研究等環境⑤ （中期計画戦略目標に該当する項番記入欄）
活動内容の評価	１．研究の活性化に対応する倫理審査の実施 ［活動内容］ 年度初めに作成した日程表に基づき、滞りなく委員会を開催した。 ［活動内容に対する自己評価］ 研究の活性化に対応するため、原則として毎月開催することで、切れ目なく倫理審査を実施することができた。（審査件数：53 件） ２．迅速かつ厳正な倫理審査 ［活動内容］ 倫理審査の焦点を明確にし、研究対象者の保護と権利の確保に重点をおき倫理審査を行った。また、委員会開催前に委員に対し申請書類を配布し、事前に意見聴取を行った上で審議を行った。 ［活動内容に対する自己評価］ 研究倫理委員会として公正な審査を実施することができた。また、各委員からの意見を事前に申請者に伝え、必要に応じ修正された申請書類を委員会で審議することで、迅速な倫理審査を実施することができた。 ３．教員の倫理的感受性の向上への取組 ［活動内容］ 7 月に行った 2025 年度研究倫理研修について、2024 年度のヘルシンキ宣言改訂の内容を軸に北海道大学の七戸先生によるセミナーが行われ、リモートを含め多数の参加があった。 また、研究倫理研修会開催前の申請については、日本学術振興会による e ラーニング研修の受講により対応した。 ［活動内容に対する自己評価］ 倫理指針に定められた研究を行う上で遵守しなければならない事項についての理解が深まり、本学教員の倫理的感受性の向上に繋げることができた。

	４．適切な倫理審査体制の整備 ［活動内容］ 　年度初めの委員会において、研究倫理委員長代行を指名するとともに、倫理審査の進め方などの本学研究倫理委員会の倫理審査体制についてあらかじめ委員間で確認を行った。 ［活動内容に対する自己評価］ 　倫理審査の進め方および倫理審査体制についてあらかじめ確認しておくことで、委員会の運営を円滑に進めることができた。
次年度への課題	１．「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に基づき、研究対象者の保護と権利の確保に重点をおいた公正な審査を行うとともに、従来どおりの迅速な倫理審査を実施する。 ２．引き続き、倫理審査体制の改善および倫理体制の明確化を図り、委員会の運営がより円滑に行われるよう取組を行う。 ３．学内外からの要請により新たに見直しや検討を行うべき事項が生じた場合は、直ちに委員会で検討し、必要な対応を行う。

５．研究活動・研究環境

担　当：　学術振興委員会

本年度の活動目標	１．科学研究費等競争的外部研究資金獲得のための情報提供や研究発表の機会を設け、研究意欲の発揚と共同研究の推進に努める。 ２．天使大学紀要を年２回発行する。 ３．本学ホームページ「本学の研究活動」を研究成果の発信ルートとして、学内の学術情報流通の拠点を目指す。 （大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄） 基準８　教育研究等環境　③④ （中期計画戦略目標に該当する項番記入欄） Ⅳ−２（３）
活動内容の評価	１．科学研究費等競争的外部研究資金獲得のための情報提供や研究発表の機会を設け、研究意欲の発揚と共同研究の推進に努める。 ［活動内容］ 第 10 回「科研費獲得ウエビナーfor2026（㈱羊土社主催）」の募集案内を行い、７名の申込みがあり、申込者が期間内に各自でオンデマンド配信に参加した。 ［活動内容に対する自己評価］ 「科研費獲得ウエビナーfor2026（㈱羊土社主催）」に７名がオンデマンド配信に参加したことは評価できる。 講師：児島将康氏（久留米大学客員教授、「科研費獲得の方法とコツ」著者） 内容：科学費制度の動向・変更点、採択への応募戦略、「実際の申請書」を基にした申請書作成のコツ、審査委員の視点をふまえた解説等 今後も、継続し募集案内を行い、研究者の採択率 UP につなげていきたい。 ［活動内容］ 本委員会主催 FD 研修会として「研究に関する教員交流会」ならびに「特別研究費による研究報告会」を企画・実施した。 １．「研究に関する教員交流会」「特別研究費による研究報告会」のポスター掲示による研究発表 期　間：2026 年２月 16 日（月）～20 日（金） 場　所：6101 講義室 発表者：①研究に関する教員交流会：９名 （看護学科：４名、栄養学科：３名、教養教育科：１名、助産研究科：１名） ②特別研究費による研究報告会：４名 （看護学科：２名、栄養学科：１名、教養教育科：１名） ２．特別研究費による研究報告会 日　時：2026 年２月 20 日（金）10：00～11：05 場　所：6101 講義室 報告者：４名（看護学科：２名、栄養学科：１名、教養教育科：１名） 参加者：52 名（2024 年度参加者：44 名） ３．フリーディスカッション 日　時：2026 年２月 20 日（金）11：05～12：05 場　所：6101 講義室 内　容：学内教員の研究（掲示）についてのフリーディスカッション

［活動内容に対する自己評価］

昨年度に引き続き「研究に関する教員交流会」ならびに「特別研究費による研究報告会」を企画・実施できたことは評価できる。

この教員交流会が、教員各々が行っている研究内容や研究成果について紹介する場、共有する場として定着し、教員同士が気軽に研究について語り合える場としたい。領域や職位を越えた研究交流により、学内の多様な研究を知る機会を通じて、教員同士の交流がより活発になり、新しい視点から様々な発見を通して、新たな共同研究へのきっかけにも繋がることを期待したい。

［活動内容］

各学科・科の協力のもと経験豊富な教授４名に「科学研究費アドバイザー」を依頼し、相談体制を整備した。

［活動内容に対する自己評価］

各学科・科の協力のもと「科学研究費アドバイザー」を選出・依頼し科学研究費の採択率や獲得額の増大を目指すとともに、教育研究環境の向上を図るために、申請書の作成等各種相談体制を整備し、大学が一丸となって協力体制を構築していることは評価できる。今後も、学科・科の枠組みを越えた協力体制を維持していきたい。

［活動内容］

若手研究者のための「よろず相談」として、今年度も学術振興委員５名が相談員となって、研究環境や研究倫理等についての相談に対応した。

［活動内容に対する自己評価］

若手研究者の研究活動が推進されるよう、学術振興委員が中心となって、研究のための「よろず相談」体制を整備し、相談に対応できたことは評価できる。今後もこの体制を維持していきたい。

２．天使大学紀要を年２回発行する。

［活動内容］

天使大学紀要第 26 巻第１号を発行する。

原著論文：１件

発 行 日：2026 年３月 31 日発行

［活動内容に対する自己評価］

2025 年９月末発行予定だった第１号は、投稿者がいなかったため、2026 年３月末に第１号として発行する。発行後、機関リポジトリ（Snowdrop）にて公開する。

2026 年度は投稿への呼びかけを強化し、天使大学紀要（第 27 巻第１・２号）を年２回発行したい。

３．本学ホームページ「本学の研究活動」を研究成果の発信ルートとして、学内の学術情報流通の拠点を目指す。

［活動内容］

本学教員・大学院生による論文や著書、表彰についての掲載情報を発信した。

論文掲載：４件　著書：１件　表彰：１件　合計：６件

	［活動内容に対する自己評価］ 学内外の学術情報流通の拠点として教員・大学院生の研究活動や研究成果等を紹介できたことは評価できる。また、情報発信のための書類（書式等）の見直しを行ったことも評価できる。今後も、常に新しい情報を発信し、研究活動の活性化につなげたい。
次年度への課題	１．科学研究費等競争的外部研究資金獲得のための情報発信の充実 ２．多様な学術研究活動への推進及び支援 ３．2026 年度天使大学紀要第 27 巻第１・２号の発行及び機関リポジトリでの公開 ４．本学ホームページ「本学の研究活動」での最新情報の発信

６．ＦＤＳＤ活動

担　当：ＦＤＳＤ委員会

本年度の活動目標	１.「天使大学における人材育成の目標・方針とＦＤＳＤ実施計画」に掲げる目標を達成するため、別に定める「ＦＤＳＤ活動実施要項」に基づき研修等を実施する。 （大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄） 基準６ （中期計画戦略目標に該当する項番記入欄） Ⅱ－３
活動内容の評価	１．教員間の授業参観の実施について ［活動内容］ 参観の方法について、教員が自主的に授業担当者に了承を得た対面授業の参観を認めること、対面授業の参観機会増加に伴い各学科の参観用動画の提供最低数を削減することを決定し、前期に実施要項を改正した。 ［活動内容に対する自己評価］ 教員の自主的な交渉による授業参観を認めたことで、対面授業の参観機会の増加に繋がった。一方で、Google Classroom への対面授業の参観可能情報の掲載が減少した。 ２．学生による授業評価アンケートの実施と見直しについて ［活動内容］ 前期及び後期に学生による授業評価アンケートを実施した。 アンケートについては４年毎に見直すこととしており、2026 年度より新たな授業アンケートの運用を開始する。質問項目と選択肢については、2024 年度に決定していたが、より具体的な授業改善へ結びつけるため、学長の要請によるワーキンググループでの再検討を経て、2026 年度より運用する授業アンケートが完成した。 また、新たな授業アンケートの実施に向けて、「授業アンケート実施要項」の改正を行った。 ［活動内容に対する自己評価］ 2025 年度の学生による授業評価アンケートは滞りなく実施できた。 アンケートの質問項目や選択肢の再検討については、学長の下、ワーキンググループが構成され、他の委員会とも議論を重ね、改良された授業アンケートを完成できたことは評価できる。 ３．ＦＤＳＤ研修会の実施について ［活動内容］ ＦＤは、本委員会主催の研修会を対面で８月に実施したほか、７月に研究倫理委員会、８月に看護栄養学研究科栄養管理学専攻、10 月に助産研究科（ＳＤを含む）、2026 年１月に看護栄養学研究科看護学専攻、２月に学術振興委員会と学生委員会、３月にＩＲ委員会と教職課程委員会が主催した研修会をそれぞれ実施した。

	ＳＤは、本委員会主催の研修会を対面及び動画配信で６月に実施したほか、８月に大学が教職員説明会、12 月に宗務委員会が教職員修養会をそれぞれ実施した。 ［活動内容に対する自己評価］ 多くの研修会が動画視聴による参加も可能としたことで、教職員の参加機会が確保された。 また、第２回ＦＤＳＤ研修会は、本委員会と学部カリキュラム委員会との共催で「2027 年度の改正を目指した魅力あるカリキュラムの構築」をテーマとして実施した。各学科・科におけるカリキュラム検討状況を教職員間で共有し、グループディスカッションを行い、教職員が互いに議論を交わすことができた。これは、2024 年度の自己点検評価報告書で「次年度への課題」としていた「本学が抱える課題解決に結びつくような内容のＦＤ・ＳＤ研修会を他部署と連携して企画し、実施する。」に対応できたことは評価できる。
次年度への課題	１．2026 年度から実施する「学生による授業アンケート」について、新教務システムでの運用となるため、各所と連携し円滑な実施に努める。 ２．本学が抱える課題解決に結びつくような内容（生成ＡＩに関するリテラシー等）のＦＤ・ＳＤ研修会を企画し、実施する。

７．社会貢献

担　当：地域連携等委員会

本年度の活動目標	１．2025 年度天使大学・北海道科学大学連携公開講座の実施及び 2026 年度公開講座の企画 ２．東区役所との連携事業及び５者連携事業の推進 ３．ライフステージ支援事業実施の推進 ４．大学間連携事業等の展開 ５．本学地域連携等活動の情報発信 ６．国・行政の地域連携の施策等の把握 （大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄） 基準 9　社会連携・社会貢献　①、② （中期計画戦略目標に該当する項番記入欄） （中期計画戦略目標に該当する項番記入欄） Ⅶ：地域連携と社会貢献の促進・充実　Ⅶ-1
活動内容の評価	１．2025 年度天使大学・北海道科学大学連携公開講座の実施及び 2026 年度公開講座の企画 ［活動内容］ 天使大学 3 講座、北海道科学大学 2 講座の計 5 講座をオンデマンド形式で開催し、143 名（2024 年度 145 名）の受講申し込みがあり延べ再生回数 300 回程度であった。2026 年度についても引き続きオンデマンド形式にて開催する予定である。 ［活動内容に対する自己評価］ 受講者の年齢構成は 50 代以上が約 75%を占めており、今回が初めての参加者は約 45%（2024 年度は約 50%）であった。2021 年度以降はオンデマンド形式で開催しており、時間や場所の制約を受けないという利点から、対面開催時と比較して受講申込者数は多い状況となっている。一方で、受講申込者数は昨年度より減少しており、受講を知ったきっかけとしては郵送物やチラシが多く、特に若年層の申込みが少ないことから、今後は幅広い年代に効果的に周知できる広報の方法や講座の内容を検討していく必要がある。 ２．東区役所との連携事業及び５者連携事業の推進 ［活動内容］ １）５者連携事業イベント「ひがしく健康・スポーツまつり」（つどーむ）でブース参加した（「天使大の健康塾～いつまでも元気で楽しく生きるための健康チェック～食事バランスチェック＆血圧・血管年齢・握力・ふくらはぎの周囲長測定」）。教職員と学生 18 名（看護学科 6 名・栄養学科 10 名・助産研究科 2 名）が参加した。 ２）東区役所からの依頼で東区の主催事業や各地区イベントのボランティア募集に協力した。また、追加依頼で広報さっぽろ東区版 12 月号の本学学生と他大学の学生による「冬を元気に乗り切るこつ！」をテーマとした対談記事に協力した。 ［活動内容に対する自己評価］ １）地域住民 200 名の参加があり、地域の方の健康関心を高める貢献ができた。2024 年度は 30 代の参加が最も多かったが（20.2%）、2025 年度は 70 代の参加が最も多く（20.9%）参加者層に違いがあったが、どの年齢層も体験できる内容であったと評価する。参加学生のアンケートからは正しく伝えることの難しさや人とのかかわり方等、様々な学びを得られており学生参加も効果的であった。 ２）東区からのボランティア情報は提供時に学生へ周知しているが、応募は各自申込のため実態把握が十分でなく把握している情報では応募は少数である。今後は東区

からの継続的な情報提供の働きかけと学内広報の工夫が課題である。東区からの追加の協力依頼には積極的に対応でき、今後も可能であれば対応していく。

３．ライフステージ支援事業実施の推進

［活動内容］

１）介護予防センター主催の「すこやか倶楽部」において 3/6 に学生 7 名（看護学科 4 名、栄養学科 3 名）が健康講話を行う予定である（テーマ『一緒にチェック！あなたの水分足りていますか？)。

２）天使病院職員家族を対象とした夏祭りに看護体験ブース出展、イベント補助に協力した。学生 20 名（看護学科 9 名、栄養学科 11 名）参加し、ブースでは子どもを対象に聴診器で小児モデル人形の心音を聴く体験、子ども用白衣の着用体験等を実施した。学生は病院内見学、手術の見学も体験した。

［活動内容に対する自己評価］

「すこやか倶楽部」での講話は実施前のため評価できないが、今後も継続して取り組んでいく。また、天使病院との連携は新たな試みであったが、学生が子どもと接する体験の場、病院に関心を持つ機会にもなっていた。今後も天使病院との関係を深める機会をもっていく。

４．大学間連携事業等の展開

［活動内容］

１）北海道科学大学が実施する「夕張地域医療体験」(2 月下旬）に学生 1 名（栄養学科）が参加する予定である。

２）藤女子大学と地域連携関連緒事務担当者間で情報交換を行い、双方の大学での地域連携活動の取り組みや課題を共有し、今後も両大学の情報交換を継続し連携を深めていきたいとの意向を確認した。

［活動内容に対する自己評価］

「夕張地域医療体験」は実施前のため評価できないが、当事業は 2025 年度をもって終了するため、次年度以降の大学間連携事業について検討していく必要がある。また、今後も藤女子大学との連携に向けて活動していく。

５．本学地域連携等活動の情報発信

［活動内容］

１）本学で取り組んでいる活動について、本学 web サイトに活動内容に関する記事を掲載した。

２）天使大学学長指針重点事業「地域連携・支援活動の強化・見える化」について、学内の地域貢献活動把握にむけたシステム案を検討した。

［活動内容に対する自己評価］

本学 web サイトにおいて地域連携活動に関する情報発信を実施しており、一定の情報発信はできていると評価できる。また、地域連携活動把握のシステムを引き続き検討していく。

６．国・行政の地域連携の施策等の把握

［活動内容］

今後の動向について委員会で情報を共有しながら把握を行った。また、東区主催の「タッピーフレンズ交流会」に本学から教職員 2 名が参加し、情報交換を行った。

［活動内容に対する自己評価］

	国や市の動向を引き続き情報を把握していくとともに、地域の情報交換の機会を今後も活用し、地域連携活動の充実を図る。
次年度への課題	１．５者連携事業をはじめ、東区役所との連携を一層推進していく。 ２．本学 web サイトを通じ社会貢献・地域連携活動の情報を発信する。 ３．北海道科学大学・藤女子大学・天使病院・介護予防センター等との連携について検討する。 ４．国・行政の地域連携の施策の動向、地域ニーズを把握し、本学の取組について検討していく。 ５．学内の地域連携活動の情報集約に向けてのシステム構築をさらにすすめていく。

８．学生生活

担　当：　学生委員会

本年度の活動目標	１．学生生活の充実・向上を支援する（生活指導を含む） ２．学生の健康を支援する ３．学生会（葦の会）活動、学校行事、課外活動（部活動、ボランティア等）を支援する ４．学生の海外研修の在り方を見直す ５．「学生に関する事件・事故・不祥事等危機管理個別マニュアル」の整備を継続する ６．改正した奨学金制度を運用する （大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄） 基準７　学生支援①、② （中期計画戦略目標に該当する項番記入欄） Ⅶ－１、Ⅶ－４、Ⅷ－１、Ⅷ－３、Ⅸ－６
活動内容の評価	１．学生生活の充実・向上を支援する（生活指導を含む） ［活動内容］ （１）生活全般に関する啓発活動 ①札幌市司法書士会による「法律教室」の実施 ５月に学部１年次生を対象に札幌市司法書士会の協力で「法律教室」を実施し、法律の専門家から SNS 利用で気を付けるべきことやアルバイト（労働）におけるトラブルおよび法律等に関する講演を行った。講演後のアンケートでは、将来役に立ちそうな内容であると回答した学生は 98.9%だった。 ②新入生応援企画　先輩との交流会 ６月に学部１年次生の希望者を対象に、先輩と昼食を取りながら懇談する「ウェルカムパーティ」を開催し、授業や学修のこと、部サークル活動、キャンパスライフに関すること等を情報交流した。 （２）満足度の高い学生食堂の実現に向けて ①マリアホールの椅子・机の増席、学食の学部生割引 後援会からの助成でマリアホールに 42 席の増席と学食の学部生割引を導入した。 ②学食でのフェア・イベントの開催 12 月に Foodcom（フードコム）と北海道農政部等による北海道３つの白いたべものフェア「-White Expo 2025-in 天使大学」、ミルクラと雪印メグミルクによる「乳の魅力を伝えるプロジェクト-カルシウムたっぷりランチ-」の２つのイベントを開催した。さらに、JA そらち南からの贈呈された農産物による「道産の米・野菜をたくさん食べようフェア」を開催し、通常より 50 円安く提供された。 ［活動内容に対する自己評価］ （１）生活全般に関する啓発活動 ①札幌市司法書士会による「法律教室」の実施 入学して間もない時期に社会人として気を付けるべきことを法律の専門家から学び、トラブル回避することは、今後の大学生活において非常に重要性が高いと考える。今年度ロングホームルームを活用して実施したことで、昨年度より多くの学生が参加できたことは評価できる。 ②新入生応援企画　先輩との交流会 先輩から学修の仕方や実習等において重要なこと、課外活動やキャンパスライフのことについて知ることができたことは、新入生にとって不安の解消につながり、有意義であり、このような交流会を実施できたことは評価できる。 （２）満足度の高い学生食堂の実現に向けて

①マリアホールの椅子・机の増席、学食の学部生割引
多くの学生からの意見としてあがっていた増席の要望に応えることができ、学食の利用ならびに自習等でより多くの学生が利用できるようになり、環境改善できたことは評価できる。
②学食でのフェア・イベントの開催
特別メニューや低価格で提供することで、学食に対する関心を高め、学食の利用促進につながったことは評価できる。

2．学生の健康を支援する

［活動内容］

（1）学生の心身の健康に関する支援
「保健相談室ニュース」と「学生相談室ニュース」の内容に対する助言を行った。

（2）障害学生への支援
主に新入生と新任教職員を対象にこれまでより早い時期に本学の障害学生支援制度について周知した。２月に障害学生への修学支援に関する FDSD 研修会を実施した。

［活動内容に対する自己評価］

（1）学生の心身の健康に関する支援
各ニュースをとおして、学生の心身の健康増進をサポートしたことは評価できる。

（2）障害学生への支援
４月中に学生および教職員に本学の障害学生支援制度について周知をした結果、修学支援に関する相談や支援申請の件数が増加したことは評価できる。

3．学生会（葦の会）活動、学校行事、課外活動（部活動、ボランティア等）を支援する

［活動内容］

（1）葦の会が企画・運営する行事の支援
①天使祭
健康チェック・栄養体験コーナーでは、札幌東保健センターと札幌市医師会が健康増進に関する内容の出展があった。さらに JA そらち南の農産物販売ブースを出展し、外部との連携が拡充した。
②体育祭
本学体育館とマリアホールを活用し、学内で開催した。競技種目・ルール、競技場所について安全かつスムーズな進行ができるよう葦の会に助言した。

（2）葦の会役員を対象とした研修会の実施、学生委員との交流会
次年度の天使祭や体育祭の役員を対象に、学生総会等を企画・運営するための必要なスキル・マナーの体得を目的としたリーダー研修会を実施した。また、次年度行事およびその他学生生活や今後の葦の会の活動に関すること等を意見交換することを目的とした葦の会との交流会を企画した。

（3）学生の課外活動（部サークル活動）への支援
企業と本学の部サークル団体のコラボ等に関する相談、調整等を支援した。

（4）合唱コンクール
昨年度の点検評価をふまえ、学生が積極的に参加できるよう実施要項をブラッシュアップした。審査員長は音楽の専門家とした。

［活動内容に対する自己評価］

（1）葦の会役員が中心に企画・運営する行事の支援
①天使祭
葦の会の企画・運営がスムーズになるよう適宜支援をし、開会式での新企画や新たな外部出展団体の参入により天使祭の規模が拡充したことは評価できる。

	②体育祭 例年外部施設で開催していたが、競技種目や競技ルールの工夫、競技場所の調整等を支援し、学内で開催できたことは評価できる。 （2）葦の会役員を対象とした研修会の実施、学生委員との交流会 次年度の行事を企画・運営する新葦の会役員が必要なスキル・マナー、協働して創り上げていく考え方等を体得できる機会となった。葦の会との交流会は、大雪のため急遽中止とした。 （3）学生の課外活動（部サークル活動）への支援 部サークル団体から相談、調整等の支援をすることで、学生の課外活動を順調に進められるようにしたこと、部サークル団体の新設数が増え、課外活動が活発化したことは評価できる。 （4）合唱コンクール 参加者率や参加者による投票を評価点として、多くの学生が関われるようにしたことは評価できる。また、審査員長を音楽の専門家としたことでより芸術的な視点から合唱を評価していただき、より質の高い合唱コンクールになった。 4．学生の海外研修の在り方を見直す ［活動内容］ 9月にネパールで医療支援に従事している医師による講演を実施した。また、学生のニーズに合う海外研修・留学プログラムの提供に対応できるよう、留学エージェントとの連携も含めて可能な方法を模索し、情報を提供した。 ［活動内容に対する自己評価］ 海外で活躍する医師による講演を実施したことで、海外に関心の学生に対する啓発活動ができたこと、留学エージェントと連携して学生のニーズに合う留学プログラム等の情報を提供できたことは評価できる。国際交流を国内外の異文化交流へと転換し、活動の可能性の道筋をつけられたことは評価できる。 5．「学生に関する事件・事故・不祥事等危機管理個別マニュアル」の整備を継続する ［活動内容］ 昨年度自転車事故の被害者の場合に関する事例について整備したため、加害者の場合に関する事例を整備した。 ［活動内容に対する自己評価］ 自転車事故の加害者の場合について整備したことは評価できる。引き続き危機管理個別マニュアルの整備をし、不測の事態に備え充実したマニュアルを作成する。 6．改正した奨学金制度を運用する ［活動内容］ 天使大学奨学金の申込を学生が躊躇しないよう募集要項等を修正した新しい奨学金制度を運用した。 ［活動内容に対する自己評価］ 奨学金の申込者数が近年よりも多くなったことは評価できる。
次年度への課題	1．学生生活に関する啓発活動を実施し、トラブルを回避できるための基礎知識を身に付けてもらう。 2．葦の会主催の行事・イベントについて、関係部署と連携して支援する。 3．危機管理マニュアルを様々なケースを盛り込んだ充実したマニュアルにする。 4．異文化交流・国際交流事業の可能性について模索し、メニュー化を目指す。 5．天使大学奨学金制度の点検評価を継続する。

８．学生生活

担　当：保健相談室

本年度の活動目標	１．学生の健やかな学生生活のため、学生の身体的・精神的な健康をあらゆる角度からサポートするとともに、さまざまな啓発活動を行う。 （大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄） 基準７　学生支援 ①、② （中期計画戦略目標に該当する項番記入欄） Ⅶ－２、Ⅸ－６
活動内容の評価	１．学生への健康面からのサポート・啓発活動 （１）学生の健康や生活等の面接相談 ［活動内容］ 保健相談室を利用した学生の件数は、５～７月が多く一月当たり平均66件であった。相談内容は体調に関すること、心に関すること、友人関係など多岐にわたり、学生の状況に応じ学校医、学生相談室、支援教員と連絡を取りながら対応した。また、健康調査票については、今年度から齟齬が生じないよう質問内容を明確にし実施した。回答結果に基づき、既往歴や現病歴から必要に応じて個別面談を行った。障害学生に対しては、関係教職員や学生相談室と情報共有しながら継続的に適切な支援を心がけた。 ［活動内容に対する自己評価］ 気軽に相談できる場になるよう温かな対応を心がけた。利用件数は、昨年度とおおきく変わらなかった。健康調査票については、修正した新しい健康調査票を使用し実施したが、トラブルの報告はない。今後この修正した様式で実施しながら、経過を見ていく。障害を持つ学生については、日常生活の些細な困りごとの相談が多く、その時に応じて関係教職員や学生相談室と連携を取りながら対応した。また困ったときの第一相談窓口となるよう、学生との良好な関係づくりに留意した。学生にとって敷居の低い、相談しやすい環境を維持していく。 （２）学生・教職員のケガ・体調不良への応急処置、医療機関の紹介・連携 ［活動内容］ ケガや体調不良者に対して応急処置や休養を促し、必要に応じて医療機関の受診を勧奨した。早急な受診や単独での帰宅にリスクがあると判断したケースでは、保護者と連絡を取り、学生の安全が確保されるよう配慮した。 ［活動内容に対する自己評価］ 学生の安全を第一とした対応ができた。今後も、学校医、学務課等と連携しながら、適切に対応していきたい。 （３）掲示・イベントなどによる、健康情報等の発信・啓発 ［活動内容］ ①　行事や季節に合わせて、計４回、保健相談室ニュースを発行した。 第１号（６月）「保健相談室の紹介」 第２号（10月）「インフルエンザ予防接種」 第３号（11月）「カゼ対策」 第４号（２月）2026年度「学生定期健康診断について」 ②　保健相談室前に、月に２回「健生ニュース」を掲示し、健康について最新の情報を提供した。 ③　学生相談室と合同で「こころの健康ミニ講座」を３回実施した。今年は初めて

の試みで、１つの講座に対して複数の開催日を設け、学生相談室で実施した。

［活動内容に対する自己評価］

・「こころの健康ミニ講座」は、いずれも当初想定していた参加人数を上回る多くの学生が参加し、学生のニーズに合った適切なプログラムであった。また、初めて参加した学生も多く、細やかだが学生相談室や保健相談室を知る有効な機会となった。

（４）定期健康診断、感染症予防のための抗体価検査、各種ワクチン接種等の実施

［活動内容］

① ４月５日（土）定期学生健診実施した。未受診の学生についは随時、健診センターで受けられるよう保健相談室が窓口となり受診勧奨を行った。

② 精密検査該当者には、昨年度決まったフローを使用し、受診勧奨と事後フォローを行った。

③ 2023 年４月に改訂した「実習のための感染症予防プログラム」に基づき、小児４種感染症とＢ型肝炎ワクチン接種を学内で３回実施した。その中でムンプスワクチンの接種が必要な学生１名にＢ型肝炎ワクチンを接種する誤接種が発生した。確認のため 25 名に抗体検査を実施し、抗体が基準値未満であった３名に対し追加のワクチン接種を実施した。

④ インフルエンザワクチンの学内接種を２回実施し、学生・教職員合わせて 151 名に接種した。

［活動内容に対する自己評価］

・学生健診は、職場健診を受けた大学院生と休学している学生を除き全員実施できた。今年度から健康診断を１日で実施したことで抗体検査の実施等が変更になったが、実施機関、各学科との連携を密に測り、滞りなく実施できた。

・「実習のための感染症予防プログラム」の改訂による支障は現時点で発生していない。従来よりも学生の身体的・経済的負担が軽減した点や、早期に実習参加の要件を満たすことができる点、記録管理が容易になった点から改訂の意義があったと昨年度と同様に評価できる。

ただし、今年度から接種記録票を学生の自己管理としたが、当日に持参し忘れたり、接種記録票を紛失したり、といった問題が多発した。来年度から接種記録票の様式を改善し学生が管理しやすいよう検討したい。

・ワクチンの誤接種については、学生への負担が最小限になるよう、委託先の結核予防会と連携しながら対応した。このことに関する相談は２件あり、相談内容は、抗体検査日の確認や問い合わせの内容であった。心身に不調をきたした学生はいなく、誤接種後のフォローアップも適切に対応できた。

・インフルエンザの流行が近年早く始まる傾向がある事から、来年度は１回目の接種日を 10 月下旬で実施するよう検討したい。

（５）学校医との連携

［活動内容］

保健相談室利用状況の報告や学校保健に関する相談を必要に応じて随時行った。学校医による学生の健康相談は４件の相談があった。

［活動内容に対する自己評価］

学校医が学内に常駐している事で、相談や連携を細やかに行うことができた。また、学校医による学生の健康相談は、学生の安心につながる相談の機会として大切

	であるので、今後も連携を取り、学生の健康保持に努める。 （６）学校保健に関する研修会に参加しての知見の習得、他大学の情報把握 ［活動内容］ 今年度全国大学保健管理協会主催の北海道地方部会研究集会（旭川市）に参加したが、全国研究集会（福島市）は、後期が始まる時期と重なったため今回は参加を見送った。その他、他大学の学校保健関係者（保健師・看護師）と、メールや電話等で保健業務に関する情報交換を行った。 ［活動内容に対する自己評価］ 大学保健研修会参加により、大学保健に対する国の政策や他大学の動き等、大学の中にいただけではわからない学びを得ることができ大変有意義であった。また、他大学との交流に相談や情報交換ができ、一人仕事ゆえの困りごとの解決に助けとなっている。次年度も研修会の参加や他校との交流を継続していきたい。
次年度への課題	１．健康調査票の質問項目の継続と評価 ２．「実習のための感染症予防プログラム」の継続と評価 ３．障害学生への支援

８．学生生活

担　当：キャンパス・ハラスメント対策委員会

本年度の活動目標

１．学生向けハラスメント講演会を実施する。併せて、参加者を増やすため、開催方法や時期、周知方法について検討する。

２．キャンパス・ハラスメント実態調査アンケートの回答率を増やすため、開催時期および周知方法について見直す。

３．教職員向けの研修会を実施する。

（大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄）

６．教員・教員組織④　７．学生支援①②

（中期計画戦略目標に該当する項番記入欄）

Ⅶ-2-(4)ハラスメントへの対応

活動内容の評価

１．学生向けハラスメント講演会を実施する。併せて、参加者を増やすため、開催方法や時期、周知方法について検討する。

１）新入生を対象としたハラスメント講演会

［活動内容］

看護栄養学部両学科及び助産研究科の新入生を対象としたハラスメントに関する講演会を、2025 年 4 月 22 日に 2303 教室で開催した。

		在学生数	参加者	参加率	2024 年度の参加率
看護学科	１年	105	74	70%	93%
栄養学科	１年	88	78	89%	74%
学部合計		193	152	79%	86%
助産研究科	１年	25	1	4%	58%
総合計		218	153	70%	83%

［活動内容に対する自己評価］

１年生向け講演会は対面で実施され、理解度は概ね良好であった。

次年度はオリエンテーションなどに組み込み実施することを検討する。

２）看護栄養学部３年生を対象としたハラスメント講演会

［活動内容］

看護栄養学部両学科３年生を対象としたハラスメントに関する講演会を、ビデオで開催した。

		在学生数	参加者	参加率	2024 年度の参加率
看護学科	３年	107	55	51%	54%
栄養学科	３年	95	22	23%	34%
合計		202	77	38%	45%

［活動内容に対する自己評価］

一定期間を設けて視聴をするビデオ配信型で行ったが、参加率が低かった。

実施方法を含め、検討が必要。

	2．キャンパス・ハラスメント実態調査アンケートの回答率を増やすため、開催時期および周知方法について見直す。 ［活動内容］ キャンパス・ハラスメント実態調査アンケートについて、回答率を増やすため、2025 年度は各学科・研究科を次のタイミングで実施することとした。 ＜看護栄養学部＞ 学部 4 年　2026 年 2 月 1 日～3 月 15 日 学部 1 年～3 年　2026 年 4 月 1 日～5 月 8 日 ＜助産研究科＞ 助産研究科 2 年　2026 年 2 月 1 日～3 月 15 日 助産研究科 1 年　2026 年 4 月 1 日～5 月 8 日 ＜看護栄養学研究科＞ 院博士前期課程 2 年・院博士後期課程 3 年　2026 年 2 月 1 日～3 月 15 日 院博士前期課程 1 年・院博士後期課程 1 年～2 年　2026 年 4 月 1 日～5 月 8 日 ［活動内容に対する自己評価］ 昨年度の回収率は 19.4%として低かったため、回収率を上げるために、時期をずらして実施することとした。 3．教職員向けの研修会を実施する。 ［活動内容］ 教職員を対象として、厚生労働省の「動画で学ぶハラスメント」を研修教材として個別で視聴する研修会を開催した。参加者は 47 人であった。 ［活動内容に対する自己評価］ ハラスメント防止に関連した本学に適した講師を探すことに限界があるため、次年度検討することとする。
次年度への課題	1．学生向けハラスメント講演会を実施する。併せて、参加者を増やすため、開催方法や時期、周知方法について検討する。 2．今年度実施時期を変更したキャンパス・ハラスメント実態調査アンケートの回答率を確認しながら、引き続き開催時期および周知方法について見直す。 3．教職員向けの研修会についてより良い実施方法を検討する。

９．就職支援

担　当：就職委員会

本年度の活動目標	１．就職ガイダンス・セミナーの企画・実施 ２．新卒応援ハローワークから、就職支援ナビゲータの派遣 ３．看護師・管理栄養士の管理職経験者による面接練習 ４．就職活動に関する支援活動 ５．求人開拓の実施 ６．教職課程（栄養教諭）履修者への就職支援 ７．卒業生アンケート調査・就職先へのアンケート調査 ８．就職活動と就職支援に関する調査 ９．就職に関する情報交換及び最新情報収集 10. 既卒者、卒業・修了生に対する就職支援 （大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄） 基準７　①～② （中期計画戦略目標に該当する項番記入欄） Ⅶ－Ⅶ－３（１）～（２）、Ⅶ－Ⅶ－４（２）
活動内容の評価	１．就職ガイダンス・セミナー（オンライン含む）の企画・実施について ［活動内容］ １）ガイダンス・セミナーの開催時期の検討、内容の充実・強化 各学科学年の就職活動時期に合わせ、就職スタートアップ、自己ＰＲ作成、マナー講座、小論文・履歴書・エントリーシートの書き方、SPI 受検会、面接対策、公務員試験対策、教員採用試験のガイダンス・セミナーを対面中心とし、オンラインの併用で企画・実施した。 例年１月に実施している栄養学科３年生対象の「就職活動終了者の体験談」は、講師の栄養学科４年生４名に体験談を話してもらい、その後、希望業種別に分かれグループワークを行った。３年生がこれから始まる就職活動に向けての疑問、不安な点等を積極的に質問し、活発なグループワークが行われた。また、資料を GoogleClassroom に投稿し閲覧できるようにした。 助産研究科１年生対象に、就職ガイダンス（自己分析、志望動機の作成、メディアリテラシー）のガイダンスを対面で実施した。 ２）看護学科就職説明会（病院・施設）の企画・実施 実習施設 21 施設が参加して、１月に本学体育館で開催した。看護２年生が 16 名、看護３年生が 55 名、助産１年生が７名　計 78 名が参加した。 ３）栄養学科学内企業説明会の企画・実施 ５月に３社（給食委託、食品、ドラッグストア）、が参加し、ディスカッション形式で栄養学科対象に開催した。 ［活動内容に対する自己評価］ ２年生から４年生の就職活動スケジュールを作成し、スケジュールに沿った内容のガイダンスを情報会社や卒業生が活躍している企業等に支援いただき、企画・開催したことで内容の充実・強化が図れた。各学科の教員と連携して実施したガイダンスは、ほぼ100%の参加であったため、引続き授業予定表を確認し、対面とオンラインを併用して実施する。 また、看護学科就職説明会を、今年度は規模の大きい看護就職情報会社の合同説明会前に開催したことにより、昨年は学年全体で 50 人程の参加であったが、56%参加者が増えたことは評価できる。 栄養学科学内企業説明会については、早期選考を行う３社に参加いただき、３年生の早期就職活動の準備・支援ができたことは評価できる。

２．新卒応援ハローワークから、就職支援ナビゲータの派遣について
［活動内容］
新卒応援ハローワークに、就職支援ナビゲータの派遣依頼をし、毎週１回（12：30～13：30)、一日２名に就活支援を実施した。
［活動内容に対する自己評価］
採用面接の繁忙期（４月から６月）は、学生の希望日時に就職相談室の予約できない時期があるため、新卒応援ハローワークの就職支援ナビゲータの派遣時間を、毎週１回（15：00～17：30)、一日４名に増やして就活支援を実施した。
実習後に面接練習を希望する、複数の学生の支援ができたことは評価できる。

３．看護師・管理栄養士の管理職経験者による面接練習について
［活動内容］
採用面接の繁忙期に、看護師の管理職経験者に、学生の面接練習指導を依頼した。
本年度は常勤の相談員で学生支援体制を確保できたことから、管理栄養士の管理職経験者への依頼は見送った。
［活動内容に対する自己評価］
病院等の採用面接がピークの月に、学生が面接練習を希望する日時に、就職相談室の相談員の予約が取れない状況が改善された。

４．就職活動に関する支援活動について
［活動内容］
１）就職相談員による就職相談・面接練習・履歴書添削等の支援（オンライン含む）
就職相談員による学生支援については、就職支援システムから予約制とし、オンラインまたは対面で、学生の希望に沿った方法で実施した。
進路相談：135 件（昨年 148 件)、書類添削：352 件（昨年 554 件)、面接練習：474 件（昨年 553 件）(2026 年 2 月 16 日現在）なお、本件は延べ人数で集計している。
内定率：看護学科 99％（昨年 99％)、栄養学科 87％（昨年 94％)、助産研究科 100％（昨年 100％)、保健師コース 100％（昨年 100％)、栄養管理学専攻 100％（2026 年 2 月 16 日現在）
キャリア支援の遠隔化の一環として、2021 年 11 月より導入した求人票配信システム「キャリタスＵＣ」（天使大学就職支援ナビ）の操作説明と就活スケジュールを学部２・３・４年生対象と大学院１・２年生に４月初旬に配信し利用を促した。
２）就職委員による就職活動全般の支援
各学科の就職委員、学生支援教員、学務課で連携し、就職活動全般の支援を行った。
［活動内容に対する自己評価］
卒業・修了対象学生に、「天使大学就職支援ナビ」の利用促進を図り、利用率が 100％になったことは評価できる。今後、早期選考に備え低学年にも周知する。

５．求人開拓の実施について
［活動内容］
１）病院・福祉施設等への求人票の送付
学生のニーズに対応するため札幌市内･札幌近郊に、求人依頼のパンフレット等を、病院・福祉施設・保育所・調剤薬局・給食委託・一般企業等へ送付した。
また、関東の病院（400 床以上）にも送付し新規開拓に努めた。
（1,227 施設に 2/16 発送）
２）一般企業（食品・栄養関係）の新規求人開拓
大手食品企業の志望者が増加傾向にあるため、新規求人開拓を行った。
３）病院・企業等の求人来学対応
病院・企業等から、85 件（昨年 73 件）（４月から２月 16 日現在)、採用担当者の訪

問があり、求人票をいただき情報交換を行った。
４）実習先へ、担当教員が求人票を持参した。
［活動内容に対する自己評価］
求人依頼のパンフレットを送付したことで、本学への求人実績がない施設等から、求人票をいただいくことができた。
また、高い倍率の大手食品メーカーから、本学学生が内定をいただくことができたことは評価できる。

６．教職課程（栄養教諭）履修者への就職支援について
［活動内容］
１）教職課程委員会との連携
教職課程委員会と連携し、教職課程履修者への就職活動支援を行った。
２）教員採用試験出題傾向分析と試験対策ガイダンス等の実施
４年次生対象の教員採用１次ガイダンス実施し、願書、資料等を教職課程履修者へ配布した。２次検査対策直前ゼミは、教職課程担当教員等が出題傾向等の分析を行い実施した。その結果、本学の北海道教育委員会選考検査「栄養教諭」の採用登録者は、北海道１名、札幌市０名(一次合格者、北海道４名、札幌市１名)であった。
［活動内容に対する自己評価］
本学から北海道に１名が登録になったことは評価できる。次年度も教職課程委員会と連携し、支援を継続する。

７．卒業生アンケート調査・就職先へのアンケート調査について
［活動内容］
１）卒業生アンケート調査および就職先へのアンケート調査の実施
①卒業・修了生対象就職状況調査
2024 年度卒業生対象：12 月～2/末まで実施中
②就職先アンケート調査
2023 年度 学部卒業生と助産研究科修了生を対象に５月実施
①、②のアンケート調査を Google フォームとアンケート用紙の併用で実施した。
２）卒業生アンケート調査および就職先へのアンケート調査結果の分析・評価・改善
実施したアンケート調査について集計、分析し、改善案を検討した。
３）調査項目の検討（関係部署と連携し実施）
調査項目の検討をし、内部質保証推進委員会に提案・確認後、アンケート調査集計結果を天使大学 HP で情報公開をした。
［活動内容に対する自己評価］
回収率向上に向けて方策を検討し、Google フォームとアンケート用紙の併用で実施した結果、看護学科 62.2%（昨年 65.9%）、栄養学科 49.2%（昨年 64.4%）、助産研究科 57.1%（昨年 80%）であった。
回収率を高めるため、設問内容や回答形式の工夫が必要と考えられる。
令和７年度教育の質に係る客観的指標調査について、卒業生のキャリア状況等の調査を実施・結果の分析し、情報公開した。得点を獲得見込みである。

８．就職活動と就職支援に関する調査について
［活動内容］
１）就職活動と就職支援に関する調査結果の集計・分析・改善
３年生と卒業・修了予定学生を対象に、２月～３月末にアンケート調査を実施している。
［活動内容に対する自己評価］
就活講座、就職相談室の利用・相談内容等について調査することで、学生の不安解消

	や選考準備等の支援に活用できている。 ９．就職に関する情報交換及び最新情報収集について ［活動内容］ １）他大学との情報交換及び最新情報収集 日本私立大学協会北海道支部就職指導研究協議会に参加し、就職支援方法、内定率等について情報交換を行った。 ２）日本私立大学協会・日本私立大学北海道支部、全国私立大学就職指導研究会との情報交換及び最新情報収集 就職指導実務担当者研修会に参加し、就職支援方法、内定率等について、グループ ディスカッションで実情交換等の自由討議を行った。 ３）就職情報関連企業との情報交換及び最新情報収集 就職情報会社から病院、企業等の採用数、採用状況、内定状況等の最新情報を収集し、情報交換を行った。 ４）就職関連研修会・セミナー等への参加 オンラインでの研修会等に参加し、最新情報の収集を行った。 ［活動内容に対する自己評価］ 各大学の取り組みを伺うことができ、大変有意義な研修会であった。今後の業務に活かしたい。 10．既卒者、卒業・修了生に対する就職支援について ［活動内容］ １）求人情報の配信（求職登録者） 求職登録者に求人情報等を配信し、就職支援を行った。 求職登録者数： 13 名（看護学科 1 名、栄養学科 12 名)、内定者数： 0 名 ２）直接来室した場合の就職支援 就職相談に５名の卒業生が来室し、対応した。 ［活動内容に対する自己評価］ 今後も、既卒者の希望する求人情報を速やかにメール配信し、支援を継続する。
次年度への課題	１．就職ガイダンス・セミナーの企画・実施 １）就職ガイダンス・セミナー（オンラインを含む）の開催時期の検討、内容の充実・強化を図る。全員参加のガイダンスは、学科担当教員と連携し授業時間割に入れる。 ２）早期化する就職活動に備えて、低学年対象の講座を企画する。また、就職先選択の準備をするため、学内で、看護学科就職説明会（病院・施設)、栄養学科企業説明会を実施する。 ２．就職活動に関する支援活動 １） ４年次の 11 月末までに一度も就職相談室を利用していない学生を対象に、支援教員と連携して連絡をし、就職活動状況の把握を行い、希望する就職先への内定につなげる。 ２）卒業・修了時アンケートの意見を踏まえて、面接指導の繁忙期は、新卒応援ハローワークの就職支援ナビゲータの派遣や、看護師・管理栄養士の管理職経験者による面接練習の支援を依頼する。 ３．卒業生アンケート調査（12 月実施）・就職先へのアンケート調査（4 月実施）の回答率の向上 スマートフォンを使用し、回答しやすいアンケートを Google フォームで作成する。 ４．就職活動と就職支援に関する調査（2 月実施）の回答率の向上 スマートフォンを使用し、回答しやすいアンケートを Google フォームで作成する。

10．図書館

担　当：　図書情報委員会

本年度の活動目標	1．教育・学修支援 　各学科・研究科と連携を図り、必要な資料の収集・管理・提供をすると共に環境を整備し、学生・院生への多様な支援活動を展開する。 2．研究支援 　本学の学術研究成果等を収集し、機関リポジトリ等で公開する。 3．社会貢献 　他大学図書館等の連携を強化し、社会の活性化に貢献する。 4．情報発信 　ホームページ等の充実を図り、社会に開かれた図書館として積極的に情報を発信する。 5．藤女子大学図書館との連携協力 　藤女子大学図書館と業務改善や利用者サービスの向上等について情報交換会等を企画・実施する。 （大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄） 基準8　教育研究等環境　③ （中期計画戦略目標に該当する項番記入欄） Ⅰ-2（2）、Ⅷ-4（3）、Ⅷ-7（1）
活動内容の評価	1．教育・学修支援について ［活動内容］ 各学科・大学院からの要望に応じ、図書館利用案内、蔵書検索、文献検索方法等について、授業との連携により図書館司書職員がガイダンスを実施した。 ［活動内容に対する自己評価］ 情報リテラシー教育の必要性を重視し、授業との連携によりガイダンスを実施したことは評価できる。 学術データベースについては、ID・パスワードを申請することで、学外からも文献検索をすることができ、多くの学生からの申請に対応していることは評価できる。（10月から一部学認認証を導入） ［活動内容］ グループ学習室の運用ルールを改正した。 ［活動内容に対する自己評価］ グループ学習室をさらに利用しやすくするため、利用目的、利用時間、利用方法等の運用規則の改正を行った結果、利用率が約2倍となったことは評価できる。今後も利用者の声に耳を傾け、利用促進に努める。 2．研究支援について ［活動内容］ 本学教員等の紀要論文は機関リポジトリに登録し、その他の学術論文等はホームページで公開した。 ［活動内容に対する自己評価］ 本学教員、修了生等の教育・研究活動の成果を機関リポジトリやホームページで公開し、広く社会へ情報を発信したことは評価できる。

３．社会貢献について

［活動内容］

文献複写・相互貸借の対応については、他大学からの文献複写受付が多く、その都度、丁寧に対応した。

［活動内容に対する自己評価］

本学図書館は、現在入手困難で貴重な専門書を多数所蔵しているため、全国の医療系大学等からの受付依頼があり、迅速かつ丁寧に対応したことは評価できる。

［活動内容］

11 月に北海道病院ライブラリー研究会事務局から図書館見学の依頼があり、本学図書館の特徴や企画展示等の案内を実施した。

［活動内容に対する自己評価］

研究会参加者（病院図書室司書等）から当館の印象について「コンパクトだが、その中で工夫をこらして配置された書架と専門書を中心とした図書が整備されている。利用者の目的に合わせた閲覧席が配置され、広く利用されている。何より教会のような温かい雰囲気を感じ心が洗われた」等、感想をいただいた。カトリック大学の図書館として、最高のお褒めの言葉をいただけたことは評価できる。

４．情報発信について

［活動内容］

図書館ホームページで新着図書案内等、随時、新しい情報に更新した。

［活動内容に対する自己評価］

図書館ホームページで随時、利用者に最新情報を提供できたことは評価できる。

［活動内容］

１）企画展示を８回実施した。

	企画展示テーマ	展示期間
1	春はスタートライン！ 新しいこと始めませんか？	４月１日～６月６日
2	教皇フランシスコ追悼	４月 25 日～５月 29 日
3	2025 本屋大賞	６月６日～８月 29 日
4	秋の夜長に「夜」を楽しむ本	９月１日～10 月３日
5	心も体もあたたまる！HAPPY HALLOWEEN！	10 月６日～11 月４日
6	お米のチカラ～米を通して食を知る～	11 月４日～11 月 28 日
7	クリスマスを待ちながら お家時間を楽しむ	12 月１日～12 月 24 日
8	2025 料理レシピ本大賞 IN JAPAN	１月９日～３月 14 日

２）特設展示を実施した。

（１）全学講演会講師公文和子氏の著書を展示した。（ケニアで活動する小児科医）

（２）天使学園の歴史を紹介するメモリアルコーナーを設置し、資料等を展示した。

［活動内容に対する自己評価］

企画展示を定期的に実施し、テーマに沿った情報を発信したことは評価できる。それに伴い、図書館施設の多様な有効活用と利用者数の増加、そして交流の機会の拡大が図られた。また、本学のこれまでの歴史的資料等についても、随時収集と保存に努め、関連する行事等の際には、適宜展示していきたい。

今後も常に最新情報を取り入れながら、閲覧室の環境整備に努めたい。

	５．藤女子大学図書館との連携協力 ［活動内容］ 藤女子大学・天使大学図書館情報・意見交換会を３回（６月、７月、10 月）実施した。 ［活動内容に対する自己評価］ 相互理解を深めながら、資料費の削減、相互協力の強化、図書館システムの運用等について、両大学の問題点や課題を挙げ、意見交換を行ったことは評価できる。 ６．その他の活動 ［活動内容］ 「天使大学研究データポリシー」を策定した。 ［活動内容に対する自己評価］ 本委員会で提案し、本学研究倫理委員会にも審議を依頼し、天使大学研究データポリシーを 10 月に策定したことは評価できる。翌 11 月には本学図書館ホームページにて公表し、AXIES-JPCOAR 研究データ連絡会ホームページにも掲載された。 ［活動内容］ 2024 年度～2025 年度にかけて、「学認（GakuNin：学術認証フェデレーション）」の実証実験に参加し、学認接続による学外からの学術データベースの利用を可能にした。 ［活動内容に対する自己評価］ 以前は、学外利用希望者が事前に ID・パスワードの発行を図書館に申請し、職員がが随時個別対応をしていたが「学認」の導入により発行手続が不要になったことで、利用者の利便性向上と業務の効率化につなげたことは評価できる。 ［活動内容］ 学術雑誌や電子ジャーナル、追録の継続講読について、見直しを行った。 ［活動内容に対する自己評価］ 近年高騰している学術雑誌や電子ジャーナルについて調査に基づき、利用頻度が低い雑誌に対し、本委員会・学科・研究科で検討し、講読を中止した。また、オープンアクセスで閲覧可能な雑誌についても講読を中止した。 ※削減額：約 1,800,000 円 追録については、e-GOV ポータルや各種六法等で代用が可能なため、本委員会・栄養学科で検討し中止した。 ※削減額：約 60,000 円 継続講読の見直しをしたことで予算削減につなげたことは評価できる。
次年度への課題	１．文献検索ガイダンス等の実施による教育・学修支援 ２．閲覧室やグループ学習室、AV ルームの環境整備 ３．学術論文等の即時 OA 義務化に関する支援 ４．図書館ホームページ等での情報発信の充実 ５．藤女子大学図書館との連携

１１．情報処理システム

担　当：図書情報委員会

本年度の活動目標	１．学内 PC の入替 ２．システム安定稼働継続 ３．システム更改および PC 入替後の機器撤去 ４．藤女子大学情報処理関連部署との連携 （大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄） 第８章　教育研究等環境　① （中期計画戦略目標に該当する項番記入欄） Ⅷ－４
活動内容の評価	１．学内 PC の入替について ［活動内容①］ Windows10 のサポート終了に伴い、院生学習室 PC（看栄研）を Windows11 に入れ替える対応を行った。 ［活動内容①に対する自己評価］ 院生の PC 利用に影響が出ないように PC の入れ替えを進めた点は評価できる。 また、Windows10 のサポート終了前に入替作業を行い、セキュリティリスクを回避した点も評価できる。 ［活動内容②］ Windows10 のサポート終了と同時期に、Office2016 のサポートも終了したため、学内の Office を Office2021 に入れ替える対応を行った。 ［活動内容②に対する自己評価］ Office2016 のサポート終了前に入替作業を行い、セキュリティリスクを回避した点は評価できる。 ２．システム安定稼働継続について ［活動内容①］ 2024 年度に、学生のインターネット回線が遅いことにより、以下３点の問題が発生していた。 １）学生満足度調査で、インターネット回線が遅いことに多くの不満が出ている。 ２）講義中、学生が一斉にインターネットを利用する際、サイトの閲覧等に時間がかかり、講義の進行に支障が出ている。 ３）学生が学術データベースで文献検索する際、時間がかかり学習に影響が出ている。 2025 年７月に学内のインターネット回線を増強し、本事象を改善した。 ［活動内容①に対する自己評価］ 教育機関にとって重要な教育環境の課題を解決したことは評価できる。 また、今回のタイミングで教職員のインターネット回線についても検討し、安価で速度の速い回線に切り替えることができた点も評価できる。

［活動内容②］

2025 年１月に、現在の学生の PC 活用方法を踏まえ、情報処理室の環境を整備した。学生が自分の PC から直接資料を印刷できる環境や自分の PC で作業できるスペースを提供したことで、2025 年度の利用者が前年度の約 1.5 倍となった。

［活動内容②に対する自己評価］

学生の PC 活用方法に対応した環境整備を行い、実際に利用者の増加という効果が見られた点は評価できる。

［活動内容③］

2024 年度末～2025 年度にかけて、学認（国立情報学研究所が提供するシステム）の実証実験に参加し、本学に学認を導入したことで以下２点の効果が見られた。

１） 義務化される取り組みへの対応が可能

2025 年度の科研費等の新規公募分より、公的資金による支援を受けた研究者（受給者）は、学術論文及び根拠データを学術誌掲載後速やかに無料公開（即時オープンアクセス化）することが義務化される。

学認を活用することで、本取り組みへの対応が大幅に可能となった。

２） アカウント発行業務の削減と学生サービスの向上

従来、学生が学外から学術データベースを利用する際には、事前申請により、図書館職員が個別に閲覧アカウントを発行していたため、休日を挟む場合等は、利用までに数日要することがあった。

学認導入後は、学生が自身の天使大学 Google アカウントでログインすることで即時に利用できるようになり、以下の効果が得られている。

（１）学生サービスの向上

学生が学内外を問わず必要なタイミングで簡単かつ迅速に学術データベースを活用できるようになった。

学生サービスが向上したことに伴い、学生の利用者は学認導入前の約 10 倍に増加した。（2025 年 10 月集計結果）

（２）アカウント発行業務の削減

図書館職員による年間 200 件以上のアカウント発行業務が削減された。

［活動内容③に対する自己評価］

義務化される取り組みへの対応を行うだけでなく、導入した仕組みを用いて学生サービスを向上させることができた点は評価できる。

３．システム更改および PC 入替後の機器撤去について

［活動内容①］

2024 年度に対応した、システム更改及び PC 入替で不要となった機器を撤去した。

［活動内容①に対する自己評価］

大量の廃棄品を計画的に撤去できた点は評価できる。

	４．藤女子大学情報処理関連部署との連携について ［活動内容①］ 　藤女子大学・天使大学情報部署の情報・意見交換会を６月に対面で実施し、その後、複数回に渡り各大学のシステム構成等の情報共有をオンラインにて行った。 ［活動内容①に対する自己評価］ 　各大学のシステム構成を把握し、法人としてのシステムの在り方について検討の準備を進めている点は評価できる。
次年度への課題	１．システム安定稼働継続 ２．学内 LAN 掲示板（ガルーン）を用いた決裁システムの導入検討

12. 施設・設備

担　当：　事務局（財務課）

本年度の活動目標	1．財務計画に基づいた施設・設備の整備を行う。 （大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄） 基準８教育研究等環境④ （中期計画戦略目標に該当する項番記入欄） Ⅸ-3
活動内容の評価	1．財務計画に基づいた施設・設備の整備を行う。 ［活動内容］ 2025 年度に行った主な改修工事等は以下のとおりである。 ①４号館階段部分壁面塗装工事 ②教職員駐車場整備工事 ［活動内容に対する自己評価］ 経年劣化により塗装が剥がれている状態であった４号館階段部分壁面の塗装工事を行った。また、教職員駐車場で陥没している部分が複数個所、発見されたことから、急遽、補修工事を実施した。 その他、給水管や整備機材の故障が相次いだが予算の都合上、全ての事業を実施することは難しく、先送りせざる得ない状況であった。先送りした補修・修繕工事は 2026 年度に順次、取り組む予定である。 財務計画で予定していた６号館外壁補修工事は 2026 年度に先送りし、2025 年度は外壁補修前の事前調査としてタイル打診調査を実施した。これにより、工法を見直すことができ、当初の見積額を大幅に削減できる予定である。
次年度への課題	1．６号館外壁補修工事及び３号館女子トイレの排水管更新工事が大きな修繕工事である。教育活動への影響を最小限に抑えながら行っていく。 2．大学基準協会からの認証評価結果案を受け、「教育研究等環境の整備に関する方針」を関係する部局と連携し制定する。

１３．管理運営

担　当：　事務局（総務課）

本年度の活動目標	１．藤天使学園中期計画の策定に伴う天使大学中期計画の見直し ２．天使大学顧問の創設 （大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄） 基準 10　大学運営・財務－（１）大学運営－①・② （中期計画戦略目標に該当する項番記入欄） 戦略目標Ⅱ－１（１） 戦略目標Ⅸ－７（１）
活動内容の評価	１．藤天使学園中期計画の策定に伴う天使大学中期計画の見直しについて ［活動内容］ 現在、藤天使学園中期計画案が検討されており、この学園中期計画の重点項目に対する行動目標について各設置校で検討しているが、本学では 2025 年７月に天使大学学長指針を策定しており、藤天使学園中期計画及び天使大学学長指針と天使大学中期計画を関連付けながら見直しを検討している。 ［活動内容に対する自己評価］ 学園中期計画の策定及び大学中期計画の見直しに向けて、2025 年度は学長指針を策定したことにより、学園中期計画における具体的な行動目標が設定され、学園中期計画に紐づけられた大学中期計画が検討されたことは評価できる。 ２．天使大学顧問の創設について ［活動内容］ 天使大学管理運営組織規程を一部改正し、本学に顧問を置くことができるようにした。 ［活動内容に対する自己評価］ 顧問は、学長に対して大学の全学的な課題に対しての助言、協力を行い、本学の諸会議に出席することとしており、2026 年度には藤女子大学学長を委嘱する予定である。本学学長についても藤女子大学の顧問に任命されており、両大学の課題を共有しながら、連携を深めていけることは評価できる。
次年度への課題	１．教職員の適正な労務管理及び健康管理に伴う規程の整備 ２．2026 年度以降の天使大学中期計画の策定

14. 財務

担　当：　事務局（財務課）

本年度の活動目標	１．未整備の財務諸規程を見直す。 ２．法人全体の中・長期計画に紐づいた天使大学の中・長期財務計画の策定。 （大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄） 基準 10 大学運営・財務(財務)② （中期計画戦略目標に該当する項番記入欄） Ⅳ-１（３）、Ⅳ-２（３）
活動内容の評価	１．財務諸規程の見直し ［活動内容］ 新規制定及び規程改正したものは次のとおりである。 ①旅費規程 ②国外旅費規程 ③旅費取扱要領 ③資産運用に関する規程 ④研究費に関する規程 ［活動内容に対する自己評価］ 旅費規程は旅行に要する実費を弁償するものとする考えのもと改正を行った。支給上限額や提出すべき資料等についての問い合わせが続いたため、８月に「旅費規程よくあるご質問」を作成したが、更に旅費申請者がわかりやすいものにするため、2026 年度の早い時期に更新したいと考えている。また、改正が遅れていた国外旅費規程については、両大学間での調整が整ったため７月に改正した。 研究費に関する規程は、予算編成方針時に配分額の減額が示されたことによる改正であった。研究費ワーキンググループから学長へ提出された答申を受けて、2027 年度からの運用を目指し、配分額や助成方法について検討が開始される見込みである。 ２．天使大学の中・長期財務計画の策定 ［活動内容及び活動に対する自己評価］ 法人全体の中・長期計画の策定に時間を要したことから、それに基づく天使大学の中・長期計画の策定はできなかったが、管理運営協議会や予算会議で、本学の財政状況と課題を共有できた。入学定員未充足が続いていることや、施設整備の修繕費用が大きいことから、2027 年度から看護栄養学部の授業料を値上げすることが決定しているが、大学院についても検討しなければならないと考えている。
次年度への課題	１．安定的な大学運営を目指し、適切な収支計画を策定する。 ２．未整備の財務諸規程を見直す。

１５．事務組織

担　当：　事務局（総務課）

本年度の活動目標	１．藤天使学園との連携における事務職員の配置及び適切な業務運営 ２．事務組織に関わる規程の改正及び新規制定 （大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄） 基準 10　大学運営・財務－（１）大学運営－①・②・③ （中期計画戦略目標に該当する項番記入欄） 戦略目標Ⅱ－１（１） 戦略目標Ⅸ－１（１） 戦略目標Ⅸ－４（１）
活動内容の評価	１．藤天使学園との連携における事務職員の配置及び適切な業務運営について ［活動内容］ ① 藤天使学園（以下、「本学園」という。）との連携における事務職員の配置については、天使大学（以下、「本学」という。）事務局長が本学園法人局長を兼務し、本学財務課職員２名が法人局法人課職員を兼務した。 ② 法人局会議の構成員として、事務局長、事務局次長、総務課長、財務課長が出席している。 ［活動内容に対する自己評価］ ① 2025 年度は、本学職員３名に対して兼務発令があり、法人局職員として兼務した結果、藤天使学園中期計画及び藤天使学園の予算・決算等の策定に深く関与できたことは評価できる。 ② 法人局会議は、本学、藤女子大学及び藤女子中学校・高等学校の職員により構成され、各設置校から提出された常任理事会及び理事会の議案の整理及び各設置校の課題等の情報共有を行っていることは評価できる。 ２．事務組織に関わる規程の改正及び新規制定について ［活動内容］ ① 2025 年度は、藤女子大学と本学の就業規則及び給与規程等のすり合わせを行うため、両大学における就業規則等検討打ち合わせ会を実施した。 ② 「藤天使学園法人局兼務職員の就業に関する内規」、「藤天使学園内出向規程」の新規制定及びそれに伴う各設置校の規程改正を行った。 ［活動内容に対する自己評価］ ① 今後の職員の新規採用等を想定し、両大学のある就業規則及び給与規程等の内容を統一すべく検討打ち合わせ会を行い、両大学において一定の成果が出たことは評価できる。 ② 検討打ち合わせ会において、本学園法人局と兼務する職員及び本学園内で出向する職員に対する兼務職員の就業に関する内規及び本学園内出向規程を新規制定し、それに伴う本学の就業規則の一部改正についても実施したことについては評価できる。
次年度への課題	１．法人局兼務職員、出向職員を踏まえた本学事務局の適正な体制の検討 ２．事務職員の適正な労務管理

１６．自己点検・評価活動

担　当：IR 委員会

本年度の活動目標	１．IR 室と連携した教学事項に関わる分析と評価 ２．IR 室と連携した情報収集・管理システムの継続的な改善 ３．IR に関する学内研修会の開催 ４．IR に関する学外での研修会・研究会への参加 （大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄） 基準２　内部質保証③ （中期計画戦略目標に該当する項番記入欄） Ⅱ－１　質保証への対応（４）
活動内容の評価	１．IR 室と連携した教学事項に関わる分析と評価 ［活動内容］ 2025 年度は、IR 室と連携して、「2025 年度入学者アンケート」「2021 年度入学者国家試験結果（看護）」「2021 年度入学者国家試験結果（栄養）」「2025 年度総合型選抜（みらい入試）の効果測定」について分析し、その結果をまとめた。分析結果については教授会で報告を行ったほか、IR 委員会主催の FD 研修会において学内に周知した。 ［活動内容に対する自己評価］ 各種分析結果を整理し学内に周知したことは、次年度以降の学生支援や国試対策強化など、本学における教育活動の改善に繋がるため、評価できる。尚、総合型選抜の効果測定は 1 年次の時点での分析となるため、今後は評価項目の検討を含めて 4 年間を通した検証が必要と考える。 ２．IR 室と連携した情報収集・管理システムの継続的な改善 ［活動内容］ IR 活動の実施にあたり、各部局が保有するデータを活用する際は、責任者（委員長等）の決裁を受けた上でデータの提供を受けて分析等を行うこととしているが、IR 室と連携しながら、情報収集及び情報管理を適切に行った。 また、現状の情報収集・管理システムの改善について、検討を行った。 ［活動内容に対する自己評価］ 現状としては、活用するデータの収集及び管理について適切に行われており、情報収集・管理システムについては着実に遂行できた。今後も引き続き、データの収集及び分析をより円滑に進めることができるよう検討を進める。 ３．IR に関する学内研修会の開催 ［活動内容］ 2026 年 3 月 6 日に、「生成ＡＩの教育利用の可能性について考える」ことを目的として、北見工業大学　基礎教育系　准教授 中村文彦氏を講師として招き、本学教員を対象とした FD 研修会（第 1 回）を開催した。また、3 月中のオンデマンド配信の形で、IR 委員長から今年度の分析結果を報告する FD 研修会（第 2 回）を開催した。 ［活動内容に対する自己評価］ 研修会の開催により、本学の国家試験や入試方法の変更に伴う学生の変化についての現状認識が深まった。また今後 IR も積極導入を目指している生成 AI の活用について、教育利用がテーマではあるが実践例を紹介することで、大学としての実装

	に向けた理解や議論を深めることができた。教員の教育改善に資する可能性も期待できる。次年度以降も、引き続き本学における教育の質向上に向けた取組に繋がるテーマを設定し、研修会を開催する。 ４．IR に関する学外での研修会・研究会への参加 ［活動内容］ 次の研修会・研究会に参加し、本学の IR 活動において必要となる分析等に関することについて、情報収集及び情報交換を行った。 ・第 17 回データサイエンス及び機関研究に関する国際会議（DSIR2025） 開催場所：北九州国際会議場（福岡）、会期：2025 年 7 月 13 日～19 日 ・第 14 回 MJIR 研究集会 開催場所：麻布大学（神奈川）、会期：2025 年 11 月 7 日～9 日 ・第 2 回　北海道 IR 研究集会 開催場所：北見工業大学（北見市）、会期：2026 年 2 月 7 日 ［活動内容に対する自己評価］ 他大学の教学 IR 関係者との情報交換から、学修成果の可視化をはじめ教学データ分析について知見を深めることができ、また情報収集することができた。次年度以降も引き続き、情報収集に努める。
次年度への課題	１．ＩＲ室と連携した教学事項に関わる分析と評価 今年度に引き続き、ＩＲ室が実施した分析・報告書について審議し、教員組織としての意見を提言する。 昨年度から公開している「データから見えてくる天使大学」の情報更新に向けて準備を行う ２．ＩＲ室と連携した情報収集・管理システムの継続的な改善 ＩＲ室が行う情報収集・管理システムについて審議し、改善に向けた意見を提言する。特にデータ分析の自動化に向けた取り組みを推進する ３．ＩＲに関する学内研修会の開催 今年度に引き続き、本学の教育の質改善に資する研修会を企画・実施する ４．ＩＲに関する学外での研修会・研究会への参加 引き続き、IR での分析や本学の教育の質改善に資する情報の収集を行い、本学での IR 分析に反映させるように努める

16. 自己点検・評価活動

担　当:教学マネジメント委員会

本年度の活動目標	1)(学部) 学修成果・教育成果の把握・可視化にむけて、2020 年度以降カリキュラムの評価、およびアセスメントポリシーに基づく教育活動の評価を推進し、教育・研究の向上に向けた検討を進める。 2）新カリキュラムの制定に向けて「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程・実施の方針」「入学者受け入れの方針」の「三つの方針」の具体化をカリキュラム検討委員会と共同して検討する。 3）(学部) 昨年度、DP の到達度評価等の分析結果から課題を抽出し、その課題の検討を担当部署に要請した。その回答を受け、今後の教学の方針及び新カリキュラムについて検討する。 4）(大学院) アセスメントポリシーの活用について検討を進める。 (大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄) 基準　2－①. 4-⑤. 5-③ (中期計画戦略目標に該当する項番記入欄) Ⅱ-1. Ⅲ-1,2,3. Ⅳ-1,2
活動内容の評価	1. 学修成果・教育成果の把握・可視化について [活動内容] アセスメントポリシーに基づき収集されたデータに関して、IR が分析計画に則り分析し、適宜教授会、FD 等で報告共有された。 [活動内容に対する自己評価] 学生の DP 到達度評価結果やその他のデータをカリキュラムの課題抽出に活用はできた一方、その他の分析結果を活用する仕組みの検討に至らず、今後の課題となった。 2．新カリキュラムの制定に向けてカリキュラム検討委員会と共同して検討する。 教学マネジメント委員会で抽出した課題とカリキュラム編成の方針について、カリキュラム委員会と共有した。 [活動内容] 本委員会が提示した方針に基づき、カリキュラム委員会が主体的に新カリキュラム制定にむけて活動し、方向性が概ね合意形成されつつある。 [活動内容に対する自己評価] カリキュラム委員会との連携は限定的であったが、概ね目標は達成した。 3．DP の到達度評価等の分析結果から課題を抽出し、課題の検討を担当部署に要請した。その回答を受け、今後の教学の方針及び新カリキュラムについて検討する。 [活動内容] 2.に記載 [活動内容に対する自己評価] 2.に記載 4．大学院看護栄養学研究科、助産学研究科のアセスメントポリシーの活用について検討する。 [活動内容] 今年度は、大学院のアセスメントポリシーの活用に関する検討に至らなかった。 [活動内容に対する自己評価] 大学院の院生数が少ないことから、データ数が少なく、組織的な評価に繋げにくい側面がある。大学院の特性を考慮した活用方法を検討する必要がある。 全体を通して、今年度は限定時になった。認証評価において、内部質保証推進委員会との役割分担を明確にする必要が指摘され、今後の課題となった。

次年度への課題	1．学部及び大学院のアセスメントポリシーに基づき、教育活動の評価を引き続き推進し、教育・研究の向上に向けた検討を進める。 2．内部質保証推進委員会との役割機能の分担について検討する。 3.大学院のアセスメントポリシーの活用について、学生数等現状に即して検討を進める。

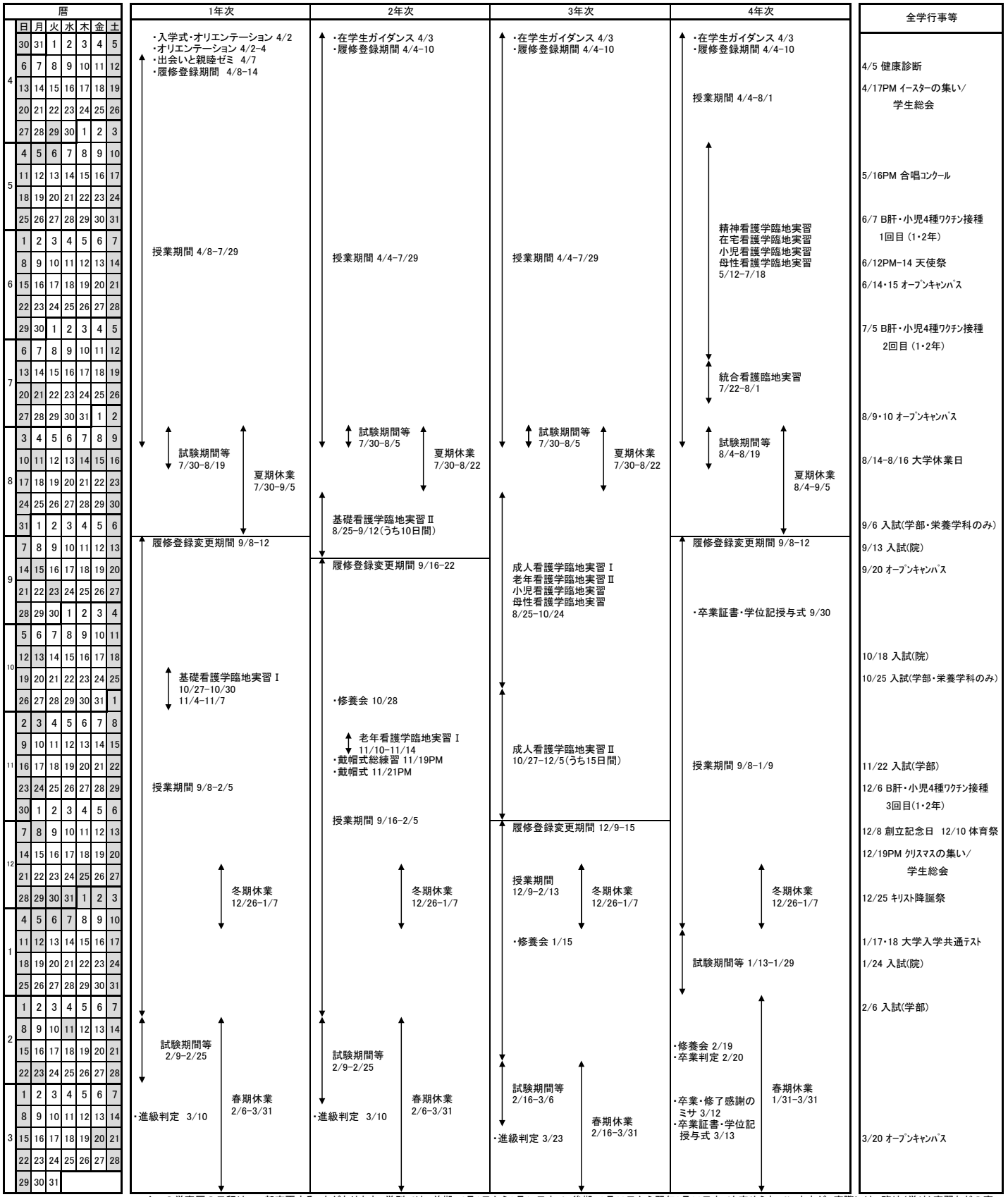
自己点検・評価資料

目　次

１．学事暦・・・

2025年度　学事暦【看護学科】

2024.9.17
教授会承認



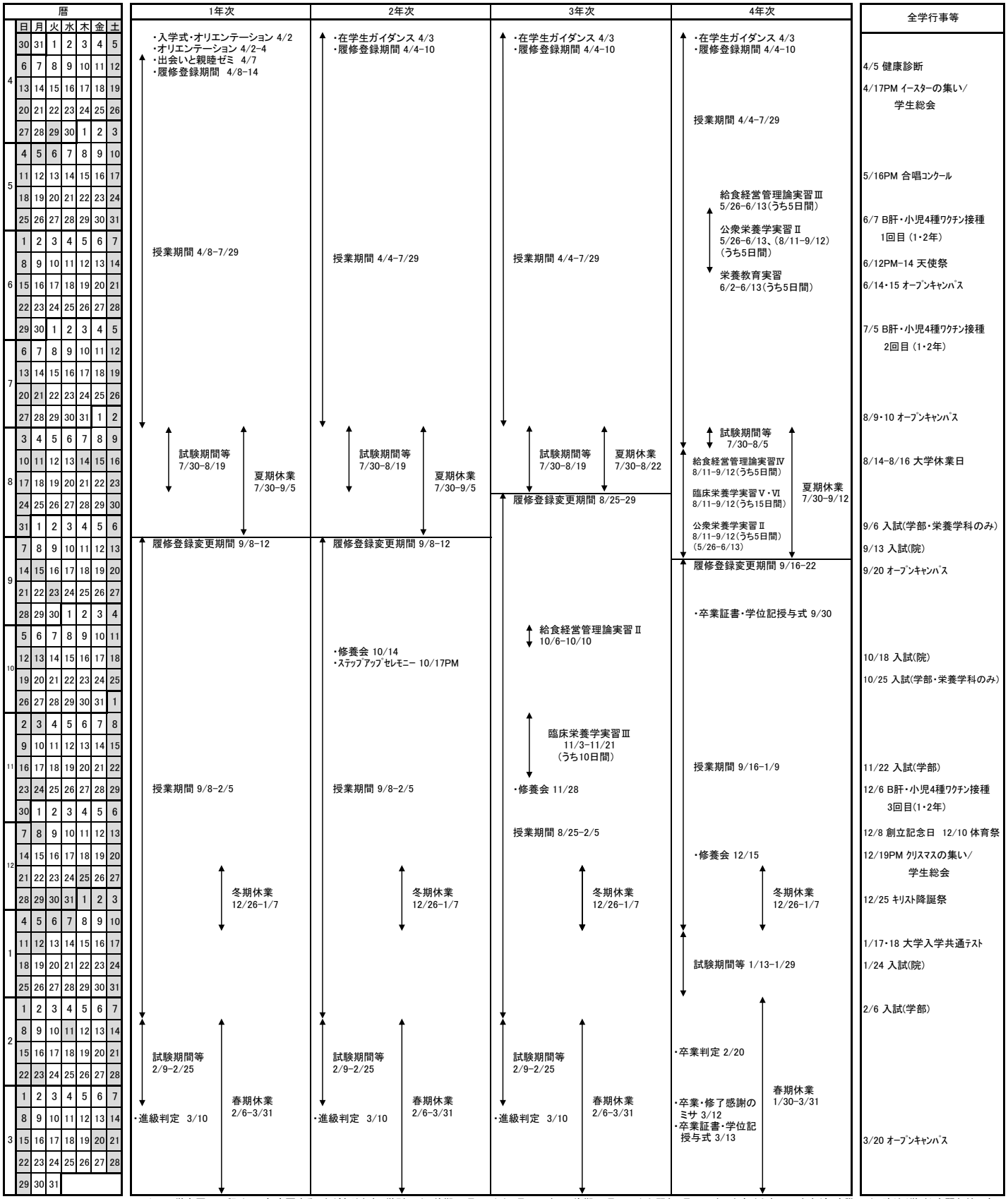
◆この学事暦の日程は、一部変更することがあります。学則では、前期　4月1日から9月15日まで、後期　9月16日から翌年3月31日までと定められていますが、実際には、臨地（学外）実習などの事情により、学科・学年ごとに学事暦が異なります。

◆土日・祝日は必要に応じて開講日とします。授業予定の詳細については各学科・学年ごとに示される授業予定表で確認してください。

◆当該学期の「授業期間」に授業を実施・終了します。授業外試験、追・再試験、補講等については、科目責任者等の判断により、授業の進度に応じて適宜「授業期間」及び「試験期間等」に行うことができます。なお、「試験期間等」の期間に授業外試験、追・再試験、補講等がない学生は、休業期間となります。

2025年度　学事暦【栄養学科】

2024.9.17
教授会承認



◆この学事暦の日程は、一部変更することがあります。学則では、前期　4月1日から9月15日まで、後期　9月16日から翌年3月31日までと定められていますが、実際には、臨地（学外）実習などの事情により、学科・学年ごとに学事暦が異なります。

◆土日・祝日は必要に応じて開講日とします。授業予定の詳細については各学科・学年ごとに示される授業予定表で確認してください。

◆当該学期の「授業期間」に授業を実施・終了します。授業外試験、追・再試験、補講等については、科目責任者等の判断により、授業の進度に応じて適宜「授業期間」及び「試験期間等」に行うことができます。なお、「試験期間等」の期間に授業外試験、追・再試験、補講等がない学生は、休業期間となります。

2025年度　大学院看護栄養学研究科学事暦

暦							
	日	月	火	水	木	金	土
4	30	31	1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	1	2	3
5	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31
6	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	1	2	3	4	5
7	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31	1	2
8	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31	1	2	3	4	5	6
9	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	1	2	3	4
10	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	1
11	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	1	2	3	4	5	6
12	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31	1	2	3
1	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31
2	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
3	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

行事予定	全学行事等	臨地実習
4/2 入学式・オリエンテーション 4/3授業開始（前期） 4/3～9 履修登録期間 4/11【M】【D】研究計画書発表会（看護学専攻2年次以降）	4/5 健康診断	
	4/17　PM ｲｰｽﾀｰの集い	
	5/16PM 合唱ｺﾝｸｰﾙ	
5/30【D】早期修了申請書提出（看護学専攻）		6/9～7/4（20日間）
	6/14・15　オープンキャンパス	ホスピス緩和ケア看護学実習Ⅱ（2年次）
		6/10～27（10日間）
		高度実践在宅看護学実習Ⅲ（2年次）
		6/16～7/4（うち5日間）
7/1～7/4【M】【D】学位論文の提出（9月修了者）		公衆衛生看護管理実習Ⅱ
		7/14～7/25（10日間）
7/22【M】【D】学位論文発表会・論文審査会（9月修了者）		ホスピス緩和ケア看護学実習Ⅲ（2年次）
7/30【M】【D】中間発表会（栄養管理学専攻2年次以降）		7/15～31（10日間）
	8/9・10　オープンキャンパス	高度実践在宅看護学実習Ⅴ（2年次）
	8/14-8/16 大学休業日	
8/18　13:00まで【M】【D】修正済み論文提出　（9月修了者）		8/25～8/29（うち2日）
8/25 授業開始（後期） 8/25～29 履修登録変更期間		公衆衛生看護活動実習（1年次）
	9/6 入試（学部・栄養学科のみ）	9/1～2/23（週1回）
9/12　17:00まで【M】研究計画書提出（看護学専攻2年次以降）（10月研究計画発表者）	9/13　大学院推薦型選抜	家族看護継続実習（1年次）
	9/20　オープンキャンパス	9/2～9/19（10日間）
		高度実践在宅看護学実習Ⅱ（1年次）
9/30 前期修了 卒業証書・学位記授与式		
10/15【M】研究計画書発表会（看護学専攻2年次以降）（10月研究計画発表者）	10/18 大学院一般選抜（Ⅰ期）	10/14～30（10日間）
	10/25 入試（学部・栄養学科のみ）	高度実践在宅看護学実習Ⅰ（1年次）
10/30 17:00まで【D】学位論文の提出（看護学専攻予備審査）		10/14～11/7（うち12日間）
		公衆衛生看護活動実習（1年次）
		11/10～11/21（うち10日間）
11/28　17:00まで【M】課題研究論文の提出（保健師コース）	11/22 入試（学部）	公衆衛生看護管理実習Ⅰ（1年次）
11/28【D】早期修了申請書提出（看護学専攻）（9月修了者）		
12/10【M】課題研究論文発表会・論文審査会 （保健師コース）	12/8 創立記念日	
	12/19PM ｸﾘｽﾏｽの集い	
	12/25　キリスト降誕祭	
1/9【M】17:00まで　修正済み課題研究論文提出（保健師コース）		
1/13～16【M】【D】学位論文の提出	1/17・18 大学入学共通ﾃｽﾄ	
	1/24 大学院一般選抜（Ⅱ期）	
1/29【M】【D】学位論文発表会・論文審査会		
	2/6 入試（学部）	
2/12　17:00まで【M】【D】修正済み論文提出 2/13 後期授業終了 2/20 修了判定 2/27　17:00まで【D】学位論文の提出（看護学専攻予備審査）（9月修了者）		
	3/12　卒業・修了感謝のミサ 3/13　卒業証書・学位記授与式	
3/19　17:00まで【M】【D】研究計画書提出（看護学専攻1年次） 3/27　17:00まで【M】【D】研究計画書提出（看護学専攻2年次以降）	3/20　オープンキャンパス	

この学事暦の日程は、一部変更することがあります。学則では、前期　4月1日から9月30日まで、後期　10月1日から翌年3月31日までと定められていますが、事情により変更する場合があります。

【M】は博士前期課程、【D】は博士後期課程を示します。

2025年度　天使大学大学院 助産研究科 学事暦

【前期】

	日	月	火	水	木	金	土	行事予定等	
4月			1	2	3	4	5	2日(水)	入学式･新入生ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ
	6	7	8	9	10	11	12	3日(木)	新入生ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ･2年次ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ
	13	14	15	16	17	18	19	4日(金)	入学時修養会「出会いと親睦のｾﾞﾐ」
	20	21	22	23	24	25	26	5日(土)	定期健康診断
	27	28	29	30					
5月					1	2	3		
	4	5	6	7	8	9	10		
	11	12	13	14	15	16	17	16日(金)	合唱コンクール(午後)
	18	19	20	21	22	23	24	19日(月)	基礎2年：「ﾏﾀﾆﾃｨｻｲｸﾙ独立助産実習」開始
	25	26	27	28	29	30	31		
6月	1	2	3	4	5	6	7		
	8	9	10	11	12	13	14	9日(月)	基礎1年：「ﾏﾀﾆﾃｨｻｲｸﾙ助産ｹｱ基礎実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」開始
	15	16	17	18	19	20	21		
	22	23	24	25	26	27	28		
	29	30							
7月			1	2	3	4	5	4日(金)	基礎2年：「ﾏﾀﾆﾃｨｻｲｸﾙ独立助産実習」終了
	6	7	8	9	10	11	12		
	13	14	15	16	17	18	19		
	20	21	22	23	24	25	26		
	27	28	29	30	31				
8月						1	2		
	3	4	5	6	7	8	9	8日(金)	基礎1年：「ﾏﾀﾆﾃｨｻｲｸﾙ助産ｹｱ基礎実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」終了
	10	11	12	13	14	15	16	12日(火)～22日(金)	基礎1･2年：補講期間･前期定期試験
	17	18	19	20	21	22	23	25日(月)	夏季休暇開始
	24	25	26	27	28	29	30		
	31								
9月		1	2	3	4	5	6	1日(月)	基礎2年：「ﾏﾀﾆﾃｨｻｲｸﾙ助産ｹｱ統合実習Ⅱ」開始
	7	8	9	10	11	12	13		
	14	15	16	17	18	19	20	19日(金)	夏季休暇終了
	21	22	23	24	25	26	27		
	28	29	30						

前期

学年	専攻	学内授業期間	臨地実習期間	
1年次	基礎	4月 7日(月) ～ 6月 6日(金) 8月12日(火) ～ 8月22日(金)	基礎実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	6月 9日(月) ～ 8月 8日(金) (期間内1人当り：原則6週間)
	教育		―――	―――
2年次	基礎	4月 4日(金) ～ 5月16日(金) 8月12日(火) ～ 8月22日(金)	独立助産実習	5月19日(月) ～ 7月 4日(金) (期間内1人当り：原則6週間)
	教育	―――	―――	―――

2025年度　天使大学大学院 助産研究科 学事暦

【後期】

	日	月	火	水	木	金	土	行事予定等	
10月				1	2	3	4		
	5	6	7	8	9	10	11		
	12	13	14	15	16	17	18		
	19	20	21	22	23	24	25		
	26	27	28	29	30	31			
11月							1		
	2	3	4	5	6	7	8	7日（金）	基礎2年：「ﾏﾀﾆﾃｨｻｲｸﾙ助産ｹｱ統合実習Ⅱ」終了
	9	10	11	12	13	14	15	10日（月）	基礎1年：「ﾏﾀﾆﾃｨｻｲｸﾙ助産ｹｱ統合実習Ⅰ」開始
	16	17	18	19	20	21	22		
	23	24	25	26	27	28	29		
	30								
12月		1	2	3	4	5	6		
	7	8	9	10	11	12	13	8日（月）	創立記念日
	14	15	16	17	18	19	20		
	21	22	23	24	25	26	27	19日（金） 25日（木） 26日（金）	ｸﾘｽﾏｽの集い（午後） ｷﾘｽﾄ降誕祭 冬季休業開始
	28	29	30	31					
1月					1	2	3		
	4	5	6	7	8	9	10	7日（木）	冬季休業終了
	11	12	13	14	15	16	17		
	18	19	20	21	22	23	24		
	25	26	27	28	29	30	31		
2月	1	2	3	4	5	6	7		
	8	9	10	11	12	13	14	13日（金） 18日（水）	基礎1年：「ﾏﾀﾆﾃｨｻｲｸﾙ助産ｹｱ統合実習Ⅰ」終了 修了前修養会
	15	16	17	18	19	20	21	16日（月）～3月6日（金）	基礎1：補講期間･前期定期試験
	22	23	24	25	26	27	28		
3月	1	2	3	4	5	6	7		
	8	9	10	11	12	13	14	12日（木） 13日（金）	修了・卒業感謝のﾐｻ 修了証書・学位記授与式
	15	16	17	18	19	20	21		
	22	23	24	25	26	27	28		
	29	30	31						

後期

学年	専攻	学内授業期間	臨地実習期間	
1年次	基礎	9月22日（火） ～ 11月 7日（金） 2月16日（月） ～ 2月20日（金）	統合実習Ⅰ	11月10日（月） ～ 12月19日（金） 1月 8日（水） ～ 2月13日（金） （期間内1人当り：原則6週間）
	教育	――――	――――	――――
2年次	基礎	9月22日（月） ～ 12月19日（金） 1月 8日（木） ～ 2月20日（金）	統合実習Ⅱ	9月 1日（月） ～ 11月 7日（金） （期間内1人当り：2週間）

２．2025年度教育課程

１）看護学科　　〈2022年度以降入学生対象〉

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	摘要	卒業所要単位
キリスト教を基盤とした人間教育科目群			ｷﾘｽﾄ教学概論	1前	2		○				必修科目114単位、選択科目15単位以上(選択必修科目含む)修得
			聖書の講読	1後		▲2	○				
			ｷﾘｽﾄ教人間学	2前		▲2	○				
			ｷﾘｽﾄ教思想論	2後		▲2	○				
			人間形成とｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ	1前	1		○				
			人間形成とｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ	2後	1		○				
			人間形成とｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅢ	3後	1		○				
			人間形成とｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅣ	4後	1		○				
	小計（8科目）			－	6	6	－				
教養教育科目群	共通基礎教育科目	共通基礎	基礎学修演習	1前	1			○			
			情報処理演習	1前		1		○			
			教養ゼミ	2後		2	○				
		自然科学	化学	1前	2		○				
			生物学	1前		2	○				
			データの科学	1後	2		○				
			科学的思考	2前		2	○				
		外国語	英語ⅠA	1前	1			○			
			英語ⅠB	1後	1			○			
			英語ⅡA	2前		1		○			
			英語ⅡB	2後		1		○			
			ｵｰﾗﾙｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅠA	1前	1			○			
			ｵｰﾗﾙｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅠB	1後	1			○			
			ｵｰﾗﾙｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅡA	2前		1		○			
			ｵｰﾗﾙｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅡB	2後		1		○			
			フランス語	2前		1		○			
			中国語	2前		1		○			
			韓国語	2前		1		○			
			スペイン語	2前		1		○			
		健康・スポーツ	健康とスポーツⅠ	1通		1			○		
			健康とスポーツⅡ	2通		1			○		
		小計（21科目）		－	9	17	－				
	共通教養教育科目	人間と文化	倫理学	1後	2		○				
			宗教学	1後		2	○				
			音楽概論	1後		2	○				
			美術概論	1後		2	○				
			民族と異文化理解	2後		2	○				
		人間と社会	法学(日本国憲法)	1前		2	○				
			対人関係の心理学	1前		2	○				
			社会学	1前		2	○				
			近現代の日本	1後		2	○				
			現代の政治経済	2後		2	○				
		小計（10科目）		－	2	18	－				
	小計（31科目）			－	11	35	－				
専門教育科目群	専門基礎科目		形態機能学Ⅰ	1前	2		○				
			形態機能学Ⅱ	1後	2		○				
			栄養代謝学	1前	2		○				
			微生物学	1後	2		○				
			病理学	1後	2		○				
			看護薬理学	2前	2		○				
			病態診療学Ⅰ	2前	2		○	○			
			病態診療学Ⅱ	2後	2		○				
			環境健康論	1後	2		○				
			社会福祉論	1前	2		○				
			保健医療福祉ｼｽﾃﾑ論	3前	2		○				
			生涯発達論	1前	1		○				
			医療と倫理	2前	1		○				
			医療人類学	4後		1	○				
		小計（14科目）		－	24	1	－				

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態			摘要	卒業所要単位
					必修	選択	講義	演習	実験・実習		
専門教育科目群	看護基礎科目		看護学原理	1前	2		○				
			人間関係論	1後	1			○			
			看護過程とﾍﾙｽｱｾｽﾒﾝﾄⅠ	2前	2		○				
			看護過程とﾍﾙｽｱｾｽﾒﾝﾄⅡ	2前	1			○			
			基礎看護技術論Ⅰ	1前	1			○			
			基礎看護技術論Ⅱ	1後	2			○			
			基礎看護技術論Ⅲ	2前	1			○			
			基礎看護技術論Ⅳ	2前	1			○			
		小計（8科目）		―	11	0	―				
	看護臨床科目		地域看護学Ⅰ	2前	1		○				
			地域看護学Ⅱ	2後	1		○				
			成人看護学Ⅰ	2前	1		○				
			成人看護学Ⅱ	2後	2			○			
			成人看護学Ⅲ	3前	2		○	○			
			老年看護学Ⅰ	2前	2		○				
			老年看護学Ⅱ	3前	2		○	○			
			小児看護学Ⅰ	2後	2		○				
			小児看護学Ⅱ	3前	2		○	○			
			母性看護学Ⅰ	2後	1		○				
			母性看護学Ⅱ	2後	2		○				
			母性看護学Ⅲ	3前	1			○			
			精神看護学Ⅰ	2後	1		○				
			精神看護学Ⅱ	3前	2		○				
			精神看護学Ⅲ	3後	1			○			
			在宅看護学Ⅰ	3前	1		○				
			在宅看護学Ⅱ	3後	2		○				
			家族看護学	3前	1		○				
			医療安全	3前	1		○				
			多職種連携	1後	1		○				
			多職種連携演習	3後	1			○			
			看護倫理	4前	1		○				
		臨地実習科目	基礎看護学臨地実習Ⅰ	1後	1				○		
			基礎看護学臨地実習Ⅱ	2後	2				○		
			成人看護学臨地実習Ⅰ	3後	3				○		
			成人看護学臨地実習Ⅱ	3後	3				○		
			老年看護学臨地実習Ⅰ	2後	1				○		
			老年看護学臨地実習Ⅱ	3後	3				○		
			小児看護学臨地実習	3後～4前	2				○		
			母性看護学臨地実習	3後～4前	2				○		
			精神看護学臨地実習	4前	2				○		
			在宅看護学臨地実習	4前	2				○		
		小計（32科目）		―	52	0	―				
	小計（54科目）			―	87	1	―				
統合発展科目群			生と死の看護ｾﾞﾐ	2後	1			○			
			ﾎｽﾋﾟｽ・緩和ｹｱ論	3前	1		○				
			ﾍﾙｽﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ活動論	3後		1	○				
			ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ看護学	4前		1	○				
			国際保健学	2前		1	○				
			国際保健学演習	2後/3後		1		○			
			看護英文講読	3後		1	○				
			看護研究の基礎	3後	1			○			
			看護研究	4前後	2			○			
			看護管理	4前	1		○				
			災害看護学	4前	1		○				
			看護教育学	4前		1	○				
			統合看護臨地実習	4前	2				○		
			統合看護技術演習	4後	1			○			
	小計（14科目）			―	10	6	―				
合計（107科目）				―	114	48	―				

▲は選択必修科目

2）栄養学科　〈2020年度以降入学生対象〉

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	摘要	卒業所要単位
キリスト教を基盤とした人間教育科目群			ｷﾘｽﾄ教学概論	1前	2		○				必修科目104単位、選択科目23単位以上(選択必修科目含む)修得
			聖書の講読	1後		▲2	○				
			ｷﾘｽﾄ教人間学	2前		▲2	○				
			ｷﾘｽﾄ教思想論	2後		▲2	○				
			人間形成とｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ	1前	1		○				
			人間形成とｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ	2後	1		○				
			人間形成とｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅢ	3後	1		○				
			人間形成とｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅣ	4後	1		○				
	小計（8科目）			―	6	6	―				
教養教育科目群	共通基礎教育科目	共通基礎	基礎学修演習	1前	1			○			
			情報処理演習	1前		1		○			
			教養ゼミ	2後		2	○				
		自然科学	化学	1前	2		○				
			生物学	1前		2	○				
			データの科学	1後	2		○				
			科学的思考	2前		2	○				
		外国語	英語ⅠA	1前	1			○			
			英語ⅠB	1後	1			○			
			英語ⅡA	2前		1		○			
			英語ⅡB	2後		1		○			
			ｵｰﾗﾙｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅠA	1前	1			○			
			ｵｰﾗﾙｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅠB	1後	1			○			
			ｵｰﾗﾙｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅡA	2前		1		○			
			ｵｰﾗﾙｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅡB	2後		1		○			
			フランス語	2前		1		○			
			中国語	2前		1		○			
			韓国語	2前		1		○			
			スペイン語	2前		1		○			
		健康・スポーツ	健康とスポーツⅠ	1通		1			○		
			健康とスポーツⅡ	2通		1			○		
		小計（21科目）		―	9	17	―				
	共通教養教育科目	人間と文化	倫理学	1後	2		○				
			宗教学	1後		2	○				
			音楽概論	1後		2	○				
			美術概論	1後		2	○				
			民族と異文化理解	2後		2	○				
		人間と社会	法学(日本国憲法)	1前		2	○				
			対人関係の心理学	1前		2	○				
			社会学	1前		2	○				
			近現代の日本	1後		2	○				
			現代の政治経済	2後		2	○				
		小計（10科目）		―	2	18	―				
	小計（31科目）			―	11	35	―				
専門教育科目群	専門基礎科目	社会・環境と健康	人間関係論	1前	1		○				
			生涯発達論	1前	1		○				
			公衆衛生学	2前	2		○				
			医療概論	2前		2	○				
			健康管理概論	2後	2		○				
			公衆衛生学実習	2後	1				○		
			保健医療福祉システム論	4前	1		○				
			小計（7科目）	―	8	2	―				
		人体の構造と機能・疾病の成り立ち	生化学Ⅰ	1前	2		○				
			生化学Ⅱ	1後	2		○				
			形態機能学Ⅰ	1前	2		○				
			形態機能学Ⅱ	1後	2		○				
			有機化学	1前		2	○				
			微生物学	1後	2		○				
			形態機能学実習Ⅰ	1後	1				○		

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態			摘要	卒業所要単位
					必修	選択	講義	演習	実験・実習		
			形態機能学実習Ⅱ	3前	1				○		
			病理学	2前	2		○				
			生化学実験	2前	1				○		
			病態診療学	2後	2		○				
			小計（11科目）	－	17	2	－				
専門教育科目群	専門基礎科目	食べ物と健康	食品科学Ⅰ	1前	2		○				
			食品科学Ⅱ	1後	2		○				
			食品科学Ⅲ	4前		2	○				
			調理学	1前	2		○				
			調理学実習Ⅰ	1前	1				○		
			調理学実習Ⅱ	1後	1				○		
			食品科学実験Ⅰ	1後	1				○		
			食品科学実験Ⅱ	3前	1				○		
			食品衛生学	2前	2		○				
			食品衛生学実験	2前	1				○		
			食品微生物学実験	2前	1				○		
			食文化論	4後		1	○				
			小計（12科目）	－	14	3	－				
		小計（30科目）		－	39	7	－				
	専門科目	栄養の基礎	基礎栄養学	1後	2		○				
			応用栄養学Ⅰ	2前	2		○				
			応用栄養学Ⅱ	2後	2		○				
			応用栄養学Ⅲ	3後	2		○				
			基礎栄養学実験・実習	2後	1				○		
			応用栄養学実習	3前	1				○		
			スポーツ栄養学	4前		2	○				
			国際栄養学	4後		1	○				
			小計（8科目）	－	10	3	－				
		栄養の教育	栄養教育論Ⅰ	2前	2		○				
			栄養教育論Ⅱ	2後	2		○				
			栄養教育論Ⅲ	3後	2		○				
			栄養教育論実習	3前	1				○		
			カウンセリング演習	3前		1		○			
			学校栄養指導論Ⅰ	3前		2	○				
			学校栄養指導論Ⅱ	3後		2	○				
			小計（7科目）	－	7	5	－				
		栄養の実践	臨床栄養学Ⅰ	2前	2		○				
			臨床栄養学Ⅱ	2後	2		○				
			臨床栄養学Ⅲ	3前	2		○				
			臨床栄養学Ⅳ	3後	2		○				
			給食経営管理論Ⅰ	2前	2		○				
			給食経営管理論Ⅱ	2後	2			○			
			給食経営管理論実習Ⅰ	2後	1				○		
			臨床栄養学実習Ⅰ	3前	1				○		
			臨床栄養学実習Ⅱ	3後	1				○		
			臨床栄養学実習Ⅳ	4前	1				○		
			公衆栄養学Ⅰ	3前	2		○				
			公衆栄養学Ⅱ	3後	2		○				
			公衆栄養学実習Ⅰ	3後	1				○		
			多職種連携	2後	1		○				
			多職種連携演習	3後	1			○			
			総合演習Ⅰ	3通年	1			○			
			総合演習Ⅱ	4通年	2			○			
			在宅栄養管理論	4前	1		○				
			地域栄養活動演習	4前		1		○			
			フードサービス演習	4前		2		○			
			小計（20科目）	－	27	3	－				

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態			摘要	卒業所要単位
					必修	選択	講義	演習	実験・実習		
		学外実習	給食経営管理論実習Ⅱ	3後	1				○		
			給食経営管理論実習Ⅲ	4前		▲1			○		
			給食経営管理論実習Ⅳ	4通年		▲1			○		
			公衆栄養学実習Ⅱ	4通年		▲1			○		
			臨床栄養学実習Ⅲ	3後	2				○		
			臨床栄養学実習Ⅴ	4通年		▲1			○		
			臨床栄養学実習Ⅵ	4通年		2			○		
			小計（7科目）	－	3	6	－				
		小計（42科目）		－	47	17	－				
	小計（72科目）			－	86	24	－				
統合発展科目群			国際保健学	2前		1	○				
			国際保健学演習	2後		1		○			
			英文文献講読	3後		1		○			
			食といのちのゼミ	4後	1		○				
			卒業研究	4通年		3		○			
	小計（5科目）			－	1	6	－				
合計（116科目）				－	104	71	－				

▲は選択必修科目

３）教職課程

科目区分	授業科目	開講年次	学期	単位数		区分			備考
				必修	選択	講義	演習	実習	
教職課程科目	教育原論	1	後		1	1			
	教職概論	1	前		2	2			
	教育制度論	2	前		1	1			
	発達と学習の心理学	1	後		2	2			
	特別支援教育論	2	前		1	1			
	教育課程論	1	後		1	1			
	道徳教育論	2	後		1	1			
	総合学習指導論	3	前		1	1			
	特別活動論	2	後		1	1			
	教育方法論	2	前		1	1			
	教育におけるＩＣＴ活用論	2	前		1	1			
	生徒指導論	2	後		2	2			
	カウンセリング概論	1	後		2	2			
	栄養教育実習事前事後指導	4	前		1			1	
	栄養教育実習	4	前		1			1	
	教職実践演習（栄養教諭）	4	前後		2		2		
	教職総合演習	3	後		2		2		
	合計				23	17	4	2	

4）大学院看護栄養学研究科　栄養管理学専攻（博士前期課程）　　2023年度以降入学生対象

	授業科目	共通科目	配当年次		学期	単位数		授業区分		
						必修	選択	講義	演習	実習
基礎科目	倫理学特論	☆	1		後	1		1		
	統計学特論	☆	1		前	1			1	
	疫学	☆	1		前	1		1		
	人間関係論特論	☆	1		後		1	1		
	研究方法論特論	☆	1		前	2		2		
	医療情報・医療経済	☆	1		後		1	1		
	国際保健学特論	☆	2		前		1	1		
	国際保健学特論演習	☆	2		前		1		1	
専門基礎科目	食品衛生学特論		1		前	2		2		
	食品機能学特論		1･2	※	前		1	1		
	栄養生理学特論		1･2	※	前		2	2		
	代謝栄養学特論	★	1		後	2		2		
	地域ケアシステム論	☆	1		後		1	1		
	ヘルスカウンセリング論	★	1		前		1		1	
	環境保健学	★	1		前		1	1		
	健康社会学	★	2		前		1	1		
	医療人類学特論	★	2		前		1	1		
専門実践科目	栄養管理学特論		1		前	2		2		
	栄養疫学特論		1		後		1	1		
	健康行動科学特論	☆	1		前	1		1		
	健康・食行動理論		1		前		1	1		
	健康栄養エビデンス論		1･2	※	前		2	2		
	栄養診断学特論		1		後	2		2		
	臨床栄養学特論		1		前	2		2		
	栄養管理学特別研究		1～2		前後	4				4
	栄養管理学特別演習		1～2		前後	4			4	
合計						24	16	29	7	4

修了に必要な単位数:30単位以上

※:隔年開講

☆:両専攻共通科目

★:両専攻選択可能科目

５）大学院看護栄養学研究科　栄養管理学専攻（博士後期課程）2024年度以降入学生対象

区分	授業科目	配当年次	学期	単位数		授業区分		
				必修	選択	講義	演習	実習
共通	研究方法特論	1	前	2		2		
専門科目	栄養学特論	1	後	2		2		
研究指導科目	栄養管理学特別研究Ⅰ	1	前後	3				3
	栄養管理学特別研究Ⅱ	2	前後	3				3
	栄養管理学特別研究Ⅲ	3	前後	3				3
合計				13	0	4	0	9

修了に必要な単位数：13単位以上

6）大学院看護栄養学研究科　看護学専攻（修士課程）　　2023年度以降入学生対象

区分			授業科目	共通科目	配当年次	学期	修論コース 単位数		高度実践看護師コース 単位数		CNS対象科目	保健師コース 単位数		授業区分		
							必修	選択	必修	選択		必修	選択	講義	演習	実習
看護学・栄養管理学両専攻共通科目			倫理学特論	☆	1	後	1		1		○	1		1		
			人間関係論特論	☆	1	後		1		1			1	1		
			研究方法論特論	☆	1	前	2		2		○	2		2		
			統計学特論	☆	1	前		1		1		1			1	
			疫学	☆	1	前		1		1		1		1		
			地域ケアシステム論	☆	1	後		1		1		1		1		
			健康行動科学特論	☆	1	前		1		1		1		1		
			医療情報・医療経済	☆	1	後		1		1			1	1		
			国際保健学特論	☆	2	前		1		1			1	1		
			国際保健学特論演習	☆	2	前		1		1			1		1	
看護学専攻共通基礎科目			看護理論特論		1	前	2		2		○	2		2		
			看護倫理特論		1	後	1		1		○		1	1		
			看護研究法Ⅰ（量的研究）		1	後		1		1			1		1	
			看護研究法Ⅱ（質的研究）		1	後		1		1			1		1	
			看護教育学特論Ⅰ		1	前		2	2		○		2	2		
			看護教育学特論Ⅱ		1	後		1		1			1		1	
			看護管理学特論		1	後		2		2	○		2	2		
			家族関係論特論		1	前		1		1		1		1		
			コンサルテーション論		1	後		1		1	○		1	1		
専門基礎科目			フィジカルアセスメント		1	後			2		○			2		
			病態生理学		1	前		2	2		○			2		
			臨床薬理学		1	前		2	2		○			2		
			保健医療福祉政策論		1～2	後		1		1	○	1		1		
			保健医療福祉行政論		1	前		3				3		3		
			疫学・保健統計特論		1	前		2				2		2		
			ヘルスカウンセリング論	★	1	前		1		1		1			1	
			代謝栄養学特論	★	1	後		2		2			2	2		
			環境保健学	★	1	前		1		1			1	1		
			健康社会学	★	2	前		1		1			1	1		
			医療人類学特論	★	2	前		1		1			1	1		
専門分野専門科目	修士論文コース	基礎看護学領域	基礎看護学特論Ⅰ		1	前	2							2		
			基礎看護学特論Ⅱ		1	前	2							2		
			基礎看護学演習Ⅰ		1	前	2								2	
			基礎看護学演習Ⅱ		1～2	後前	2								2	
		成人看護学領域	成人看護学特論Ⅰ		1	前	2							2		
			成人看護学特論Ⅱ		1	前	2							2		
			成人看護学演習Ⅰ		1	前	2								2	
			成人看護学演習Ⅱ		1～2	後前	2								2	
		老年看護学領域	老年看護学特論Ⅰ		1	前	2							2		
			老年看護学特論Ⅱ		1	前	2							2		
			老年看護学演習Ⅰ		1	前	2								2	
			老年看護学演習Ⅱ		1～2	後前	2								2	
		母性看護学領域	母性看護学特論Ⅰ		1	前	2							2		
			母性看護学特論Ⅱ		1	前	2							2		
			母性看護学演習Ⅰ		1	後	2								2	
			母性看護学演習Ⅱ		1～2	後前	2								2	

区分			授業科目	共通科目	配当年次	学期	修論コース 単位数		高度実践看護師コース 単位数		CNS対象科目	保健師コース 単位数		授業区分		
							必修	選択	必修	選択		必修	選択	講義	演習	実習
専門分野専門科目	修士論文コース	小児看護学領域	小児看護学特論Ⅰ		1	前	2							2		
			小児看護学特論Ⅱ		1	前	2							2		
			小児看護学演習Ⅰ		1	前	2								2	
			小児看護学演習Ⅱ		1～2	後前	2								2	
		精神看護学領域	精神看護学特論Ⅰ		1	前	2							2		
			精神看護学特論Ⅱ		1	前	2							2		
			精神看護学演習Ⅰ		1	後	2								2	
			精神看護学演習Ⅱ		1～2	後前	2								2	
		公衆衛生看護学領域	公衆衛生看護学特論Ⅰ		1	前	2					2		2		
			公衆衛生看護学特論Ⅱ		1	前	2							2		
			公衆衛生看護学演習Ⅰ		1	前	2								2	
			公衆衛生看護学演習Ⅱ		1～2	後前	2								2	
	高度実践看護師コース	ホスピス緩和ケア看護学領域	ホスピス緩和ケア看護学特論Ⅰ		1	前			2		○			2		
			ホスピス緩和ケア看護学特論Ⅱ		1	後			2		○			2		
			ホスピス緩和ケア看護学特論Ⅲ		1～2	後前			2		○				2	
			ホスピス緩和ケア看護学特論Ⅳ		1	後			2		○			2		
			ホスピス緩和ケア看護学特論Ⅴ		1	前			2		○			2		
			ホスピス緩和ケア看護学演習Ⅰ		1	前後			2		○			1	1	
			ホスピス緩和ケア看護学演習Ⅱ		1	後			1		○				1	
			ホスピス緩和ケア看護学演習Ⅲ		2	前			1		○				1	
			ホスピス緩和ケア看護学実習Ⅰ		1	後			4		○					4
			ホスピス緩和ケア看護学実習Ⅱ		2	前			4		○					4
			ホスピス緩和ケア看護学実習Ⅲ		2	前			2		○					2
		老年看護CNS領域	老年看護学特論Ⅰ（理論・概念）		1	前			2		○			2		
			老年看護学特論Ⅱ（健康生活評価）		1	前			2		○			2		
			老年看護学特論Ⅲ		1	後			2		○			2		
			老年看護学特論Ⅳ		1	後			2		○			2		
			老年看護学特論Ⅴ		1	後			2		○			2		
			老年看護学展開論Ⅰ		1	後			2		○				2	
			老年看護学展開論Ⅱ		2	前			2		○				2	
			老年看護学実習Ⅰ		1	後			4		○					4
			老年看護学実習Ⅱ		2	前			6		○					6
	高度実践看	精神看護CNS領域	精神看護学特論Ⅰ		1	前			2		○			2		
			精神看護学特論Ⅱ		1	前			2		○			2		
			精神看護学特論Ⅲ		1	後			2		○			2		
			精神看護学特論Ⅳ		2	前			2		○			2		
			精神看護学演習Ⅰ		1	後			2		○				2	
			精神看護学演習Ⅱ		2	前			2		○				2	
			リエゾン精神看護学特論		2	前			2		○			2		
			高度実践精神看護実習Ⅰ		1	後			1		○					1
			高度実践精神看護実習Ⅱ		1	後			2		○					2
			高度実践精神看護実習Ⅲ		2	前			4		○					4
			高度実践精神看護実習Ⅳ		2	前			2		○					2
			高度実践精神看護実習Ⅴ		2	後			1		○					1

区分		授業科目	共通科目	配当年次	学期	修論コース 単位数		高度実践看護師コース 単位数		CNS対象科目	保健師コース 単位数		授業区分		
						必修	選択	必修	選択		必修	選択	講義	演習	実習
護師コース	在宅看護CNS領域	在宅看護学特論Ⅰ		1	前			2		○			2		
		在宅看護学特論Ⅱ		1	前			2		○			2		
		在宅看護学特論Ⅲ		2	前			2		○			2		
		在宅看護学特論Ⅳ		1	後			2		○			2		
		在宅看護学演習Ⅰ		1	後			2		○				2	
		在宅看護学演習Ⅱ		1	前			2		○				2	
		在宅看護学演習Ⅲ		1	後			2		○				2	
		高度実践在宅看護学実習Ⅰ		1	後			2		○					2
		高度実践在宅看護学実習Ⅱ		1	後			2		○					2
		高度実践在宅看護学実習Ⅲ		2	前			2		○					2
		高度実践在宅看護学実習Ⅳ		2	前			2		○					2
		高度実践在宅看護学実習Ⅴ		2	前			2		○					2
	保健師コース	公衆衛生看護学原論		1	前						2		2		
		公衆衛生看護活動論Ⅰ		1	前						2		2		
		公衆衛生看護活動論Ⅱ		1	後						2		2		
		健康学習支援特論		1	後						2		2		
		家族看護学特論		1	前						2		1	1	
		公衆衛生看護診断		1	後						2		1	1	
		公衆衛生看護管理		1	後						2		2		
		健康危機管理特論		1	後						2		2		
		産業・学校保健活動論		2	前						2		2		
		地域ケアシステム論特論		2	前						2		2		
		公衆衛生看護課題研究演習		1	後						2			2	
		家族看護継続実習		1	後						2				2
		公衆衛生看護活動実習		1	後						3				3
		公衆衛生看護管理実習Ⅰ		1	後						2				2
		公衆衛生看護管理実習Ⅱ		2	前						1				1
特別看護研究				2	前後	8								8	
ホスピス緩和ケア看護課題研究				2	前後				2					2	
老年看護課題研究				2	前後				2					2	
精神看護課題研究				2	前後				2					2	
在宅看護課題研究				2	前後				2					2	
公衆衛生看護課題研究				2	前後						4			4	
合計			—	—	—	70	33	110	30	—	53	18	118	77	48

修了に必要な単位数：30単位以上

注１： 保健師コースにおいて、保健師国家試験受験資格を取得するためには、必須の31単位と大学院修士課程修了に必要な30単位の計61単位を修得すること。

注２： 修士論文コースは、専攻分野ごとに定める専門科目を履修・修得すること。

注３： 高度実践看護師コースにおいて、高度実践看護師資格を取得するためには必修科目38単位を修得すること。

＜記号説明＞

☆：両専攻共通科目

★：各専攻の専門科目（両専攻で選択可）

7）【助産基礎分野】

2022年度以降入学生対象

区分		授業科目	学年	学期	単位数 必修	単位数 選択	授業区分 講義	授業区分 演習	授業区分 実習	履修方法及び修了要件
基礎科目	概念形成	助産学概論	1	前	1		1			修了要件は、選択科目3単位以上を含む5単位を修得すること。なお、選択科目は、①から④のいずれかの領域の単位を必ず修得し、かつ①、③の領域を選択した場合は、発展・展開科目以外の選択科目から1単位以上修得すること。
		助産哲学・倫理Ⅰ	1	後	1		1			
		助産哲学・倫理Ⅱ	2	後		1	1			
		出産の文化	1	前	1		1			
	専門基礎	女性のフィジカルイグザミネーション	1	前	1			1		
		助産薬理学Ⅰ	1	前	1		1			
		助産薬理学Ⅱ	2	前	1		1			
		妊産褥婦乳幼児の栄養	1	前	1		1			
		助産女性学	1	前	1		1			
		助産カウンセリング	1	後	1			1		
		健康教育論Ⅰ	1	前	1		1			
		健康教育論Ⅱ	2	前	1			1		
		助産研究法	1	後	1			1		
	助産機能	助産管理論Ⅰ	1	後	1		1			
		助産管理論Ⅱ	2	前	1		1			
		助産師教育論	2	前	1		1			
		助産師教育方法論	2	後		1	1			
		母子保健行政・財政論	1	後	1		1			
		母子保健活動論（疫学・統計を含む）	2	前	1		1			
実践専門科目	マタニティサイクル助産ケア	マタニティサイクル助産ケアⅠ	1	通年	2		1	1		
		マタニティサイクル助産ケアⅡ	1	通年	2		1	1		
		マタニティサイクル助産ケアⅢ	1	通年	2		1	1		
		ハイリスク助産学Ⅰ	1	後	1		1			
		ハイリスク助産学Ⅱ	1	後	1		1			
		ハイリスク助産演習	2	前	1			1		
		独立助産実践概論	2	前	1		1			
		独立助産演習	2	前	1			1		
	マタニティサイクル助産ケア実践	マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅰ	1	前	2				2	
		マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅱ	1	前	2				2	
		マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅲ	1	前	2				2	
		マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅰ	1	後	6				6	
		マタニティサイクル独立助産実習	2	前	6				6	
		マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅱ	2	後	2				2	
発展・展開科目	発展・展開	子育て支援論Ⅰ	1	後	1		1			
		子育て支援論Ⅱ	2	後		①1		1		
		子育て支援論演習	2	後		1		1		
		性教育Ⅰ	2	前	1		1			
		性教育Ⅱ	2	後		②1		1		
		性教育実習	2	後		2			2	
		ウィメンズヘルスⅠ	1	後	1		1			
		ウィメンズヘルスⅡ	2	後		③1		1		
		ウィメンズヘルス演習	2	後		1		1		
		国際助産学Ⅰ	2	前	1		1			
		国際助産学Ⅱ	2	前		④1		1		
		国際助産学実習	2	後		2			2	
特別統合研究科目		特別統合課題研究	2	通年	2			2		
合計					54	12	25	17	24	

8）【助産教育分野】

2015年度以降入学生対象

区分		授業科目	学年	学期	単位数		授業区分			履修方法及び修了要件
					必修	選択	講義	演習	実習	
助産専門科目	概念形成	助産学概論	1	前	1		1			修了要件は選択科目8単位以上を含む　45単位以上を修得すること。
		助産哲学・倫理Ⅰ	1	後	1		1			
		助産哲学・倫理Ⅱ	1	後	1		1			
		出産の文化	1	前		1	1			
		助産女性学	1	前		1	1			
	助産教育技術	助産カウンセリング	1	後	1			1		
		健康教育論Ⅰ	1	前	1		1			
		健康教育論Ⅱ	2	前	1			1		
		女性のフィジカルイグザミネーション	1	前		1		1		
	助産ケア特論・実践	独立助産実践特論	1	前	1		1			
		独立助産演習	1	前	1			1		
		独立助産実習	1	後	6				6	
		助産薬理学	2	前		1	1			
		ハイリスク助産学Ⅰ	1	後		1	1			
		ハイリスク助産学Ⅱ	1	後		1	1			
	助産機能	助産管理論Ⅰ	1	後		1	1			
		助産管理論Ⅱ	1	前	1		1			
		母子保健行政・財政論	1	後		1	1			
		母子保健活動論（疫学・統計を含む）	2	前		1	1			
	発展・展開	子育て支援論	1	後		1	1			
		性教育	1	前		1	1			
		ウィメンズヘルス	1	後		1	1			
		国際助産学	1	前		1	1			
教育科目	助産・看護教育	教育概論	1	前	2		2			
		教育計画(カリキュラム)の原理と展開	1	通年	2		2			
		教育計画(カリキュラム)の原理と展開演習	1	後	1			1		
		教授学習法の理論と展開	1	通年	2		2			
		教授学習法の理論と展開演習	1	後	1			1		
		教育評価	1	後	2		2			
		教育評価演習	1	後	1			1		
		教育機関の運営と評価	1	後	2		2			
		助産教育(Classroom Teaching)演習	2	前	1			1		
		助産教育(Classroom Teaching)実習	2	前	1				1	
		臨床助産教育(Clinical Teaching)演習	2	前	1			1		
		臨床助産教育(Clinical Teaching)実習	2	前	2				2	
	特別統合研究	助産研究法Ⅰ	1	前	1		1			
		助産研究法Ⅱ	1	後	1			1		
		助産教育課題研究	2	前	2			2		
合計					37	13	29	12	9	

３．学生数・奨学金の採用状況

在籍者数　　（2025年5月1日現在）

所属	学科・専攻	ｺｰｽ名等	収容定員	1年	2年	3年	4年	計	収容定員充足率
看護栄養学部	看護学科		400	105 (2)	102 (1)	107 (1)	100 (4)	414 (8)	103.5%
	栄養学科		360	88 (3)	67 (1)	95 (1)	90 (3)	340 (8)	94.4%
	小　計		760	193 (5)	169 (2)	202 (2)	190 (7)	754 (16)	99.2%
助産大学院研究科	助産専攻	助産基礎分野	60	25 －	19 －	－ －	－ －	44 －	73.3%
		助産教育分野	20	0 －	0 －	－ －	－ －	0 －	0.0%
	小　計		80	25 －	19 －	－ －	－ －	44 －	55.0%
看護栄養学研究科大学院		基礎看護学コース	28	0	0	－ －	－ －	0	85.7%
		成人看護学コース		1	0	－ －	－ －	1	
		老年看護学コース		0	0	－ －	－ －	0	
		母性看護学コース		0	0	－ －	－ －	0	
		小児看護学コース		1	3	－ －	－ －	4	
		精神看護学コース		0	0	－ －	－ －	0	
		公衆衛生看護学コース		0	0	－ －	－ －	0	
		ﾎｽﾋﾟｽ緩和ｹｱ看護学ｺｰｽ		0	2	－ －	－ －	2	
		老年看護CNSコース		0	0	－ －	－ －	0	
		精神看護CNSコース		0	1 (1)	－ －	－ －	1 (1)	
		在宅看護CNSコース		2	1	－ －	－ －	3	
		保健師ｺｰｽ		6	7	－ －	－ －	13	
		小計	28	10	14 (1)	－ －	－ －	24 (1)	
		看護学専攻博士後期課程	4	2	6 (1)	－ －	－ －	8 (1)	200.0%
		計	32	12	20 (2)	－ －	－ －	32 (2)	100.0%
	栄養管理学専攻	博士前期課程	6		4 (1)	－ －	－ －	4 (1)	66.7%
		博士後期課程	6		2	5	－ －	7	116.7%
		計	12		6 (1)	5	－ －	11 (1)	91.7%
	小　計		44	12	26 (3)	5	－ －	43 (3)	97.7%
合　計			884	230 (5)	214 (5)	207 (2)	190 (7)	841 (19)	95.1%

奨学金の種類と採用数（学部生）　2026年3月現在

	奨学金の種類			奨学金の金額		貸与・給付の別	採用数
全学生	天使大学貸与奨学金			月　額	30,000円	無利子貸与	17人
	日本学生支援機構奨学金	貸与	第一種	月　額	自　宅 54,000円 自宅外 64,000円 上記以外に月額20,000円～50,000円まで、1万円単位で選択することができます（自宅通学の方は50,000円選択不可）。	無利子貸与	172人
			第二種	月　額	月額20,000円～120,000円まで、1万円単位で選択することができます。	有利子貸与 利率3%以内	218人
		給付	第Ⅰ区分	月　額	自　宅　38,300円 自宅外　75,800円	住民税非課税世帯（年収300万円未満の世帯）、それに準ずる世帯で、一定の学力・資質要件を満たす学生等が対象	51人
			第Ⅱ区分		自　宅　25,600円 自宅外　50,600円		27人
			第Ⅲ区分		自　宅　12,800円 自宅外　25,300円		13人
			第Ⅰ区分多子世帯		自　宅　38,300円 自宅外　75,800円	住民税非課税世帯（年収300万円未満の世帯）、それに準ずる世帯で、一定の学力・資質要件を満たす学生で、扶養する子の数が3人以上である世帯	8人
			第Ⅱ区分多子世帯		自　宅　25,600円 自宅外　50,600円		3人
			第Ⅲ区分多子世帯		自　宅　12,800円 自宅外　25,300円		1人
			第Ⅳ区分多子世帯		自　宅　9,600円 自宅外　19,000円	世帯年収600万程度で扶養する子の数が3人以上である世帯	18人
			多子世帯		自　宅　0円 自宅外　0円	扶養する子の数が3人以上である世帯	72人
			区分外				12人
2年次生以上	天使大学シスター川原ユキエ記念奨学金			年　額	300,000円	給付、返還不要	3人
	天使大学給付奨学金			年　額	200,000円	給付、返還不要	15人
全学生	天使大学同窓会給付奨学金			年　額	100,000円	給付、返還不要	6人
2～4年次生	学業成績優秀者奨励金			年　額	50,000円（同率25,000円）	給付	7人
看学生	北海道看護職員養成修学資金			月　額	36,000円（条件により56,000円・66,000円）	道内特定施設に一定期間勤務の場合返還免除	5人
全学生	その他の奨学金			札幌市奨学金(15)、岩見沢育英会（1）北海道信用金庫奨学金（6）、森記念奨学金（5）、あしなが育英会奨学金（1）、キーエンス財団応援給付金（2）			30人
合　計							678人

奨学金の種類と採用数（看護栄養学研究科）　2026年3月現在

奨学金の種類		奨学金の金額		貸与・給付の別	採用数
天使大学貸与奨学金		月　額	30,000円または50,000円	無利子貸与	2人
日本学生支援機構奨学金	第一種	月　額	修士課程 50,000円または88,000円 博士課程 80,000円または122,000円	無利子貸与	4人
	第二種	月　額	50,000円、80,000円 100,000円、130,000円 150,000円から選択	有利子貸与 利率3%以内	1人
天使大学同窓会給付奨学金		年　額	100,000円	給付、返還不要	1人
北海道看護職員養成修学資金		月　額	36,000円	道内特定施設に一定期間勤務の場合返還免除	0人
その他の奨学金					0人
					8人

奨学金の種類と採用数（助産研究科）　2026年3月現在

奨学金の種類		奨学金の金額		貸与・給付の別	採用数
天使大学貸与奨学金		月　額	30,000円または50,000円	無利子貸与	4人
日本学生支援機構奨学金	第一種 授業料後払い	月　額	50,000円または88,000円	無利子貸与	14人
	第二種	月　額	50,000円、80,000円 100,000円、130,000円 150,000円から選択	有利子貸与 利率3%以内	2人
天使大学同窓会奨学金		年　額	100,000円	給付、返還不要	1人
日本助産師会奨学金		月　額	50,000円	無利子貸与	0人
北海道看護職員養成修学資金		月　額	36,000円 （条件により56,000円）	無利子貸与。道内施設に一定期間勤務の場合返還免除	13人
その他の奨学金		先端教育奨学金（1）			1人
合　　計					35人

４．国家試験合格率

国家試験合格率（2025年度）

学　部・学　科	国家試験の名称	受験者数 (A)	合格者数 (B)	合格率（%） B/A*100	全国合格率 （新卒） （%）
看護栄養学部看護学科	看護師国家試験	98 人	96 人	98.0%	88.3%
看護栄養学研究科看護専攻	保健師国家試験	7 人	6 人	85.7%	87.1%
助産研究科助産専攻	助産師国家試験	18 人	18 人	100.0%	99.7%
看護栄養学部栄養学科	管理栄養士国家試験	90 人	66 人	73.3%	47.7%

５．就職・進学状況

看護栄養学部就職状況（2026年5月1日現在）

〔学科別就職希望者〕

学科		看護学科						栄養学科					
性別		女子		男子		計		女子		男子		計	
項目		数	割合	数	割合	数	卒業者に対する割合	数	割合	数	割合	数	卒業者に対する割合
就職希望の有無	希望有りの者	76	95.0%	4	5.0%	80	81.6%	83	96.5%	3	3.5%	86	95.6%
	希望無しの者	18	100.0%	0	0.0%	18	18.4%	4	100.0%	0	0.0%	4	4.4%
計（卒業者数）		94	95.9%	4	4.1%	98	100.0%	87	96.7%	3	3.3%	90	100.0%

〔学科別就職決定者〕

学科	看護学科						栄養学科					
性別	女子		男子		計		女子		男子		計	
項目	数	割合	数	割合	数	就職希望者に対する割合	数	割合	数	割合	数	就職希望者に対する割合
決定数／決定率	76	100.0%	4	100.0%	80	100.0%	79	95.2%	3	100.0%	82	95.3%

〔地域別・就職別決定者〕

学科		看護学科 n＝80						栄養学科 n＝82					
性別		女子		男子		計		女子		男子		計	
項目		数	割合	数	割合	数	就職者に対する割合	数	割合	数	割合	数	就職者に対する割合
地域別	道外	13	17.1%	2	0.0%	15	18.7%	16	20.3%	0	0.0%	16	19.5%
	道内	63	82.9%	2	50.0%	65	81.3%	63	79.7%	3	100.0%	66	80.5%
	市内（再掲）	(58)	(76.3%)	(2)	(1)	(60)	(75.0%)	(43)	(54.4%)	(1)	(0)	(44)	(53.7%)
職種別	看護師	75	98.7%	4	100.0%	79	98.7%						
	管理栄養士							42	53.2%	0	0.0%	42	51.2%
	栄養士							16	20.2%	1	33.3%	17	20.7%
	栄養教諭							4	5.1%	0	0.0%	4	4.9%
	上記以外	1	1.3%		1	1.3%		17	21.5%	2	66.7%	19	23.2%

※看護学科：上記以外の職種はCA（客室乗務員）

〔進学状況〕

学科	看護学科				栄養学科			
性別	女子	男子	計	進学希望者に対する割合	女子	男子	計	進学希望者に対する割合
進学希望者数	15	0	15		2	0	2	
進学合格者数	15	0	15	100.0%	2	0	2	100.0%

看護栄養学研究科就職状況（2026年5月1日現在）

〔就職希望者〕

所属		看護学専攻										栄養管理学専攻						看護栄養学研究科	
専攻		博士前期課程						博士後期課程		計		博士前期課程		博士後期課程		計		合計	
		保健師コース		看護学領域		CNS領域													
項目		数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	修了者に対する割合	数	割合	数	割合	数	修了者に対する割合	数	修了者に対する割合
就職希望の有無	希望有りの者	7	58.3%	3	25.0%	1	8.3%	1	8.3%	12	100.0%	2	66.7%	1	33.3%	3	100.0%	**15**	**100.0%**
	希望無しの者	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	**0**	**0.0%**
計(修了者数)		7	58.3%	3	25.0%	1	8.3%	1	8.3%	12	100.0%	2	66.7%	1	33.3%	3	100.0%	**15**	**100.0%**

〔就職決定者〕

所属	看護学専攻										栄養管理学専攻						看護栄養学研究科	
専攻	博士前期課程						博士後期課程		計		博士前期課程		博士後期課程		計		合計	
	保健師コース		看護学領域		CNS領域													
項目	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	就職者に対する割合	数	割合	数	割合	数	就職希望者に対する割合	数	就職者に対する割合
就職者数/決定率	7	100.0%	3	100.0%	1	100.0%	1	100.0%	12	100.0%	2	100.0%	1	100.0%	3	100.0%	**15**	**100.0%**

〔地域別決定者〕

所属		看護学専攻										栄養管理学専攻						看護栄養学研究科	
専攻		博士前期課程						博士後期課程		計		博士前期課程		博士後期課程		計		合計	
		保健師コース		看護学領域		CNS領域													
項目		数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	就職者に対する割合	数	割合	数	割合	数	就職希望者に対する割合	数	就職者に対する割合
地域別	道外	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	1	8.3%	1	0.0%	0	0.0%	1	33.3%	**2**	**13.3%**
	道内	7	100.0%	3	100.0%	1	100.0%	0	0.0%	11	91.7%	1	0.0%	1	100.0%	2	66.7%	**13**	**86.7%**
	市内(再掲)	(3)	(42.9%)	(2)	(66.7%)	(1)	(100.0%)	(0)	(0.0%)	(6)	(50.0%)	(1)	(50.0%)	(1)	(100.0%)	(2)	(66.7%)	**(8)**	**(53.3%)**

助産研究科就職状況（2026年5月1日現在）

〔就職希望者〕

分野		助産基礎分野	助産教育分野	計	卒業者に対する割合
就職希望の有無	希望有りの者	18	－	18	100.0%
	希望無しの者	0	－	0	0.0%
計(修了者数)		18	－	18	100.0%

〔就職決定者〕

分野	助産基礎分野	助産教育分野	計	就職者に対する割合
決定数／決定率	18	－	18	100.0%

〔地域別・就職別決定者〕

分野		助産基礎分野	助産教育分野	計	就職者に対する割合
地域別	道外	6	－	6	33.3%
	道内	12	－	12	66.7%
	市内(再掲)	(7)	－	(7)	(38.9%)
職種別	助産師	17	－	17	94.4%
	教員	0	－	0	0.0%
	上記以外: 看護師	1	－	1	5.6%

2025年度求人件数・人数（2026年3月31日現在）

〔看護職〕

職　種	件　数				人　数			
	（市内）	道内	道外	件数合計	（市内）	道内	道外	人数合計
看護師	32	35	216	283	340	847	9,503	10,690
保健師	2	55	48	105	6	84	173	263
助産師	5	13	63	81	15	31	171	217
計	39	103	327	469	361	962	9,847	11,170

〔栄養士職〕

職　種	件　数				人　数			
	（市内）	道内	道外	件数合計	（市内）	道内	道外	人数合計
栄養士	10	67	138	215	33	282	639	954
管理栄養士	17	63	97	177	30	235	448	713
栄養教諭	0	0	0	0	0	0	0	0
食品衛生監視員	0	0	0	0	0	0	0	0
その他 保健医療従事者	0	0	0	0	0	0	0	0
計	27	130	235	392	63	517	1,087	1,667

〔一般職・その他〕

職　種	件　数				人　数			
	（市内）	道内	道外	件数合計	（市内）	道内	道外	人数合計
一般	8	104	119	231	66	2,418	3,062	5,546

合計	74	337	681	1,092	490	3,897	13,996	18,383

注1　（市内）は道内の内数
注2　若干名は3とカウントする
注3　保健師・助産師求人数は人数を明記してある場合以外は3とカウントする

６．2026年度入試結果

看護栄養学部

◆看護学科

種別	定員(名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率(受/合)
指定校推薦	45	8	(7)	8	(7)	8	(7)	8	(7)	1.0
公募制推薦		71	(58)	71	(58)	44	(43)	44	(43)	1.6
社　会　人	40	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	－
一　　般		254	(267)	252	(263)	97	(83)	46	(37)	2.6
共通ﾃｽﾄ利用	15	174	(179)	174	(179)	48	(75)	5	(16)	3.6
総　　計	100	507	(511)	505	(507)	197	(208)	103	(103)	2.6

◆栄養学科

種別	定員(名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率(受/合)
天使みらい	45	59	(50)	59	(50)	59	(50)	58	(50)	1.0
指定校推薦	25	1	(1)	1	(1)	1	(1)	1	(1)	1.0
公募制推薦		9	(18)	9	(18)	9	(18)	9	(18)	1.0
社　会　人	15	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	－
一　　般		32	(31)	31	(31)	31	(30)	16	(19)	1.0
共通ﾃｽﾄ利用	5	26	(34)	26	(34)	22	(22)	0	(0)	1.2
総　　計	90	127	(134)	126	(134)	122	(121)	84	(88)	1.0

※天使みらい入試：エントリー数59名（52）、許可者59名（52）。

大学院 看護栄養学研究科

◆看護学専攻　博士前期課程

種別	定員(名)	志願者数			受験者数			合格者数			入学者数			倍率(受/合)
推　　薦	14	2	【2】	(2)	2	【2】	(2)	2	【2】	(2)	2	【2】	(2)	1.0
一般Ⅰ期		6	【6】	(14)	6	【6】	(14)	3	【3】	(7)	2	【2】	(7)	2.0
一般Ⅱ期		4	【1】	(6)	4	【1】	(6)	3	【0】	(1)	2	【0】	(1)	1.3
総　　計	14	12	【9】	(22)	12	【9】	(22)	8	【5】	(10)	6	【4】	(10)	1.5

一般Ⅰ期志願：保健師6人（天使大学6名）
一般Ⅰ期合格：保健師3人（天使大学3名）
一般Ⅱ期志願：保健師1人（天使大学1名）
一般Ⅱ期合格：母性1人、ホスピス1人、老年CNS1人

◆看護学専攻　博士後期課程

種別	定員(名)	志願者数			受験者数			合格者数			入学者数			倍率(受/合)
一般Ⅰ期	2	3	【3】	(0)	3	【0】	(0)	2	【0】	(0)	2	【0】	(0)	1.5
一般Ⅱ期		3	【3】	(2)	3	【2】	(2)	3	【2】	(2)	3	【2】	(2)	1.0
総　　計	2	6	【6】	(2)	6	【2】	(2)	5	【2】	(2)	5	【2】	(2)	1.2

◆栄養管理学専攻 博士前期課程

種別	定員(名)	志願者数			受験者数			合格者数			入学者数			倍率(受/合)
一般Ⅰ期	2	0	【0】	(0)	0	【0】	(0)	0	【0】	(0)	0	【0】	(0)	－
一般Ⅱ期		4	【4】	(0)	4	【0】	(4)	4	【4】	(0)	3	【0】	(0)	1.0
総　　計	3	4	【4】	(0)	4	【0】	(4)	4	【4】	(0)	3	【0】	(0)	1.0

◆栄養管理学専攻 博士後期課程

種別	定員(名)	志願者数			受験者数			合格者数			入学者数			倍率(受/合)
一般Ⅰ期	2	1	【1】	(0)	1	【1】	(0)	1	【1】	(0)	1	【1】	(0)	1.0
一般Ⅱ期		0	【0】	(0)	0	【0】	(2)	0	【0】	(0)	0	【0】	(2)	－
総　　計	2	1	【1】	(0)	1	【1】	(2)	1	【1】	(0)	1	【1】	(2)	1.0

大学院 助産研究科

種別		定員(名)	志願者数			受験者数			合格者数			入学者数			倍率(受/合)
基礎分野	推　　薦	10	17	【11】	(19)	17	【8】	(18)	12	【4】	(13)	12	【4】	(13)	1.4
	一般　Ⅰ期	20	21	【6】	(13)	16	【4】	(11)	9	【1】	(8)	8	【1】	(8)	1.8
	社会人Ⅰ期		5	【0】	(3)	5	【0】	(3)	1	【0】	(3)	1	【0】	(3)	5.0
	一般　Ⅱ期	－	－	－	(1)	－	－	(1)	－	－	(1)	－	－	(1)	－
	社会人Ⅱ期	－	－	－	(0)	－	－	(0)	－	－	(0)	－	－	(0)	－
総　計		40	43	【17】	(36)	38	【12】	(33)	22	【5】	(25)	21	【5】	(25)	1.7

※教育分野：2025年度は一時募集停止。

7．教員組織

教員組織一覧　（2025年5月1日現在）

所属		教授	准教授	講師	助教	助手	計
大学院	助産研究科	6人	2人	2人	1人	0人	11人
	看護栄養学研究科（特任）	5人	—	—	—	—	5人
看護栄養学部	看護学科	8人	9人	7人	8人	1人	33人
	栄養学科	6人	8人	3人	1人	5人	23人
	教養教育科	2人	3人	0人	0人	0人	5人
	計	16人	20人	10人	9人	6人	61人
	兼任教員(非常勤講師)	—	—	—	—	—	
合計		27人	22人	12人	10人	6人	77人

専任教員年齢構成

（2025年5月1日現在）

所属	職位	71歳以上	66歳～70歳	61歳～65歳	56歳～60歳	51歳～55歳	46歳～50歳	41歳～45歳	36歳～40歳	31歳～35歳	26歳～30歳	25歳以下	計
助産研究科	教　授	2	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	6
		33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
		0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	講師	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
		0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	助教	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	計	2	2	1	2	3	0	1	0	0	0	0	11
		18.2%	18.2%	9.1%	18.2%	27.3%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	助手	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
小計		2	2	1	2	3	0	1	0	0	0	0	11
		18.2%	18.2%	9.1%	18.2%	27.3%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
看護栄養学部・看護栄養学研究科	教　授	2	7	3	5	2	2	0	0	0	0	0	21
		9.5%	33.3%	14.3%	23.8%	9.5%	9.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	1	3	7	4	4	1	0	0	0	0	20
		0.0%	5.0%	15.0%	35.0%	20.0%	20.0%	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	講師	0	0	0	2	2	4	2	0	0	0	0	10
		0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	20.0%	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	助教	0	0	0	2	0	2	2	2	1	0	0	9
		0.0%	0.0%	0.0%	22.2%	0.0%	22.2%	22.2%	22.2%	11.1%	0.0%	0.0%	100%
	計	2	8	6	16	8	12	5	2	1	0	0	60
		3.3%	13.3%	10.0%	26.7%	13.3%	20.0%	8.3%	3.3%	1.7%	0.0%	0.0%	100%
	助手	0	0	0	0	0	0	1	1	3	1	0	6
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	16.7%	50.0%	16.7%	0.0%	100%
小計		2	8	6	16	8	12	6	3	4	1	0	66
		3.0%	12.1%	9.1%	24.2%	12.1%	18.2%	9.1%	4.5%	6.1%	1.5%	0.0%	100%
合計		4	10	7	18	11	12	7	3	4	1	0	77
		5.2%	13.0%	9.1%	23.4%	14.3%	15.6%	9.1%	3.9%	5.2%	1.3%	0.0%	100%

※定年：65歳

教員の任免・昇任者一覧

（2026年3月31日現在）

学科・科	採　用　者					昇任者			退　職　者				
	教授	准教授	講師	助教	助手	准教授から教授	講師から准教授	助教から講師	教授	准教授	講師	助教	助手
看護栄養学研究科	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	0人
助産研究科	1人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	0人	1人	0人	0人
看護学科	0人	0人	2人	0人	2人	0人	1人	0人	0人	1人	0人	0人	1人
栄養学科	1人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	1人	1人	0人	0人	1人
教養教育科	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
計	2人	2人	2人	0人	3人	0人	1人	0人	3人	2人	1人	0人	2人

８．事務組織

（2025年5月1日現在）

区分	部門	専任職員	うち管理職	常勤嘱託職員	臨時職員	パート職員	派遣職員	計
法人業務系	事務局長	0	0	1	0	0	0	1
	参与	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	1	0	0	0	1
大学業務系	総務課	4	1	0	2	0	0	6
	財務課	2	1	2	1	0	1	6
	学務課	7	1	2	3	3	0	15
	入試広報課	3	1	0	0	0	0	3
	図書情報課	3	1	1	2	0	0	6
	計	19	5	5	8	3	1	36
合　　計		19	5	6	8	3	1	37

９．研究等の活動

独立行政法人日本学術振興会　科学研究費助成事業（代表者）の採択状況

	区分	種別	研究代表者	研究課題
1	継続	基盤研究(C)	秋山　雅代	熟練看護師の介助シャワー浴技術の思考発話に基づく新しい授業教材の開発
3	継続	基盤研究(C)	伊藤　治幸	酸化ストレスを指標とした生活習慣の状況とヘルスリテラシーの実態と評価
14	継続	基盤研究(C)	小澤　涼子	女性農業者の健康とワークライフバランスを一体的に推進する包括的支援モデルの構築
5	継続	基盤研究(C)	高橋　彩華	農漁村地域の環境が保護者の価値観に与える影響と子どもの生活習慣および肥満との関連
11	継続	基盤研究(C)	田中　さおり	成長ホルモン治療中の子どもと家族の治療継続を支えるピア・サポートプログラムの開発
15	継続	基盤研究(C)	新関　幸子	静脈血採血時の効果的なマッサージの実施に向けた看護ケアのプロトコル開発
4	継続	基盤研究(C)	横山　聖美	中高年の男性遺族と地域社会がつながる支援モデルの開発
9	継続	基盤研究(C)	藤井　宏子	助産師の会陰保護技術の知に関する研究：VRシステムによる暗黙知から形式知への変換
10	継続	基盤研究(C)	中村　由美子	保育・教育現場におけるe-learningを用いた医療的ケア教育プログラムの開発
12	継続	若手研究	小島　有沙	介護老人保健施設におけるスキン-テア予防策の構築ー援助者の認識する発生状況からー
16	継続	若手研究	草野　知美	自閉スペクトラム症のある子どもへ特性を伝える母親を支援する看護実践ガイドの作成
13	継続	若手研究	船木　沙織	占領終焉前後におけるABCC医療職の活動および協働体制の変容
6	新規	基盤研究(C)	神島　滋子	外来脳卒中患者への療養生活を支える外来看護支援システムの開発
2	新規	基盤研究(C)	伊織　光恵	ダウン症候群のある女子の母親への改訂版初経教育プログラムによる継続支援
8	新規	基盤研究(C)	村中　沙織	重症熱傷患者に対する包括的看護コンピテンシーの体系化
7	新規	基盤研究(C)	松下　真美	ヒト褐色脂肪組織の性差と女性特有の性質・役割の解明

特別研究費の助成状況

	区分	種別	研究代表者	研究課題
1	継続	特別研究費	神島　滋子	初発脳卒中患者の在宅療養を支える外来での看護支援ニーズ
2	継続	特別研究費	長内　さゆり	地域包括ケアシステムにおける終末期ケアに必要な介護職のコンピテンシー
3	継続	特別研究費	鈴木　純子	若年肥満における時間制限食が体格と代謝に与える影響-社会実装をふまえた時間制限食の効果検証-
4	新規	特別研究費	小島　有沙	移乗援助時における被援助者の下腿に加わる圧力変化～スキンーテアの発生予防の視点から～

受託研究等

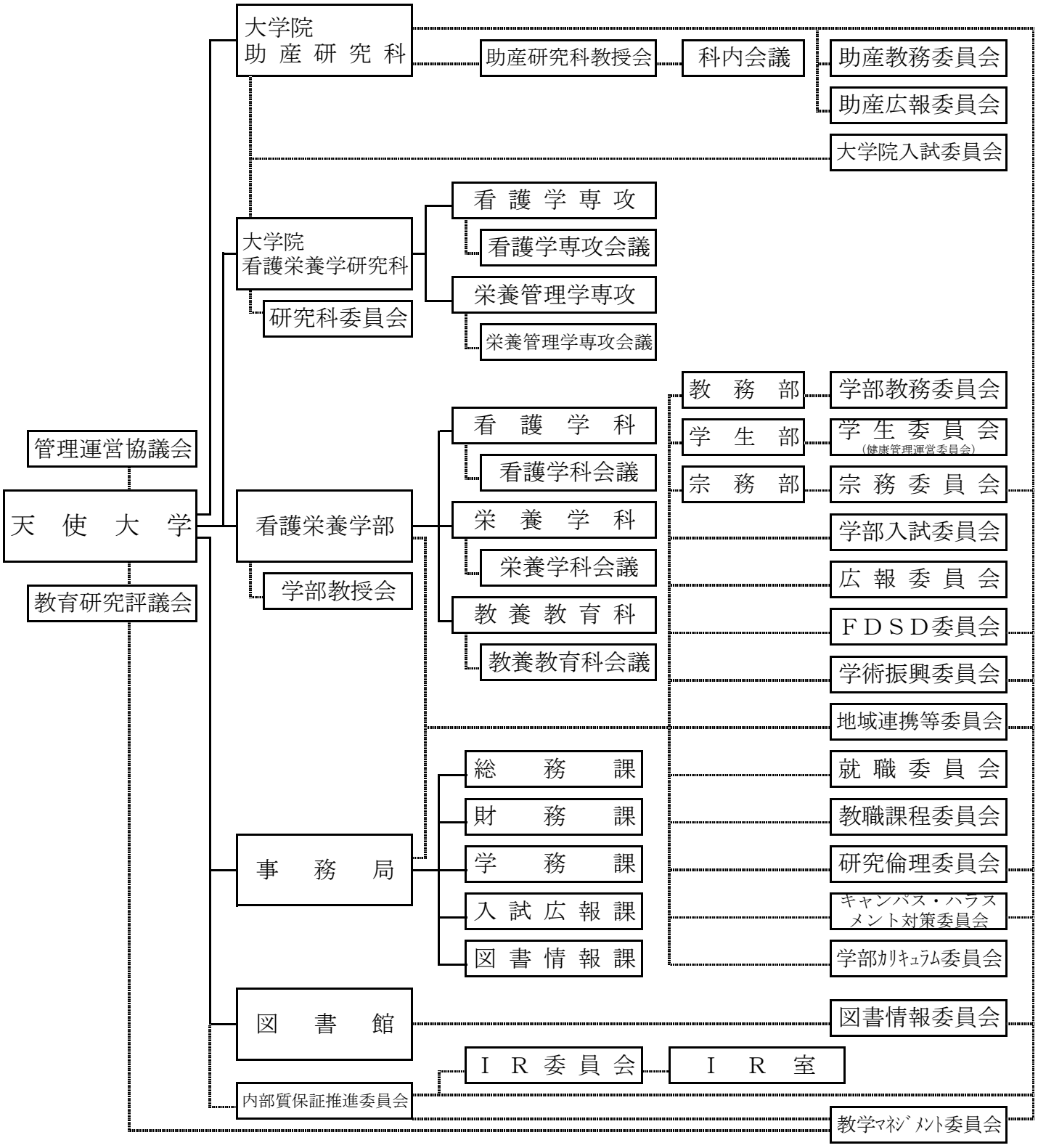
	区分	受託先	研究代表者	研究課題
1	新規	(国研)科学技術振興機構	高桑　暁子	若者コホートによるこころとカラダのライフデザイン

ＦＤ・ＳＤの実施状況

分類	日時	参加人数	テーマ・内容
ＦＤ	随時	28	授業参観 動画視聴による参観：Google Classroomに掲載された動画を視聴して参観する。 対面授業の参観：参観可能な授業の情報はGoogle Classroom掲載される。 また、科目担当者への自主的な交渉による参観も認める。
ＦＤ	2025年7月4日+ オンライン開催	85	研究倫理研修会 テーマ：「ヘルシンキ宣言：人間の参加者を含む医学研究のための倫理的原則」の２０２４年改訂について
ＦＤ	2025年8月22日	69	ＦＤＳＤ委員会主催第２回ＦＤＳＤ研修会 内容：２０２７年度の改正を目指した魅力あるカリキュラムの構築 ―「研究室制（あるいはそれに類するもの）」を中心に―
ＦＤ	2025年8月29日+ オンライン開催	50	看護栄養学研究科ＦＤ研修会（栄養管理学専攻担当回） テーマ：これからの管理栄養士養成に求められる人材育成とカリキュラム編成 -多職種連携、学部・大学院接続教育の視点から-
ＦＤＳＤ	2025年10月27日 +オンライン開催	18	助産研究科ＦＤ研修会 テーマ：シェアード・リーダーシップと組織変革
ＦＤ	2026年1月27日+ オンライン開催	43	看護栄養学研究科ＦＤ研修会（看護学専攻担当回） テーマ：看護における量的研究-看護に活かす数値化の大切さ-
ＦＤ	2026年2月16日 ～20日	-	学術振興委員会ＦＤ研修会 ポスター掲示による研究発表（期間中自由閲覧）
ＦＤ	2026年2月20日	40	学術振興委員会ＦＤ研修会 テーマ：特別研究費による研究報告会+フリーディスカッション
ＦＤ	2026年2月27日+ オンライン開催	44	学生委員会ＦＤ研修会 テーマ：障害学生支援をめぐる背景と視点-支援体制の構築に向けて-
ＦＤ	2026年3月2日+ オンライン開催	20	教職課程委員会ＦＤ研修会 テーマ：学生の「迷い」を「意欲」に変える面談スキル ～高校での実践から学ぶ、信頼関係の構築～
ＦＤ	2026年3月6日+ オンライン開催	56	ＩＲ委員会ＦＤ研修会（第１回） テーマ：生成ＡＩによる手書き答案の添削と個別フィードバック資料作成の取り組み
ＦＤ	オンデマンド 2026年3月1日～ 31日	52	ＩＲ委員会ＦＤ研修会（第２回） テーマ：２０２５年度の本学ＩＲの分析結果について
ＳＤ	2025年6月26日+ オンライン開催	75	ＦＤＳＤ委員会主催ＳＤ研修会 テーマ：入試動向を踏まえた継続的な学生募集の成功に向けて ～話題提供および栄養学科「天使みらい入試」の実施結果と今後の展望～
ＳＤ	2025年8月5日+ オンライン開催	95	教職員説明会 内容：①２０２４年度藤天使学園決算について ②天使大学学長指針について
ＳＤ	2025年12月22日 + オンライン開催	74	教職員修養会（宗務委員会） テーマ：「いのち」への門-キリスト教の死生観

10. 組織図

天使大学 管理運営組織図



11. 会議の開催状況

看護栄養学部教授会

開催日時	出席人数	議　　案　　名
第１回 4月21日(月)	17名	審議事項 1　天使大学名誉教授の称号授与について 報告事項 1　2024年度教員業績評価の評価結果について 2　休学･復学･退学の許可について 3　2025年度天使大学看護栄養学部入学者選抜結果について 4　2025年度看護栄養学部専任教員の新規担当科目について 5　その他(2025年度大学基準協会認証評価に係る学生への意見収集について)
第２回 5月19日(月)	16名	審議事項 1　2025年度非常勤講師の委嘱取消について 報告事項 1　2025年度天使大学校務分掌の変更について 2　2025年度既修得単位の認定･単位授与について 3　2025年度FDSD研修会の開催について 4　2025年度入学生アンケートの分析について 5　IR室情報提供依頼書及びデータ分析依頼書の様式の一部変更について 6　2025年度英語および化学･生物診断テストの結果について 意見聴取事項 1　教員の採用に係る募集大綱について
第３回 6月16日(月)	17名	報告事項 1　教員の退職について 2　2025年度葦の会役員及び部･サークル活動団体について 3　教学マネジメント委員会から学部カリキュラム委員会への要請事項について 4　2024年度看護師国家試験結果の分析について 意見聴取事項 1　教員の採用に係る募集大綱について 2　臨床教授等の選考について
第４回 7月14日(月)	15名	審議事項 1　2025年度非常勤講師の委嘱・取消について 報告事項 1　2026年４月１日付け採用の栄養学科教員について
第５回 9月16日(火)	15名	審議事項 1　看護栄養学部看護学科総合型選抜導入について 報告事項 1　教員の退職について 2　助産研究科長等の交代について 3　教員の採用について 4　2025年度Food and Life Step-up Ceremonyの実施について

		5　2025 年度後期既修得単位の認定・単位授与について 6　2025 年度非常勤講師の委嘱について 7　天使みらい入試(総合型選抜)事前エントリー審査について 8　2024 年度栄養学科国家試験分析について 意見聴取事項 1　教員の採用及び昇任に係る教員選考審査委員会の審査結果について
第6回 10月14日(火)	17 名	審議事項 1　2026 年度看護栄養学部学事暦について 2　2025 年度非常勤講師の委嘱取消について 報告事項 1　2025 年度戴帽式の実施について 2　2026 年度天使みらい入試本試験における本部長の勤務等について 3　2026 年度入学予定者に対する入学前教育について
臨時 10 月 30 日(木)	12 名	審議事項 1　2026 年度栄養学科天使みらい入試(総合型選抜)の合否判定について
第7回 11 月 17 日(月)	16 名	審議事項 1　2026 年度非常勤講師の委嘱について 報告事項 1　教員の採用等ついて 3　休学･退学の許可について
臨時 11 月 27 日(木)	15 名	審議事項 1　2026 年度看護栄養学部学校推薦型選抜の合否判定について
第8回 12 月 15 日(月)	16 名	審議事項 1　2026 年度非常勤講師の委嘱について 2　2027 年度看護栄養学部入学者選抜日程(案)について 報告事項 1　教員の採用等について 2　学内会議資料のペーパーレス化について 3　その他(入学前学習課題に関する質問会の開催について)
第9回 1 月 20 日(火)	17 名	審議事項 1　2026 年度非常勤講師の委嘱について 報告事項 1　2025 年度学術振興委員会主催 FD 研修会の開催について 2　2025 年度 FD 研修会(IR 委員会主催)の開催について 意見聴取事項 1　学生の懲戒について 2　教員の採用に係る募集大綱について
第 10 回 2 月 16 日(月)	17 名	審議事項 1　2026 年度一般選抜･大学入学共通テスト利用選抜の合否判定について 2　2026 年度非常勤講師の委嘱について 報告事項 1　2026 年度校務分掌一覧について

		2　2025 年度卒業証書･学位記授与式の実施要領について 3　2025 年度学生委員会主催 FDSD 研修会の開催について 4　2025 年度教職課程 FD 研修会の開催について 5　入学前課題に関する質問会の実施報告について 6　2026 年度看護栄養学部学事暦について 7　2026 年度看護栄養学部専任教員の新規授業科目担当について 意見聴取事項 1　2026 年度科目等履修生の受け入れについて 2　看護栄養学部看護学科･栄養学科の新カリキュラムについて
臨時 2 月 20 日(金)	17 名	報告事項 1　看護栄養学部の授業料改定に伴う学則の一部改正について 意見聴取事項 1　2025 年度卒業判定について 2　2025 年度教職課程修了判定について
臨時 3 月 10 日(火)	13 名	審議事項 1　2025 年度進級判定について
第 11 回 3 月 16 日(月)	17 名	審議事項 1　2026 年度非常勤講師の委嘱・取消について 2　2027 年度入学生学校推薦型（指定校制）選抜の指定校枠について 報告事項 1　教員の雇用契約の更新について 2　2026 年度入学式の実施要領について 3　2025 年度総合型選抜（天使みらい入試）入学者の特性分析について 意見聴取事項 1　客員教授の委嘱について 2　学生の除籍について
臨時 3 月 23 日(金)	16 名	審議事項 1　2025 年度進級判定について 2　2026 年度非常勤講師の委嘱変更について

大学院看護栄養学研究科委員会

開催日時	出席人数	議　　案　　名
第 1 回 4月21日(月)	15 名	審議事項 1　2025 年度看護栄養学研究科の活動目標について 報告事項 1　休学･復学の許可について 2　2025 年度看護栄養学研究科開講科目一覧について 3　2025 年度看護栄養学研究科学位論文審査報告書(予備審査)について 4　2025 年度看護学専攻修士(博士前期)課程学位論文研究計画書の指導教員について 5　2025 年度看護学専攻新入生の研究指導教員について 6　2025 年度大学院看護栄養学研究科入学者選抜結果について

第２回 5月19日(月)	16 名	審議事項 １　2025 年度大学院非常勤講師の委嘱取消について ２　2025 年度看護学専攻学位論文研究計画書の審査について ３　看護学専攻(保健師コース)及び栄養管理学専攻入学者選抜 2 次募集実施可否の公表について 報告事項 １　2025 年度看護学専攻新入生等の副指導教員について 意見聴取事項 １　2025 年度 TA(ティーチング･アシスタント)の採用について
第３回 6月16日(月)	16 名	審議事項 １　2025 年度特別講師の委嘱について ２　2025 年度学位論文発表会(9 月修了)の開催について 報告事項 １　2025 年度栄養管理学専攻学位論文研究計画書について ２　2025 年度栄養管理学専攻学位論文中間発表会の開催について 意見聴取事項 １　2025 年度 TA(ティーチング・アシスタント)の採用について
第４回 7月16日(月)	14 名	審議事項 １　2025 年度非常勤講師の委嘱･変更･取消について ２　2025 年度実習指導教員の委嘱･取消について ３　看護栄養学研究科入学者選抜合否判定基準の改正について
第５回 9月19日(金)	14 名	審議事項 １　2026 年度看護学専攻保健師コース推薦型選抜の合否判定について ２　2025 年度非常勤講師の委嘱･変更･取消について 報告事項 １　休学･復学の許可について ２　2025 年度看護栄養学研究科学位論文審査報告書について 意見聴取事項 １　2025 年度前期修了判定について ２　外部講師関連業務の運用見直しについて
臨時 10月23日(木)	13 名	審議事項 １　2026 年度看護栄養学研究科一般選抜(Ⅰ期)の合否判定について ２　看護学専攻博士後期課程の学生の単位認定及び履修登録の取り扱いについて ３　2025 年度看護学専攻博士後期課程早期修了論文審査スケジュール(3 月修了)について 意見聴取事項 １　天使大学大学院看護栄養学研究科博士後期課程における早期修了に関する規程の一部改正について

第６回 11 月 17 日(月)	15 名	審議事項 １　2025 年度学位論文関連スケジュールについて ２　2026 年度大学院非常勤講師の委嘱について ３　2025 年度看護栄養学研究科看護学専攻博士後期課程の早期修了について ４　2025 年度学位論文提出予定者の主査及び副査について 報告事項 １　看護学専攻博士前期課程修士論文コース精神看護学領域修了者による精神看護 CNS 領域実習科目の科目等履修の認可について ２　看護学専攻(保健師コース)及び栄養管理学専攻入学者選抜 2 次募集実施可否について
第７回 12 月 15 日(月)	15 名	審議事項 １　2026 年度看護栄養学研究科学事暦について ２　2026 年度看護栄養学研究科研究指導教員及び科目担当教員の教員資格について ３　2026 年度長期履修学生申請の許可について ４　2025 年度学位論文提出予定者の主査及び副査について ５　2026 年度大学院非常勤講師の委嘱について ６　2026 年度大学院特別講師の委嘱について ７　大学院看護栄養学研究科看護学専攻の学生保険の加入について ８　2027 年度看護栄養学研究科入学者選抜日程(案)について 報告事項 １　2025 年度 FD 研修会(看護学専攻担当)の開催について ２　2025 年度学位論文発表会(保健師コース)の開催について ３　2025 年度看護栄養学研究科学位論文審査報告書(予備審査)について
第８回 1 月 20 日(火)	15 名	審議事項 １　2025 年度学位論文発表会の開催について ２　2026 年度大学院非常勤講師の委嘱について ３　2026 年度特別講師の委嘱について ４　2026 年度実習指導教員の委嘱について
臨時 1 月 29 日(木)	13 名	審議事項 １　2026 年度看護栄養学研究科一般選抜Ⅱ期の合否判定について ２　2026 年度大学院非常勤講師の委嘱・取消について
第９回 2 月 16 日(月)	15 名	審議事項 １　学位論文の公表について ２　2025 年度看護栄養学研究科自己点検・評価報告書について ３　ホスピス緩和ケア看護課題研究に係る単位認定について
臨時 2 月 20 日(金)	16 名	審議事項 １　2025 年度大学院非常勤講師の委嘱について ２　2026 年度長期履修学生申請の許可について ３　看護学専攻博士前期課程科目の英語表記について ４　2025 年度看護学専攻博士後期課程早期修了論文審査スケジュール(3 月修了)の一部変更について

		5　実践系栄養管理学特別研究に係る単位認定について 報告事項 1　2025 年度看護栄養学研究科学位論文審査報告書について 意見聴取事項 1　2025 年度修了判定について 2　天使大学大学院看護栄養学研究科学則及び履修規程の一部改正について
第 10 回 3 月 16 日(月)	16 名	審議事項 1　2026 年度看護栄養学研究科の活動目標について 2　2026 年度看護栄養学研究科開講科目一覧について 3　2026 年度大学院非常勤講師の委嘱・取消について 4　2026 年度看護栄養学研究科専任教員の新規担当科目について 5　看護学専攻博士前期課程のカリキュラム・マップの変更について 6　看護学専攻博士前期課程領域名及び科目の英語表記について 7　長期履修学生申請の許可について 報告事項 1　2025 年度学事暦の一部変更について 2　2026 年度学事暦の一部変更について 3　令和 7 年度設置計画履行状況等調査の結果について 4　2026 年度看護学専攻指導教員の変更について 5　2026 年度看護学専攻研究計画審査スケジュールについて 6　2026 年度研究計画発表会の開催について 意見聴取事項 1　天使大学大学院看護栄養学研究科教員資格基準に関する規程の一部改正について 2　長期履修学生の履修期間の変更について 3　天使大学大学院看護栄養学研究科学則の一部改正について

大学院助産研究科教授会

開催日時	出席人数	議　　案　　名
第１回 4月23日(水)	6 名	報告事項 1　天使大学名誉教授の称号について 2　2024 年度教員業績評価の評価結果について 3　2025 年度天使大学大学院助産研究科入学者選抜結果について 4　2025 年度大学基準協会認証評価に係る学生への意見収集について
第２回 5月21日(水)	8 名	審議事項 1　助産研究科入学者選抜２次募集実施可否の公表について 報告事項 1　2025 年度天使大学校務分掌の変更について 2　2025 年度助産研究科教授会議長の代理について 3　2025 年度 FDSD 研修会の開催について
第３回 6月18日(水)	9 名	報告事項 1　教員の退職について

		意見聴取事項 1　臨床教授等の選考について
第４回 7月16日(水)	9名	審議事項 1　助産研究科入学者選抜合否判定基準の改正について
第５回 9月19日(金)	6名	審議事項 1　2026年度助産研究科推薦型選抜の合否判定について 2　2025年度非常勤講師の委嘱について 報告事項 1　教員の退職について 2　助産研究科長等の交代について 3　教員の採用について
臨時 10月23日(木)	8名	審議事項 1　2026年度助産研究科一般･社会人選抜の合否判定について 意見聴取事項 1　教員の採用に係る募集大綱について
第６回 11月19日(水)	7名	報告事項 1　教員の採用等について 2　助産研究科入学者選抜２次募集実施可否について 意見聴取事項 1　カリキュラム改正に伴う演習科目の１単位あたり授業時間について
第７回 12月17日(水)	5名	審議事項 1　助産研究科学内推薦選抜の導入について 2　2027年度助産研究科入学者選抜日程(案)について 3　2026年度非常勤講師の委嘱について 報告事項 1　教員の採用等について 2　学内会議資料のペーパーレス化について 意見聴取事項 1　教員の採用に係る教員選考審査委員会の審査結果について
臨時 1月20日(火)	9名	意見聴取事項 1　2026年４月１日付教員の採用に係る募集大綱の一部変更について
第８回 1月21日(水)	7名	審議事項 1　助産研究科助産基礎分野のカリキュラム改正について 報告事項 1　2025年度学術振興委員会主催FD研修会の開催について 2　2025年度FD研修会(IR委員会主催)の開催について 意見聴取事項 1　天使大学大学院助産研究科学則の一部改正について
第９回 2月18日(水)	7名	報告事項 1　2026年度校務分掌一覧について 2　2026年度兼担教員について 3　2025年度卒業証書･学位記授与式の実施要領について

		4　学内推薦選抜試験の導入に伴う入学検定料の取り扱いについて 5　国際助産学実習の新規研修先の選定について
臨時 2月20日(金)	6名	審議事項 1　2026年度非常勤講師の委嘱について 2　助産研究科助産基礎分野のカリキュラム改正について 意見聴取事項 1　2025年度大学院助産研究科助産専攻助産基礎分野の修了判定について
第10回 3月18日(水)	6名	審議事項 1　2026年度非常勤講師の委嘱について 2　2026年度の授業科目の開講学期変更について 報告事項 1　教員の雇用契約の更新について 2　2026年度入学式の実施要領について 3　2026年度授業科目担当者について 意見聴取事項 1　客員教授の委嘱について

12. 委員会構成一覧

２０２５年度天使大学校務分掌

【任期(2年)：2024.4.1～2026.3.31】
2025年12月1日現在

【大学共通】

組織名	構　成　員	担当
管理運営協議会	学長:二宮信一、理事兼任教職員:菅原邦子、中川幸恵、岩間久哉、事務局長:(岩間)	総務
教育研究評議会	学長、看護栄養学研究科長:日沼千尋、助産研究科長:藤井宏子、看護学科長:大野和美、栄養学科長:中川幸恵、教養教育科長:川口雄一、図書館長:(二宮)、宗務部長:菅原邦子、教務部長:吉田礼維子、学生部長:清水真理、内部質保証推進委員長:(日沼)、事務局長:岩間久哉	総務
学長補佐会議	学長、看護栄養学研究科長、助産研究科長、看護学科長、栄養学科長、教養教育科長、事務局長	総務
教員選考常任委員会	学長、学内理事:菅原、岩間、看護栄養学研究科長、助産研究科長、看護学科長、栄養学科長、教養教育科長	総務

区分	委員会名	委員長	委　　員	任期	担当
常設	内部質保証推進委員会	日沼	看護:榊、栄養:岡部、教養:川口、院看護:(日沼)、院栄養:鈴木、助産:中田、事務局長、[学外:三国久美、菊地和美]	2年	総務
	教学マネジメント委員会	二宮	学長、教務部長、内部質保証推進委員長、ＦＤＳＤ委員長、ＩＲ委員長、看護:服部、栄養:清水、教養:川口、助産:藤井、看栄研:(日沼)、事務局次長:鈴木、学務課長:渡邉	2年	学務
	図書情報委員会	二宮	図書館長、看護:井口、栄養:松下、教養:目時、助産:長田、図書情報課長:白石	2年	図書情報
	宗務委員会	菅原	学長、宗務部長、看護:秋山、栄養:神田、教養:小原、助産:杉田、事務:北	2年	学務
	学生委員会 (健康管理運営委員会)	清水	学生部長、看護:草野、小島、栄養:柳澤、吉田、教養:川口、学務:(ー) (健康管理運営委員会構成員:学生委員会構成員+保健相談員+助産教務委員長)	2年	学務
	広報委員会	服部容	看護:中洞、栄養:金澤、教養:服部、院看護:小澤、院栄養:坂本、入試広報課長:佐藤	2年	入試広報
	ＦＤＳＤ委員会	小山田	看護:船木、栄養:岡部、教養:唐川、助産:長田、総務:松田、学務:渡邉	2年	総務
	学術振興委員会	神島	看護:榊、栄養:西、教養:小原、助産:片倉、事務:渡邉	2年	図書情報
	地域連携等委員会	浅井	看護:岡田、伊織、栄養:志賀、蜂谷、教養:目時、助産:森川	2年	学務
	就職委員会	鈴木純	看護:峰岸、村中、栄養:岩渕、神田、学務:西川	2年	学務
	研究倫理委員会	柳澤	院看栄:鈴木、助産:森川、人文･社会:小原、事務:高山、[学外:大久保岩男、大山徹]	2年	財務
	キャンパス･ハラスメント対策委員会	唐川	理事:中川、岩間、学生部長、看護:草野、栄養:吉田、教養:(唐川)、助産:片倉、事務局長	2年	総務
	ＩＲ委員会	榊	看護:横山、栄養:髙桑、教養:唐川、助産:中田	2年	IR室
	衛生委員会	中田	産業医:西村光弘、衛生管理者:(ー)、保健相談員:東野、看護:新関、栄養:岩渕、助産:(中田)、事務:豊島	2年	総務
	国際交流委員会		活動休止	ー	ー

【大学共通】

区分	委員会名	委員長	委　　員	任期	担当
特設	懲戒委員会	学長任命	学長任命教職員:5名	ー	総務
	苦情処理委員会	互選	学長任命理事:3名、教職員:2名、学外者:1名	ー	総務
	学生個人情報保護委員会	学長任命	助産研究科長、看護栄養学研究科長、看護学科長、栄養学科長、教養教育科長、教務部長、事務局長	ー	規程19条
	学生懲戒委員会	都度	学生部長、看護･栄養･教養･助産から若干名	ー	学務
	動物実験委員会	学長任命	栄養管理学専攻主任、栄養学科長、学長指名実験動物管理者、動物実験関係教員:若干名、学長が必要と認めた者:若干名	ー	総務
	病原体等安全管理委員会	学長任命	専門的知識を有する教職員:1名、感染予防専門教職員:1名、学校医:1名、衛生委員会委員:1名、学長が必要と認めた者:若干名	ー	財務
	遺伝子組換え実験委員会	柳澤	専門的知識を有する教職員:若干名(岩渕)、学長が必要と認めた者:若干名(高山)　【委員任期：2024.10.28～2026.3.31】	ー	財務

２０２５年度天使大学校務分掌

【任期(2年)：2024.4.1～2026.3.31】

組織名	室長	構　成　員	任期	担当
ＩＲ室	榊	事務局:堀切、星、松沢	―	―

【看護栄養学部】

組織名	構　成　員	担当
学部教授会	学長、看護学科:大野、浅井、伊藤、神島、榊、服部、日沼、吉田礼 栄養学科:中川、小山田、清水、鈴木、西、柳澤、教養教育科:川口、唐川	総務

区分	委員会名	委員長	委　　員	任期	担当
常設	学部教務委員会	吉田礼	教務部長、看護学科長、栄養学科長、教養教育科長、教職課程委員長、看護:伊藤、田中さ、栄養:峯岸、髙桑、教養:目時、学務:長瀬	2年	学務
	学部入試委員会	川口	看護学科長、栄養学科長、教養教育科長、看護:髙橋順、栄養:長谷川、教養:小原、入試広報課長	2年	入試広報
	教職課程委員会	唐川	担当教員:服部健、(唐川)、長谷川、蜂谷、神田	2年	学務
	学部カリキュラム委員会	伊藤	学長、学長任命:伊藤、看護:大野、栄養:金澤、志賀、教養:小原、学務:渡邉、入試広報:佐藤、学長が必要と認めた者:鈴木敏	2年	学務

組織名	構　成　員	任期	担当
教育講演会ワーキング	看護:長内、重岡、栄養:坂本、蜂谷、教養:川口	―	総務

組織名	リーダー	構　成　員	任期	担当
入学前教育ワーキング	川口	看護:榊、栄養:金澤、教養:唐川	―	学務

組織名	構　成　員
学生支援教員	看1年:〇草野、榊、服部、田中さ、横山、村中　　(教務)秋山、小島 看2年:〇伊織、髙橋順、高橋彩、田中裕、吉田奈　　(教務)中洞、重岡 看3年:〇船木、浅井、長内、木村、吉川、山口　　(教務)新関 看4年:〇峰岸、神島、岡田、芦名、井口　　(教務)伊藤 栄1年:〇金澤、西、岡部、吉田、佐藤 栄2年:〇蜂谷、柳澤、髙桑、松下、坂野 栄3年:〇岩渕、鈴木、峯岸、長谷川、喜田 栄4年:〇志賀、清水、坂本、神田、岡　　※〇はリーダー

【大学院共通】

区分	委員会名	委員長	委　　員	任期	担当
常設	大学院入試委員会	西	看護学専攻主任:服部、栄養管理学専攻主任:鈴木、院看護:髙橋順、院栄養:長谷川、助産:藤井、森川、入試広報課長	2年	入試広報

【看護栄養学研究科】

組織名	構　成　員	担当
研究科委員会	研究科長、看護学専攻:服部、浅井、伊藤、大野、神島、榊、菅原、吉田礼 栄養管理学専攻:鈴木、小山田、清水、中川、西、柳澤、川口	総務

【助産研究科】

組織名	構　成　員	担当
助産研究科教授会	学長、研究科長、中田、臨床専任:高室、宮下、山本、兼担:川口、菅原、日沼	総務

区分	委員会名	委員長	委　　員	任期	担当
常設	助産研究科教務委員会	藤井	中田、片倉、森川、長田、杉田	2年	学務
	助産研究科広報委員会	藤井	中田、片倉、入試広報課長	2年	入試広報

組織名	議長	委員(任期:2025.4.1～2027.3.31)	任期	担当
助産研究科教育課程連携協議会	藤井	研究科長、協議会関係者:正岡経子、地方公共団体職員:毛利多恵子、本学教職員以外の者:佐々木理恵、辻由紀子、本学教職員:二宮信一	2年	学務

１３．委員会の活動報告

２０２５年度　宗務委員会活動報告

委員会組織	委員長：菅原　邦子 委　員：二宮信一、秋山雅代、神田拓登、小原琢、杉田樹美、北仁志
委員会開催数	４回

審議・報告事項

［主な審議事項］

・宗教行事、ミサの実施について
　イースターの集い
　死者追悼のミサ
　クリスマス点灯式、クリスマスキャロルの放送
　クリスマスの集い
　教職員修養会ミサ
　卒業・修了感謝のミサ
・学科行事における宗務的行事について
　戴帽式
　ステップアップセレモニー
　学生修養会「感謝の祈り」
・アッセンブリーアワー継続に関する宗務委員会決議について
・宗務部長不在時の部長代理について
・建学の理念正課外教育マニュアルについて
・2026 年度宗務委員会活動計画書及び予算見積内訳書について
・Ⅳ教育の質向上 宗務部長（「天使大学学長指針」重点事項）について
・2026 年度卒業・修了時に配布のおメダイについて
・司祭館からの神父の派遣について
・2025 年度自己点検評価について

［主な報告事項］

・2025 年度新入生へ建学の理念教育と宗教行事オリエンテーションについて
・2025 年度前期チャペルアワーの実施報告について
・2025 年度教職員修養会集計報告について
・2025 年度後期学生修養会「感謝の祈り」テーマについて
・2025 年度カトリック医療関連学生セミナーの学生参加申込について

２０２５年度　教務委員会活動報告

委員会組織	委員長：吉田礼維子 委　員：大野和美、中川幸恵、川口雄一、唐川智幸、伊藤治幸、田中さおり、 高桑暁子、峯岸夕紀子、目時光紀、長瀬慎平
委員会開催数	定例 13 回、紙面審議 1 回

審議・報告事項

［主な審議事項］

・委員会活動計画について
・委員長代理について
・専任教員の科目の新規担当について
・非常勤講師の委嘱及び雇用契約更新等について
・実習指導教員の委嘱及び雇用契約更新等について
・特別講師の委嘱等について
・科目等履修生の受け入れについて
・履修の取消について
・卒業判定について
・進級判定について
・教職課程修了判定について
・自己点検・評価報告書について
・試験・評価日程について
・成績評価方法の検討について
・学生及び教職員への DP 及びシラバスの周知について
・教育の質に係る客観的指標調査について
・新入生オリエンテーション、出会いと親睦ゼミ及び在学生ガイダンスについて
・履修要項について
・授業概要について
・学事暦について
・授業時間割編成方針について
・追実習について
・生成 AI の授業での使用について
・生成 AI の普及が大学教育に与える影響と今後の教育の在り方について
・ディプロマ・ポリシー到達度評価及び改善について
・授業の出席登録における不正への注意喚起について
・「教員による科目評価」について
・英語の授業形態について
・「健康とスポーツ」の運用について

［主な意見聴取事項］

・公認欠席「④その他教務部長が認める事由」について

・出欠記録の取り扱いについて（新教務システム関係）

・教室の暖房について

［主な報告事項］

・既修得単位の認定・単位授与について

・教科書販売 web サイトにおけるシステム障害と対応について

・数理・データサイエンス・AI 教育プログラム自己点検・評価について

・臨床栄養学実習Ⅲ 実習期間外での実施について

・前期成績評価の登録誤りについて

・学生情報参照可能範囲の設定について

・物品管理について

２０２５年度　入試委員会活動報告

委員会組織	委員長：川口雄一 委　員：大野和美、中川幸恵、髙橋順子、長谷川めぐみ、小原琢、佐藤誠治
委員会開催数	6 回

審議・報告事項

［主な審議事項］

・委員長代理について

・2026 年度　入学者選抜要項について

・2026 年度入学　学校推薦型・社会人選抜入試問題出題者について

・小論文・個人面接試験評価項目一覧について

・天使みらい入試について

・看護学科の総合型選抜について

・2026 年度天使みらい入試（総合型選抜）の実施要領等について

・2026 年度入学者選抜業務の人選依頼について

・看護学科の総合型選抜導入について

・2026 年度入学者選抜　学校推薦型選抜の小論文試験問題の選定について

・学校推薦型・社会人選抜　面接試験質問例について

・学校推薦型・社会人選抜　実施要領（案）について

・学校推薦型・社会人選抜および一般・大学入学共通テスト利用選抜合否判定基準について

・2027 年度 入学者選抜日程について

・情報の公表（過去問題等）について

・2026 年度　入試委員会予算・活動計画書について（意見聴取）

・学校推薦型・社会人選抜　小論文の採点要項について

［主な報告事項］

・2025 年度入試委員会活動計画について

・2025 年度入試委員会予算について

・2025 年度入試委員会開催月及び議題について

・2025 年度入学者選抜問題の著作処理について

・WEB 出願について

・2025 年度入学者選抜結果について

・2026 年度入学者選抜要項について（完成）

・2026 年度入学手続要項の進捗状況について

・文部科学省発信　2026 年度大学入学者選抜実施要領について

・2026 年度入学　学校推薦型・社会人選抜入試問題出題者について

・2027 年度 一般選抜マークシート導入に伴う情報共有

・一般選抜および大学入学共通テスト利用選抜における調査書の活用について

・天使みらい入試 事前審査について

・2026 年度 大学入学共通テストに向けた準備について

２０２５年度　教職課程委員会活動報告

委員会組織	委員長：唐川智幸 委　員：服部健治、長谷川めぐみ、蜂谷愛、神田拓登
委員会開催数	９回

審議・報告事項

［主な審議事項］

・公立学校教員採用選考試験の早期化・複数回実施に対する対策講座の開設について

・教職課程を履修する学生への面談について

・教職課程 FD 研修会について

・教職課程行事一覧および担当者について

・教員採用候補者選考検査　対策ゼミについて

・北大農場の体験学習等について

・活動計画および予算について

・教職課程の自己点検評価に関するアンケートについて

・科目等履修生（教職課程）の受入れについて

・非常勤講師および特別講師の委嘱について

・教職課程自己点検評価について

・教職課程修了判定

・授業科目の担当者について

・新入生オリエンテーションについて

【意見聴取事項】

１.教職課程　自己点検・評価票の質問項目の改訂について

［主な報告事項］

・教職課程履修者数および教職課程履修取消者について

・教員採用試験結果について

・教員採用選考検査のための対策ゼミの結果報告について

・全私教協研究交流集会の参加報告について

【主な確認事項】

・教職課程履修の手引きについて

・教職課程自己点検・評価報告書について

２０２５年度　内部質保証推進委員会活動報告

委員会組織	委員長：日沼千尋 委　員：川口雄一、榊健二郎、岡部哲子、鈴木純子、中田かおり、岩間久哉
委員会開催数	４回（内紙面審議１回）

審議・報告事項

［主な審議事項］

・２０２５年度内部質保証推進委員会活動計画（案）

・大学基準協会実地調査までのスケジュールについて

・大学基準協会実地調査における学外ステークホルダーの選定について

・アセスメント・ポリシーの改定について

・外部評価委員の意見聴取について

・令和７年度教育の質に係る客観的指標調査について

・大学基準協会からの資料提供依頼について

・大学基準協会大学評価の事前質問への回答について

・２０２５年度受審大学基準協会認証評価実地調査後の検討課題について

・外部評価委員からの意見の検討について

・２０２５年度自己点検・評価報告書（年報）の書式及び作成依頼について

・２０２６年度活動計画書案について

・２０２６年度予算案について

・２０２６年度外部評価委員について

・２０２５年度活動報告会について

・２０２５年度自己点検・評価報告書（年報）について

［主な報告事項］

・大学基準協会認証評価に係る学生への意見収集について

・大学基準協会認証評価基幹教員に関する追加資料について

・２０２４年度予算について

・外部評価委員について

・アンケート内容の整理について

・大学基準協会第４期認証評価の実地調査について

・大学基準協会研修員派遣意向調査について

・実地調査当日のスケジュールと面談者について

・実地調査事前打合せについて

・栄養学科外部評価委員の評価報告について

・２０２５年度教育の質に係る客観的指標査について

・２０２５年度日本助産評価機構改善状況に関するヒアリング結果について

・２０２５年度自己点検・評価報告書（年報）の作成スケジュールについて

２０２５年度　教学マネジメント委員会活動報告

委員会組織	委員長：二宮信一 委　員：日沼千尋、吉田礼維子、小山田正人、榊建二郎、服部容子、清水真理、川口雄一、藤井宏子、鈴木敏郎、渡邉泰央（2025 年 7 月 1 日～）
委員会開催数	3 回

審議・報告事項

［主な審議事項］

・2025 年度 教学マネジメント委員会活動計画（案）について

・教学マネジメント委員会よりカリキュラム委員会への要請について

・新カリキュラムにおける「研究室制」の導入について

・2026 年度以降の授業アンケート結果の分析について

・IR 分析結果の検討について

・授業アンケート等の項目について

［主な報告事項］

・新カリキュラム検討の進捗状況について

・本委員会からの検討要請事項に対する答申について

・大学基準協会大学評価からの事前質問と回答について

・道内国公立私立大学学長懇談会の報告について

２０２５年度　図書情報委員会活動報告

委員会組織	委員長：二宮信一 委　員：井口久美、松下真美、目時光紀、長田雅子、白石澄枝
委員会開催数	５回

審議・報告事項

［主な審議事項］

・委員長代理について

・ グループ学習室の運用ルールの改正について

・2025 年度後援会からの寄贈図書及び図書館用品について

・2025 年度後期・2026 年度前期図書館開館予定（案）・情報処理室開室予定（案）について

・天使大学研究データポリシーの策定について

・研修会や学会等での無線 LAN（tenshi-wifi）の学外参加者の利用について

・情報処理室ポータルの学内 LAN 掲示版への掲載について

・「生成 AI ツールの学内開放に関する要望書（教務委員会)」に対する回答について

・2026 年度和雑誌・洋雑誌の講読継続について

・加除式追録「栄養関係法規類集」の購読中止について

・2026 年度学術データーベースの契約継続について

・「イーブックスライブラリー」（電子書籍）の契約について

・2026 年度図書館・情報処理室活動計画及び予算について

・2025 年度自己点検・評価報告書（案）について

・2025 年度図書情報委員会活動報告（案）について

・2025 年度除籍図書（案）について

［主な報告事項］

・2025 年度活動計画および予算について（図書館・情報処理室）

・2025 年度前期図書館開館・情報処理室開室予定表について（図書館・情報処理室）

・2025 年度発注締切日と発注書の ISBN の記載方法について

・2025 年度学術データベースのリモートアクセス用ＩＤ・パスワードの申請について

・2025 年度製本雑誌および電子書籍の予算配分について

・看護学科・栄養学科・助産研究科購入和雑誌の休刊について

・図書館設置のコピー機の利用について

・天使祭（６月 13 日(金)～14 日(土)）の図書館一般公開状況報告について

・図書資料費執行状況について

・入館者・在室者数統計（図書館・情報処理室）について

・2025 年度当初予算の配分額の見直しについて

・学術認証フェデレーション（学認）の件について
・遠隔会議システムの要望に対する対応について
・藤女子大学図書館・天使大学図書館の情報・意見交換会の実施について
・2025 年度日本カトリック大学連盟図書館協議会総会・実務研究会について
・2026 年度新規購入希望雑誌について
・2025 年度図書館及び情報処理室学生アルバイトの募集及び採用等について
・「学認（学認認証フェデレーション)」を利用した学外からの学術データベースアクセス方法について
・後援会寄贈図書と備品（ベンチソファー等）について
・文献複写等の受付申込期限について
・メディカルオンラインイーブックスライブラリーのトライアルについて
・天使大学研究データポリシーの公表について
・2025 年度蔵書点検について
・新聞記事の複写について

2025 年度　学生委員会活動報告

委員会組織	委員長：清水真理 委　員：草野知美、小島有沙、柳澤健、吉田真弓、川口雄一
委員会開催数	10 回（２月 20 日時点）

審議・報告事項

［主な審議事項］

・2025 年度 学生委員会役割分担一覧（案）について検討する
・2025 年度 学生部長不在時の代理（案）について検討する
・2025 年度 合唱コンクールの当日の流れ、役割分担、シナリオを検討する
・新入生応援企画先輩たちとの交流会について
・FDSD 研修会の企画報告書について検討する
・大学食堂委託業者に対する食堂運営に関する申し入れについて
・新入生応援企画先輩たちとの交流会の実施要項の修正案について検討する
・天使祭における同窓会「タキさんの店」の出店に関する依頼について検討する
・マリアホール、ラウンジの席数増設案について検討する
・天使大学奨学金の申込状況をふまえ２次募集の実施可否を検討する
・「公文和子氏による講演会」に関する検討事項をふまえ開催方法等を検討する
・2026 年度 学事暦（学生委員会関係）を検討する
・教育の質に係る客観的指標調査の回答について検討する
・本学を代表として参加する課外活動に該当するどうかについて検討する
・楢戸医師による海外医療支援の講演の開催可否について検討する
・2025 年度学生生活実態調査と卒業修了時アンケートの質問項目について検討する
・2025 年度 学生生活実態調査、卒業修了時アンケートの実施について
・2025 年度 天使大学体育祭（学内開催）について検討する
・補正予算要求について検討する
・第３回学生の安否確認訓練の実施について検討する
・2026 年度活動計画書及び予算見積内訳書について検討する
・2025 年度 学生生活実態調査の実施について検討する
・2026 年度 学事暦（天使祭）の日程を再検討する
・春期休業期間の学生食堂の閉店について検討する
・自己点検評価報告書（年報）について
・2025 年度 学生委員と葦の会役員との交流会について
・春期休業期間中の大学食堂の営業について

［主な報告事項］

・天使大学海外研修の検討課題(経過報告)について報告する

・2025 年 第 71 回天使祭のテーマ、当日のスケジュール等について報告する
・看護・栄養学科 学生支援体制について報告し、各学科・科において共有してもらう
・2025 年度 葦の会役員、部・サークル活動団体一覧について報告する
・2025 年度 クラス代表・各種委員一覧について報告する
・保健相談室報告（2025 年３月）
・学生相談室報告（2025 年３月）
・学生食堂報告（2025 年３月）
・天使祭スケジュールの変更点および天使祭期間中の巡回指導等について
・2024 年度 学生生活実態調査の集計結果について、2024 年度 卒業・修了時アンケートの集計結果について
・2025 年度 葦の会役員・部サークル活動団体一覧について
・2025 年度 第１回同窓会と葦の会との交流会について
・学長と葦の会との交流会について
・学生食堂報告（2025 年４月）
・保健相談室報告（2025 年４月）
・学生相談室報告（2025 年４月）
・札幌市司法書士会「法律教室」の点検評価について
・2025 年度 天使大学合唱コンクールの点検評価について
・2025 年 第 71 回天使祭の点検評価について
・toreluna（トレルナ）の設置についての報告
・大学食堂報告（2025 年５月）および後援会への助成要望について
・保健相談室報告（2025 年５月）
・学生相談室報告（2025 年５月）
・2025 年度 第２回学生の安否確認訓練の集計結果について
・大学食堂に関する後援会への助成の結果について
・大学食堂報告（2025 年６月）
・保健相談室報告（2025 年６月）
・学生相談室報告（2025 年６月）
・2025 年度天使大学体育祭の開催について
・札幌学院大学江別キャンパス「学生相談室」「サポートセンター」への訪問・情報交換について
・大学食堂報告（2025 年７月）
・保健相談室報告（2025 年７月）
・学生相談室報告（2025 年７月）
・学内で金銭の窃盗事案が発生したことについて
・学生食堂報告（2025 年８月）
・保健相談室報告（2025 年８月）
・学生相談室報告（2025 年８月）
・2025 年度 天使大学体育祭の詳細について
・卒業アルバム制作の進捗について
・卒業祝賀会について
・学生食堂報告（2025 年９月）
・保健相談室報告（2025 年９月）

・学生相談室報告（2025 年９月）
・2025 年度 天使大学体育祭について（続報）
・2026 年度 葦の会役員選挙の進捗状況について
・2025 年度 第２回喜びのわかちあい、第２回学生総会の実施について
・部サークル活動のイベントについて
・学生食堂報告（2025 年 10 月）
・保健相談室報告（2025 年 10 月）
・学生相談室報告（2025 年 10 月）
・2025 年 天使大学体育祭の点検評価について
・JA そらち南から農産物の贈呈について
・学生委員会主催のＦＤ研修会の進捗について
・学生食堂報告（2025 年 11 月）
・保健相談室報告（2025 年 11 月）
・学生相談室報告（2025 年 11 月）
・サツドラ福利厚生「大学生向け学割パック」について
・天使大学後援会へ助成要望について
・2025 年度 学生員会主催のＦＤＳＤ研修会の当日の流れ等について
・2025 年度 葦の会役員のリーダー研修会について
・看護学科ロッカー室内の水漏れについて
・学生食堂報告（2025 年 12 月）
・保健相談室報告（2025 年 12 月）
・学生相談室報告（2025 年 12 月）

２０２５年度　広報委員会活動報告

委員会組織	委員長：服部容子 委　員：小澤涼子、中洞真理子、金澤康子、坂本洋子、服部健治、佐藤誠治
委員会開催数	5 回

審議・報告事項

［主な審議事項］

・2025 年度の全オープンキャンパスについての確認

・2025 年度第 1 回オープンキャンパスについての確認

・2025 年度第 2 回オープンキャンパスについての確認

・2025 年度第 3 回オープンキャンパスについての確認

・2025 年度第 4 回オープンキャンパスについての確認

・大学広報勉強会について

・2025 年度前期 学報について

・教職員への広報活動協力要請について

・大学案内制作等業者変更検討

・2026 年度オープンキャンパス日程（案）について

・2026 年度予算・活動計画書について

・2028 年度入学者向け学校案内制作について

・天使大学公式 LINE について

［主な報告事項］

・新入生アンケート実施報告

・2026 年度入学生向け発行 大学案内及び研究科パンフレット進捗について

・撮影のお願い（動画制作業者の場合もある）

・在学生による母校訪問、母校向け天使大学を目指す皆さんへ

・高校訪問・進学相談会等

・北星学園女子高等学校　高大連携プログラムについて

・学報進捗状況

・2025 年 11 月より更新している SNS（Instagram）の反応について

２０２５年度　ＦＤＳＤ委員会活動報告

委員会組織	委員長：小山田正人 委　員：船木沙織、岡部哲子、唐川智幸、長田雅子、渡邉泰央、松田ゆかり
委員会開催数	１０回

審議・報告事項

［主な審議事項］

・2024 年度授業評価アンケート実施結果報告（案）について

・2024 年度授業参観実施報告書（案）について

・天使大学授業参観実施要項の改正について

・2025 年度前期授業評価アンケートの予定について

・2025 年度の FD 研修会及び SD 研修会について

・2025 年度 FDSD 委員会開催予定について

・他部署が企画する FD 及び SD 研修会実施計画について

・2025 年度 FDSD 研修会について

・授業アンケートについて

・授業評価アンケート実施要項の改正について

・2025 年度第 2 回 FDSD 研修会について

・2025 年度前期開講科目の授業改善計画書提出の要否について

・2025 年度後期授業評価アンケートの予定について

・授業アンケートの見直しについて

・2026 年度活動計画及び予算について

・2026 年度の FD 研修会及び SD 研修会について

・授業アンケート実施要項の改正について

・2025 年度自己点検・評価報告書について

［主な報告事項］

・2025 年度活動計画及び予算について

・授業評価アンケート改善報告書提出対象科目について

・各部署が主催する FD 及び SD 研修会予定の調査について

・天使大学授業参観実施要項の改正について

・令和 7 年度北海道 FD・SD 協議会総会について

・「北海道 FDSD フォーラム 2025」に係る分科会の話題提供校の募集について

・2025 年度当初予算配分額の見直しについて

・2025 年度第 1 回 FDSD 研修会について

・授業アンケートについて

・令和 7 年度教育の質に係る客観的指標調査について

・2025 年度第 1 回補正予算編成について

・授業アンケートの見直しについて

・FD 研修会および SD 研修会のアンケート集計結果について

・授業参観の参加状況について

・2025 年度自己点検・評価報告書の検討について

・授業アンケート実施要項の改正について

２０２５年度　学術振興委員会 活動報告

委員会組織	委員長： 神島 滋子 委　員： 榊 建二郎、西 隆司、小原 琢、片倉 裕子、渡邉 泰央
委員会開催数	４回

審議・報告事項

［主な審議事項］

・2025 年度委員長代理について

・2025 年度科学研究費アドバイザーについて

・2025 年度研究のためのよろず相談について

・2025 年度研究に関する教員交流会について

・2025 年度「研究に関する教員交流会」及び「特別研究費による研究報告会」について

・「科研費獲得ウェビナー for 2026（羊土社主催)」の参加について

・「天使大学学長指針」の重点事業に係る進め方について

・「本学の研究活動」掲載依頼書及び学内 LAN 掲示板への格納について

・「researchmap（(国研)科学技術振興機構)」の登録・促進について

・2026 年度学術振興委員会活動計画（案）及び予算見積内訳書（案）について

・2025 年度紀要第 26 巻第１号の紀要投稿の審議結果等について

・天使大学紀要投稿に関する提出書類の見直しについて

・教育研究評議会意見聴衆事項：生成 AI の活用について

・2025 年度自己点検・評価報告書（案）について

・2026 年度天使大学紀要第 27 巻第１号及び第２号投稿論文募集のご案内について

［主な報告事項］

・2024 年度研究に関する教員交流会について

・2025 年度活動計画及び予算について

・2025 年度天使大学紀要第 26 巻１号の進捗状況について

・2025 年度「FDSD 研修会実施計画報告書」の提出について

・「科研費獲得ウェビナー for 2026（羊土社主催)」の参加報告について

・本学ホームページ「本学の研究活動」への掲載について

・第 4 期認証評価大学評価結果（分科会案）の質問事項に関する資料の提供について

・「天使大学学長指針」の重点事業に係る進め方の回答について

２０２５年度　地域連携等委員会活動報告

委員会組織	委員長：浅井さおり 委　員：伊織光恵、岡田尚美、志賀一希、蜂谷愛、目時光紀、森川由紀
委員会開催数	5 回

審議・報告事項

［主な審議事項］

・「2025 年度天使大学・北海道科学大学連携公開講座」について
・「2025 年度ひがしく健康・スポーツまつり」について
・「令和 7 年度タッピーフレンズ交流会」について
・「天使病院夏祭り」について
・委員長不在時の委員長代理について
・「2025 年度天使大学・北海道科学大学連携公開講座」広報について
・「2025 年度ひがしく健康・スポーツまつり」について
・「天使病院夏祭り」について
・「天使大学学長指針」重点事業に係る進め方について
・「すこやか倶楽部」（ライフステージ支援事業）への協力について
・2025 年度第 1 回補正予算編成について
・2026 年度活動計画・予算について
・「ひがしく健康・スポーツまつり 2025」点検・評価について
・「夕張地域医療体験」参加者募集について
・2025 年度年報　自己点検・評価報告書について

［主な報告事項］

・藤女子大学との意見交換会について（地域連携セクション）
・2025 年度活動計画書・予算について
・2024 年度年報 自己点検・評価報告書等について
・令和 7 年度の東区事業（イベント等）予定について
・令和 7 年度「札幌市食育学生ボランティア養成講座」の開催について
・第 4 期認証評価大学評価結果（分科会案）の質問事項の回答及び面談対象者の選任について
・「さわやかウオーク in さとらんど」について
・「タッピーフレンズ交流会」について
・ 学生への食の支援を通じた、ウェルネス推進について
・「天使病院夏祭り」について
・大学基準協会第 4 期認証評価について
・「健康づくりフェスティバル」について
・「2025 年度天使大学・北海道科学大学連携公開講座」実施状況について

・「すこやか倶楽部」（ライフステージ支援事業）への協力について

・「夕張地域医療体験」について

２０２５年度　就職委員会活動報告

委員会組織	委員長：鈴木　純子 委　員：峰岸まや子、村中沙織、岩渕　絵里子、神田拓登、西川晃子
委員会開催数	６回

審議・報告事項

［主な審議事項］

・委員長不在時の委員長代理について
・役割分担について
・委員会の開催日について
・2025 年度就職ガイダンス・セミナー概要一覧について
・就職相談室ニュース第１号～３号の作成について
・求人開拓パンフレット「採用のご担当者の皆様へ」の作成について
・就職活動ガイドブック 2026 年度版の作成について
・2025 年度教育の質に係る客観的指標調査について
・2024 年度卒業・修了生対象就職状況調査について（12 月実施）
・2025 年度就職活動と就職支援に関する調査について（2 月実施）
・2024 年度卒業生に関する就職先アンケート調査について（5 月実施）
・第４期認証評価大学評価結果（分科会案）の質問事項の回答について
・2025 年度当初予算の配分の見直しについて
・2026 年度活動計画案及び予算案について
・2025 年度自己点検評価について

［主な報告事項］

・2025 年度活動計画及び予算見積内訳書について
・2025 年度就職内定状況・就職活動支援状況等の報告について
・2025 年度就職ガイダンス・セミナーの実施状況について
・卒業生の経験談について
・2023 年度卒業・修了生対象就職状況調査の集計結果について
・2024 年度就職活動と就職支援に関する調査の結果について
・2023 年度卒業生に関する就職先アンケート集計結果について
・2024 年度卒業・修了生就職先企業等への採用礼状の発送について
・求人訪問対応報告について
・看護学科学内就職説明会の開催について
・補正予算の提出について
・実習前のマナー講座に関するアンケート集計結果について
・求人開拓について

２０２５年度　研究倫理委員会活動報告

委員会組織	委員長：柳澤　健 委　員：鈴木　純子、森川　由紀、小原　琢、高山　美香、 大久保　岩男（学外委員）、大山　徹（学外委員）
委員会開催数	９回

審議・報告事項

［主な審議事項］

・2025 年度活動目標について

・研究倫理委員長代行の指名について

・天使大学における人を対象とする研究倫理申請について（審査件数 53 件）

・天使大学研究データポリシー（案）について

・共同研究者の研究倫理に関する研修の終了証有効期限について

・採用教員の継続研究における倫理審査について

・2026 年度予算について

・2025 年度年報及び活動報告書について

［主な報告事項］

・倫理審査終了後の研究計画等の変更届について

・天使大学における人間を対象とする研究終了報告書について

・2025 年度研究倫理研修会について

・他の研究機関への試料・情報の提供に関する報告書について

・天使大学における人を対象とする研究の進捗状況及び研究の実施に伴う有害事象の発生状況報告書について

・他の研究機関への試料・情報の提供に関する報告書について

・研究倫理審査申請の承認について

・研究倫理審査申請の取り下げについて

２０２５年度　キャンパス・ハラスメント対策委員会活動報告

委員会組織	委員長：唐川智幸 委　員：中川幸恵、岩間久哉、清水真理、草野知美、吉田真弓、片倉裕子
委員会開催数	４回（内紙面審議１回）

審議・報告事項

［主な審議事項］

・委員長代理の選任について

・キャンパス・ハラスメント対策委員会年間スケジュールについて

・２０２５年度教職員向けハラスメント研修会について

・２０２５年度ハラスメント実態調査アンケート実施時期について

・２０２５年度教職員研修会について

・２０２６年度キャンパス・ハラスメント対策委員会予算及び活動計画について

・２０２５年度キャンパス・ハラスメント実態調査内容について

［主な報告事項］

・キャンパス・ハラスメント講演会について

・２０２５年度予算報告

・キャンパス・ハラスメント講演会延長視聴について

以上

２０２５年度　IR 委員会活動報告

委員会組織	委員長：榊　建二郎 委　員：横山　聖美、高桑　暁子、唐川　智幸、中田　かおり
委員会開催数	７回

審議・報告事項

［主な審議事項］

・看護学科 2024 年度国家試験の分析結果について

・プレイスメントテスト結果の１年生支援教員との共有について

・入学生アンケートの所管部署について

・2025 年度入学生アンケートの分析について

・2025 年度 IR 委員会主催 FDSD 研修会について

・2024 年度 栄養学科国家試験分析

・「授業評価アンケート改正案」の検討

・2026 年度予算（IR 室）

・2026 年度予算（IR 委員会）

・2025 年度 栄養学科総合型選抜入学者の特性分析

・2025 年度 FD 研修会 役割分担について

［主な報告事項］

・2024 年度ＩＲ委員会主催ＦＤ研修会アンケート結果について

・入学前教育の状況について（情報共有）

・2025 年度ＩＲ委員会及びＩＲ室予算について

・総合型選抜（みらい入試）で入学した学生の特性分析について

２０２５年度　大学院入試委員会活動報告

委員会組織	委員長：西隆司 委　員：服部容子、鈴木純子、藤井宏子、髙橋順子、長谷川めぐみ、森川由紀、佐藤誠治
委員会開催数	7回

審議・報告事項

［主な審議事項］

・委員長代理について

・2026 年度大学院入学者選抜出題者について

・2026 年度大学院入学者選抜要項について

・2026 年度大学院選抜「推薦書・人物調書等」の取り扱いについて

・採点基準（小論文、面接、口頭試験）について

・看護学専攻、栄養管理学専攻の合否判定基準について

・助産研究科の面接員について

・推薦型選抜　面接のタイムスケジュールおよび役割分担について

・助産研究科推薦型選抜合否判定について

・10 月 18 日実施 一般選抜等の実施要領について

・情報の公表（過去問題等）について

・2026 年度 助産研究科 一般・社会人選抜合否判定について

・2027 年度 入学者選抜日程について

・2026 年度 大学院入試委員会予算、活動計画書について

・助産研究科 学内推薦枠の導入について

［主な報告事項］

・大学院入試委員会規程の確認

・2025 年度 活動計画書および予算申請書の確認

・2025 年度 大学院入学者選抜結果

・2025 年度 大学院入学者選抜事後アンケートへの結果について

・一般選抜の二次募集について

・2026 年度 入学者選抜要項について（完成）

・2026 年度 入学手続要項について

・助産研究科大学院入試委員の変更について

・勤怠管理システムに関する質問等について

・2026 年度 入学者選抜 実施状況について

・入試担当の業務負担について

・二次募集実施の有無について

・推薦型選抜および一般選抜（Ｉ期） 事後アンケート結果について

２０２５年度　助産研究科教務委員会活動報告

委員会組織	委員長：藤井 宏子 委　員：中田 かおり、片倉 裕子、森川 由紀、長田 雅子、 杉田 樹美
委員会開催数	13 回

審議・報告事項

［主な審議事項］

・教員委嘱・担当：特別講師、実習指導教員、授業科目担当者等の委嘱及び担当体制の確認
（第 1 回（4/1）、第 2 回（4/15）、第 8 回（9/30）、第 13 回（3/18））

・試験・評価：前期・後期・最終試験の評価方法・日程、成績判定及び評価スケジュールについて
（第 2 回（4/15）、第 7 回（9/1）、第 11 回（1/14）、第 12 回（2/18））

・実習関連：実習指導教員の委嘱、実習施設の確認、独立助産実習及び国際助産学実習に関する事項
（第 2 回（4/15）、第 8 回（9/30）、第 9 回（11/4））

・教育課程・カリキュラム：2026 年度カリキュラム改正に伴う学則及び履修規程改正、
教育計画表、学事暦、科目配置等の検討
（第 2 回（4/15）、第 10 回（12/5）、第 11 回（1/14）、第 12 回（2/18）、第 13 回（3/18））

・成績・修了判定関連：到達度評価、修了判定、最終試験結果の確認及び成績承認
（第 7 回（9/1）、第 11 回（1/14）、第 12 回（2/18））

・次年度オリエンテーション：オリエンテーション内容、ガイダンス及び学習環境整備に関する検討
（第 12 回（2/18）、第 13 回（3/18））

・臨床指導者会議：開催内容及び実施方法の検討
（第 5 回（7/1）、第 11 回（1/14）、第 13 回（3/18））

・研究科運営・予算関連：研究科予算、運営体制及び事業計画に関する事項
（第 1 回（4/1）、第 10 回（12/5））

［主な報告事項］

・2025 年度予算及び予算執行に関する報告（第 1 回（4/1））

・オリエンテーション及び各種ガイダンスの実施に関する報告（第 1 回（4/1））

・学籍異動及び学生状況に関する報告（各回）

・教育課程連携協議会の開催及び実施状況に関する報告（第 4 回（6/3）、第 10 回（12/5））

・実習実施状況及び実習施設との調整状況に関する報告　（第 5 回（7/1）、第 8 回（9/30）、第 9 回（11/4））

・国際助産学実習の準備及び実施状況に関する報告（第 5 回（7/1）、第 8 回（9/30）、第 9 回（11/4））

・成績入力及び評価スケジュールに関する報告（第 7 回（9/1）、第 11 回（1/14））

・国家試験対策及び受験状況に関する報告（第 8 回（9/30）、第 11 回（1/14））

・最終試験結果及び修了予定者の状況に関する報告（第 12 回（2/18））

２０２５年度　助産広報委員会活動報告

委員会組織	委員長：藤井宏子 委　員：中田かおり、片倉裕子、佐藤誠治
委員会開催数	２回

審議・報告事項

［主な審議事項］

・2025 年度進学説明会日程と実施方法について

・2026 年度入学生向け 助産研究科広報媒体について

・2025 年度助産研究科入学相談窓口ポスター（学内用）作成の件

・2026 年オープンキャンパス日程（案）について

・2026 年度助産広報委員会予算及び活動計画書について

・2027 年度入学者向け 助産研究科広報媒体について

［主な報告事項］

・新入生アンケートの実施

・2025 年度助産広報委員会予算

・学報について

14. 図書館利用状況

Ⅸ-表1　2025年度入館者数統計

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
合計	2,402	2,961	3,382	5,703	1,478	2,735	3,352	2,660	2,475	3,884	1,937	319	33,288

Ⅸ-表2　2025年度図書・視聴覚資料貸出統計

所　　属	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
看護学科	241	677	874	675	583	774	888	412	90	70	127	22	5,433
栄養学科	105	145	311	267	94	100	133	123	58	27	57	12	1,432
助産研究科	92	104	48	42	37	9	12	22	33	30	24	15	468
看護栄養学研究科 看護学専攻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
看護栄養学研究科 看護学専攻 博士前期課程	144	115	112	118	62	82	115	71	124	89	36	14	1,082
看護栄養学研究科 看護学専攻 博士後期課程	0	0	0	0	0	0	5	0	3	4	0	0	12
看護栄養学研究科 栄養管理学専攻 博士前期課程	2	0	0	0	0	0	5	0	1	0	0	3	11
看護栄養学研究科 栄養管理学専攻 博士後期課程	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
教職員	202	137	92	108	111	169	134	124	172	61	145	58	1,513
相互利用	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
旧教職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学外者 (非常勤講師・実習指導教員・臨床指導者)	5	2	7	5	0	14	30	1	1	0	0	0	65
卒業生	9	3	5	18	14	12	0	0	0	0	0	3	64
合計	800	1,183	1,450	1,233	901	1,160	1,322	753	482	281	389	127	10,081

15. 情報処理室の利用状況

年間利用状況

学科・学年 / 室	看護学科				看護小計	栄養学科				栄養小計	各室計
	1年	2年	3年	4年		1年	2年	3年	4年		
4301室(日中)	165	838	1,632	1,509	4,144	147	355	2,492	1,167	4,161	8,305
4301室(夜間)	29	45	290	90	454	7	48	164	80	299	753
4302室(日中)	1,361	763	1,305	917	4,346	983	1,580	4,397	719	7,679	12,025
4302室(夜間)	81	67	222	181	551	34	160	165	42	401	952
総　計	1,636	1,713	3,449	2,697	9,495	1,171	2,143	7,218	2,008	12,540	22,035

月別学科学年利用状況

学科・学年 / 月	看護学科				看護小計	栄養学科				栄養小計	各室計
	1年	2年	3年	4年		1年	2年	3年	4年		
4	256	162	310	260	988	270	95	745	292	1,402	2,390
5	253	194	280	399	1,126	232	70	1,038	227	1,567	2,693
6	265	340	325	392	1,322	231	281	726	177	1,415	2,737
7	253	201	254	399	1,107	253	308	891	366	1,818	2,925
8	19	28	73	148	268	24	52	642	118	836	1,104
9	53	89	354	309	805	20	146	1,391	174	1,731	2,536
10	109	220	584	261	1,174	23	120	558	169	870	2,044
11	185	195	310	246	936	30	367	186	175	758	1,694
12	167	134	276	156	733	40	343	395	125	903	1,636
1	65	118	405	60	648	37	347	494	81	959	1,607
2	8	31	232	40	311	9	6	125	90	230	541
3	3	1	46	27	77	2	8	27	14	51	128
総　計	1,636	1,713	3,449	2,697	9,495	1,171	2,143	7,218	2,008	12,540	22,035

16. 施設・設備の状況

大学設置基準との対比　（単位：㎡）

	本学の現有面積	大学設置基準面積	大学設置基準との差
校地面積	30,390	7,600	22,790
校舎面積	18,024	6,744	11,280

校舎内訳

	建設年	経過年数	面積(㎡)	備考
1号館	1976（S51）	45	928.53	2階建（耐震構造）
2号館	2020（R2）	1	5,393.45	6階建（耐震構造）
3号館	1963（S38）	58	1,977.11	3階建（耐震補強済）
4号館	1971（S46）	50	2,428.96	3階建（耐震補強済）
5号館	1980（S55）	41	396.27	2階建（耐震構造）
6号館	2000（H12）	21	2,668.40	6階建（耐震構造）
7号館	2002（H14）	19	2,330.13	4階建（耐震構造）
8号館	2004（H 7）	17	1,855.69	4階建（耐震構造）
中沼ｸﾞﾗﾝﾄﾞ更衣室等	1992（H 4）	29	79.38	平屋建
計	—	—	18,057.91	

学部・大学院研究科ごとの講義室、演習室等の面積・規模

学部・研究科	講義室・演習室・学生学習室等	室数	総面積(㎡)	専用・共用の別	収容人員(総数)	学生総数	在学生1人当り面積(㎡)	備考
看護栄養学部	講義室	14	1,947	共用	1,634	778	2.50	看護栄養学研究科と共用
	演習室	15	673	共用	373	820	0.82	大学院と共用
	学生学習室	3	441	共用	250	820	0.54	大学院と共用
看護栄養学研究科	講義室							
	学生学習室	3	441	共用	250	820	0.54	看護栄養学部、助産研究科と共用
助産研究科	講義室	2	227	専用	135	42	5.40	
	学生学習室	3	441	共用	250	820	0.54	看護栄養学部、看護栄養学研究科と共用
体育館／講堂		1	725					

学部の学生用実験・実習室の面積・規模

分　　類	室　　名	収容人数	面積(㎡)	1人当り面積(㎡)
実験･実習室（看護学科）	２３０２看護実習室	100	416	4.16
	第１看護実習室	100	346	3.46
	第２看護実習室	10	41	4.10
	第３看護実習室	20	46	2.30
	第４看護実習室	10	23	2.30
	第５看護実習室	10	27	2.70
実験･実習室（栄養学科）	理化学実験室	60	262	4.37
	生理学実験室・微生物学実験室	65	397	6.11
	動物実験室	5	6	1.20
	給食経営管理自習室・実習食堂	130	350	2.69
	第2臨床栄養実習室	60	386	6.43
	官能検査室	10	30	3.00
	食品・調理実験実習室(準備室含む)	60	250	4.17
	第１カウンセリング室	3	8	2.67
	第２カウンセリング室	3	9	3.00
	栄養教育実習室	60	155	2.58
	第１臨床栄養実習室	15	45	3.00
実験･実習室(共通)	和室	10	69	6.90
情報処理室	第１情報処理室	60	113	1.88
	第２情報処理室	56	138	2.46
計		747	2,701	3.62

大学院の学生用実験・実習室の面積・規模

分　　類	室数	総面積(㎡)	収容人数(総数)	収容人員1人当りの面積(㎡)	使用研究科等	備考
実習室	18	2,874	783	3.67	看護栄養学研究科	看護栄養学部と共用
実習室	1	174	40	4.35	助産研究科	
計	19	3,048	823	3.70	—	—

17. 財務状況

貸借対照表関係の財務比率表　　(%)

	分類	比率	評価	算式	本学園	他法人
1	自己資金は充実しているか	純資産構成比率	△	純資産 / 総負債＋純資産	74.3	84.1
2		繰越収支差額構成比率	△	繰越収支差額 / 総負債＋純資産	△21.5	△29.4
3		基本金比率	△	基本金 / 基本金要組入額	90.5	96.6
4		積立率	△	運用資産 / 基本金要組入額	80.9	57.1
5	長期資金で固定資産は賄われているか	固定比率	▼	固定資産 / 純資金	80.6	102.2
6		固定長期適合率	▼	固定資産 / 純資産＋固定負債	68.4	93.9
7	資産構成はどうなっているか	固定資産構成比率	▼	固定資産 / 総資産	64.7	86.0
8		有形固定資産構成比率	▼	有形固定資産 / 総資産	60.4	63.0
9		特定資産構成比率	△	特定資産 / 総資産	12.4	20.6
10		流動資産構成比率	△	流動資産 / 総資産	35.2	13.9
11		減価償却比率（図書を除く）	～	減価償却累計額 / 減価償却資産取得額	50.4	59.0
12	負債に備える資産が蓄積されているか	内部留保資産比率	△	運用資産－総負債 / 総資産	18.2	15.4
13		運用資産余裕比率（単位：年）	△	運用資産－外部負債 / 経常支出	1.1	0.2
14		流動比率	△	流動資産 / 流動負債	262.5	166.6
15		前受金保有率	△	現金預金 / 前受金	325.7	323.9
16		退職給与引当特定資産保有率	△	退職給与引当特定資産 / 退職給与引当金	0.0	40.1
17	負債の割合はどうか	固定負債構成比率	▼	固定負債 / 総負債＋純資金	13.2	7.4
18		流動負債構成比率	▼	流動負債 / 総負債＋純資金	12.4	8.3
19		総負債比率	▼	総負債 / 総資産	27.6	15.8
20		負債比率	▼	総負債 / 純資産	34.4	18.7

（注1）「評価」は△：高い値が良い　▼：低い値が良い　～：どちらともいえない　を示す。

（注2）「他法人」は収容定員500～1000名の保健系学部を有する全国12法人の2024年度決算額の平均。

事業活動収支計算書関係の財務比率表 (%)

	分類	比率	評価	算式	本学園	他法人
1	経営状況はどうか	事業活動収支差額比率	△	基本金組入前当年度収支差額 / 事業活動収入	△4.5	4.6
2		経常収支差額比率	△	経常収支差額 / 経常収入	△1.8	3.8
3		教育活動収支差額比率	△	教育活動収支差額 / 教育活動収入計	△2.0	3.5
4	収入構成はどうなっているか	学生生徒等納付金比率	～	学生生徒等納付金 / 経常収入	71.5	32.5
5		寄付金比率	△	寄付金 / 事業活動収入	1.1	9.5
6		補助金比率	△	補助金 / 事業活動収入	23.6	7.7
7	支出構成は適切であるか	人件費比率	▼	人件費 / 経常収入	61.1	49.7
8		教育研究経費比率	△	教育研究経費 / 経常収入	35.9	40.4
9		管理経費比率	▼	管理経費 / 経常収入	4.6	5.9
10		借入金等利息比率	▼	借入金等利息 / 経常収入	0.1	0.1
11		基本金組入率	△	基本金組入額 / 事業活動収入	1.8	12.4
12		減価償却額比率	～	減価償却額 / 経常支出	11.0	5.1
13	収入と支出のバランスは取れているか	人件費依存率	▼	人件費 / 学生生徒等納付金	85.3	152.8
14		基本金組入後収支比率	▼	事業活動支出 / 事業活動収入－基本金組入額	106.5	109.0

活動区分資金収支計算書関係の財務比率表 (%)

	分類	比率	評価	算式	本学園	他法人
1	経営状況はどうか	教育活動資金収支差額比率	△	教育活動資金収支差額 / 教育活動資金収入計	3.9	8.0

2025　年度　内部質保証推進委員会

委員長：　日沼　千尋（看護学専攻）

委　員：　榊　建二郎（看護学科）

岡部　哲子（栄養学科）

川口　雄一（教養教育科）

鈴木　純子（栄養管理学専攻）

中田　かおり（助産研究科）

岩間　久哉（事務局長）

事務局：　堀切　俊介（総務課）

２０２５年度

天使大学 看護栄養学部
天使大学大学院　看護栄養学研究科
天使大学大学院　助産研究科

年　報
－自己点検・評価報告書－

2026 年 6 月完成

内部質保証推進委員会

天使大学

〒065-0013 北海道札幌市東区北 13 条東 3 丁目 1 番 30 号

TEL 011-741-1051　FAX 011-741-1077

https://www.tenshi.ac.jp